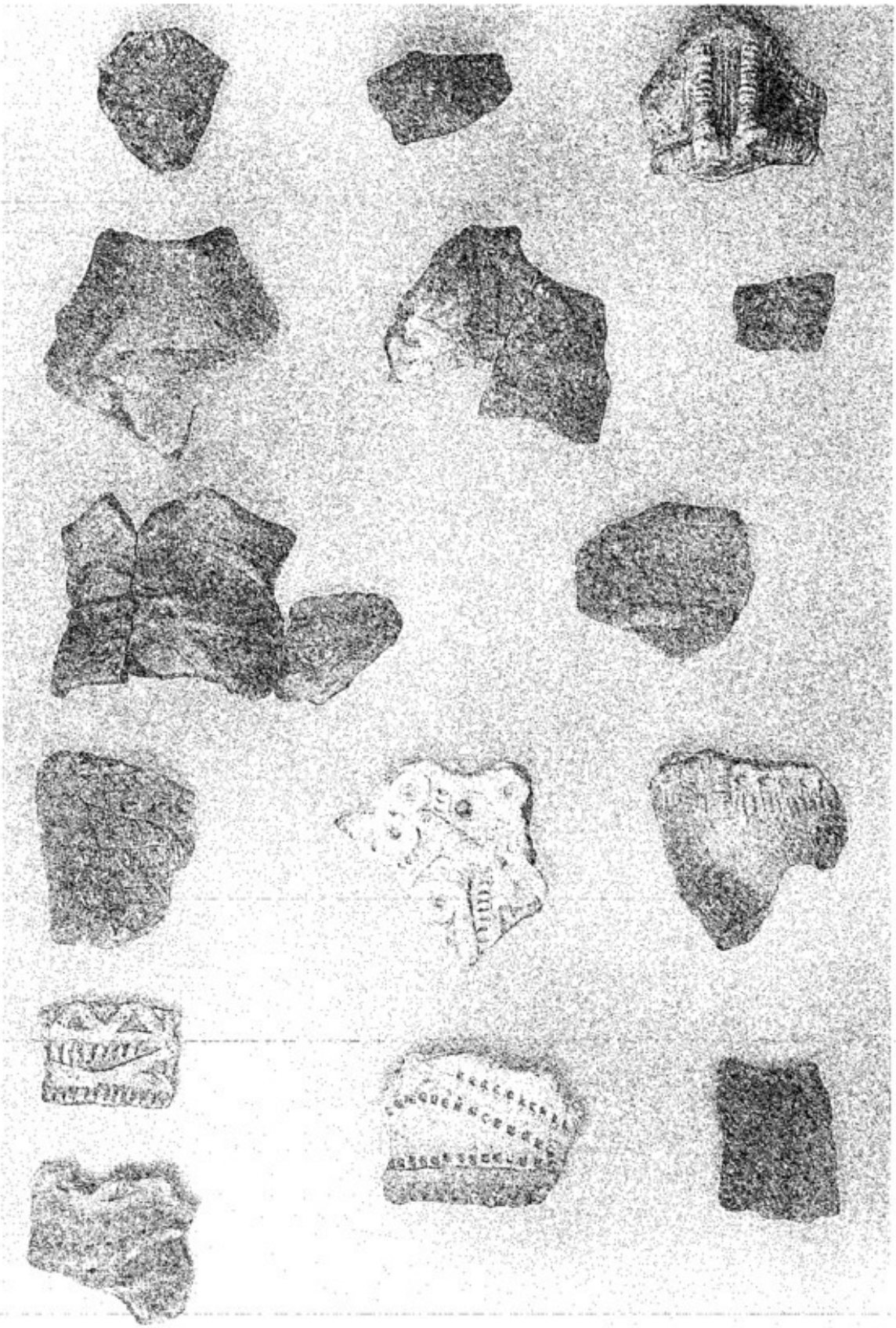
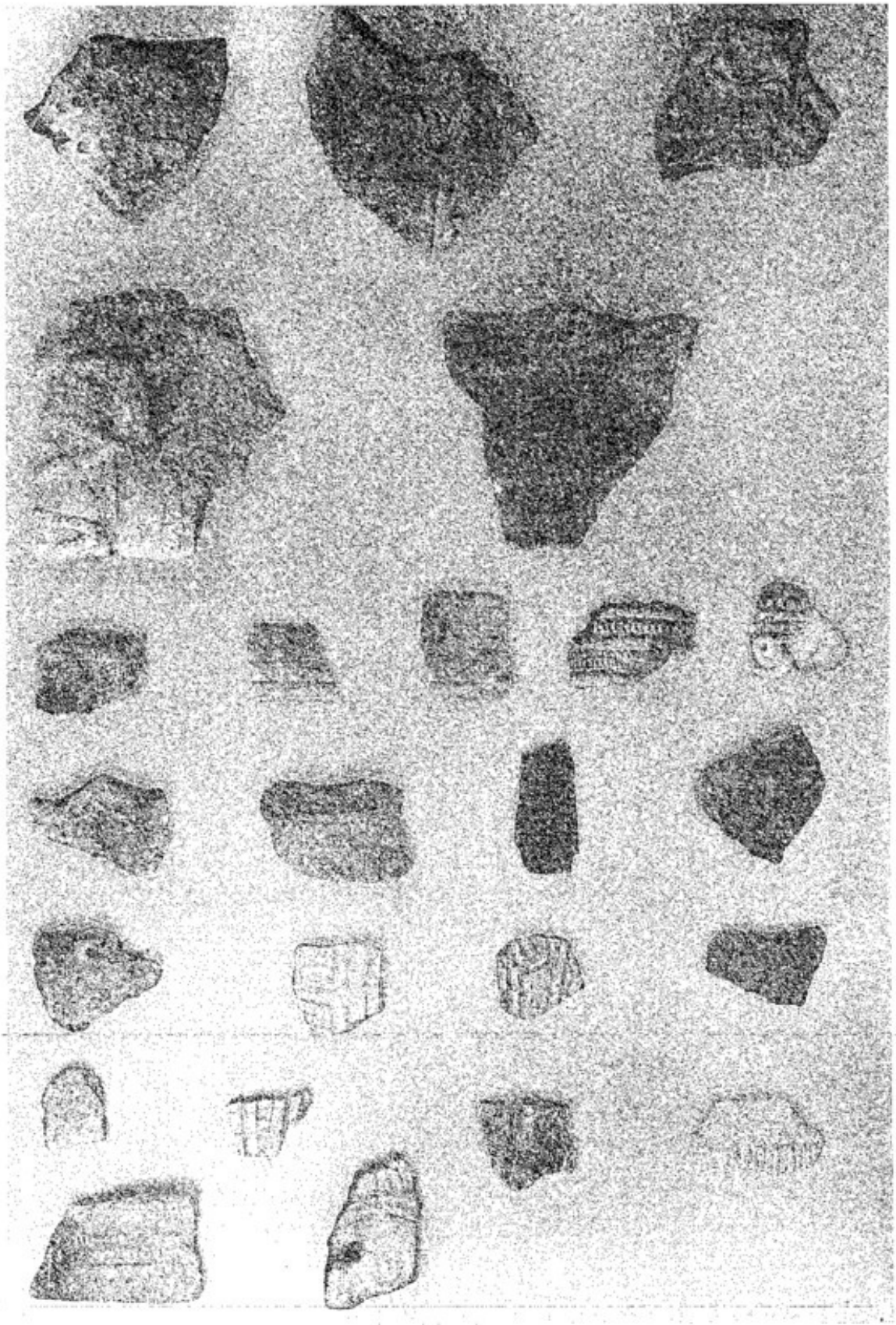
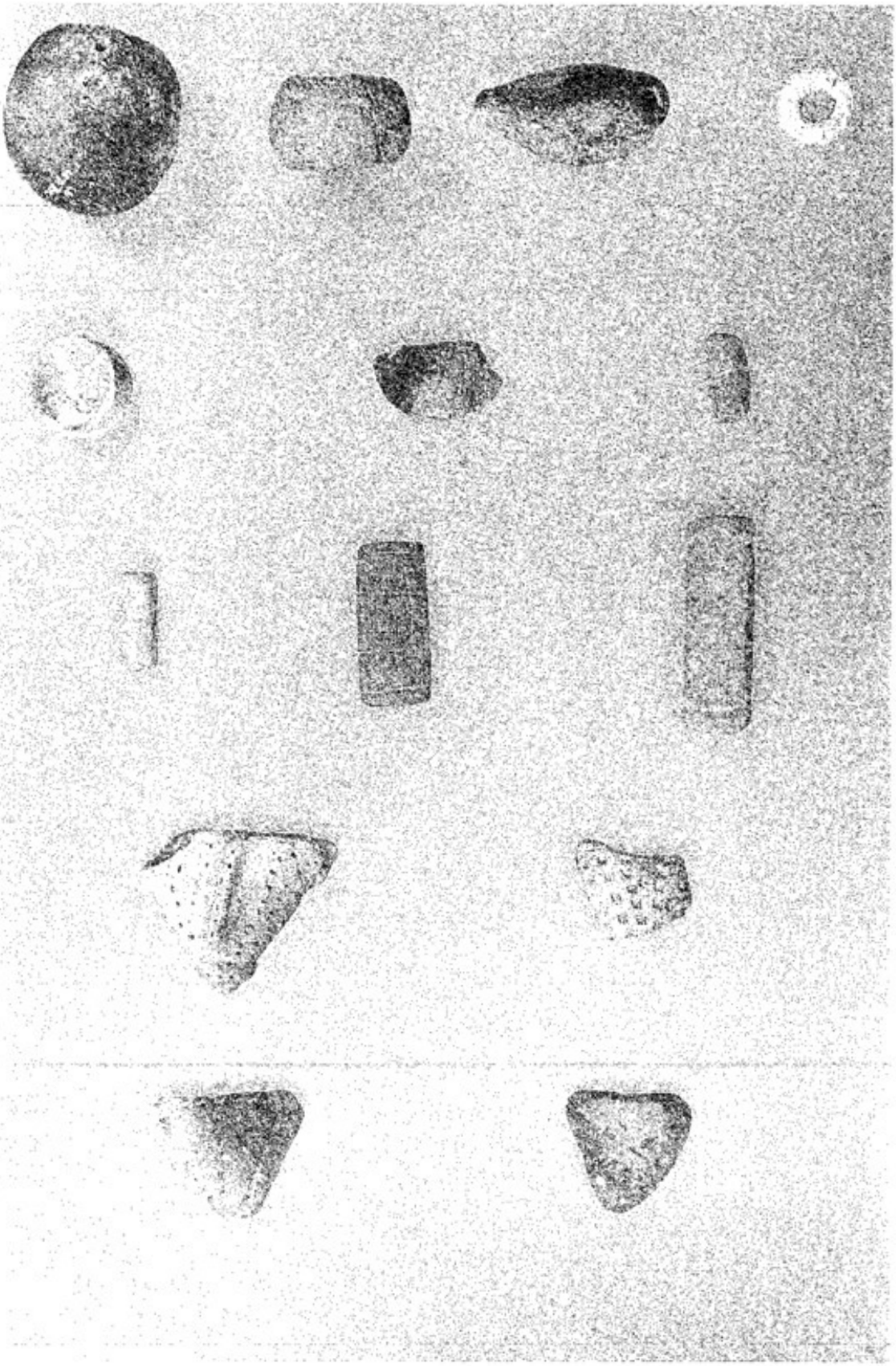


図版94

遺構外出土土器

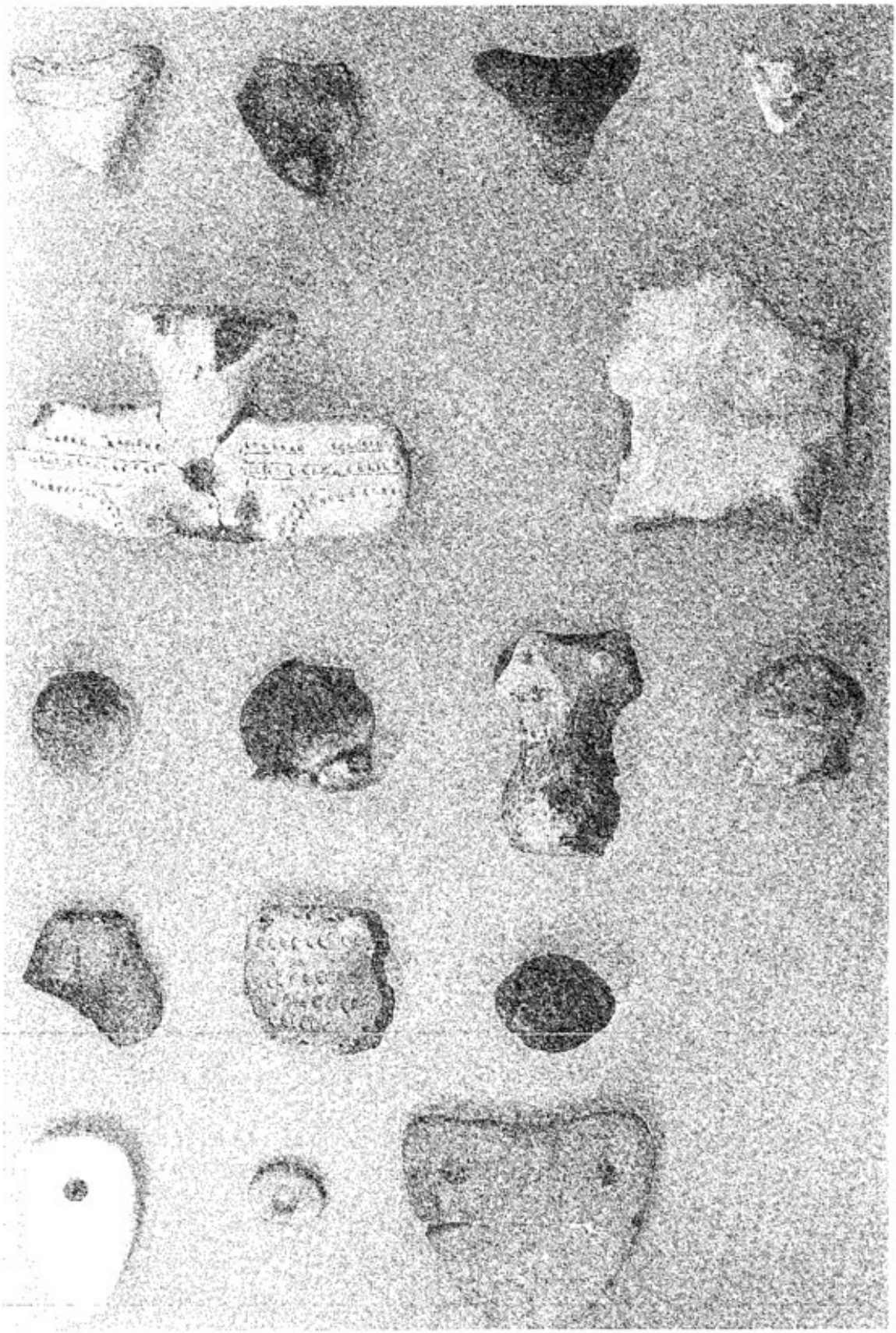


図版95　　遺構外出土土器

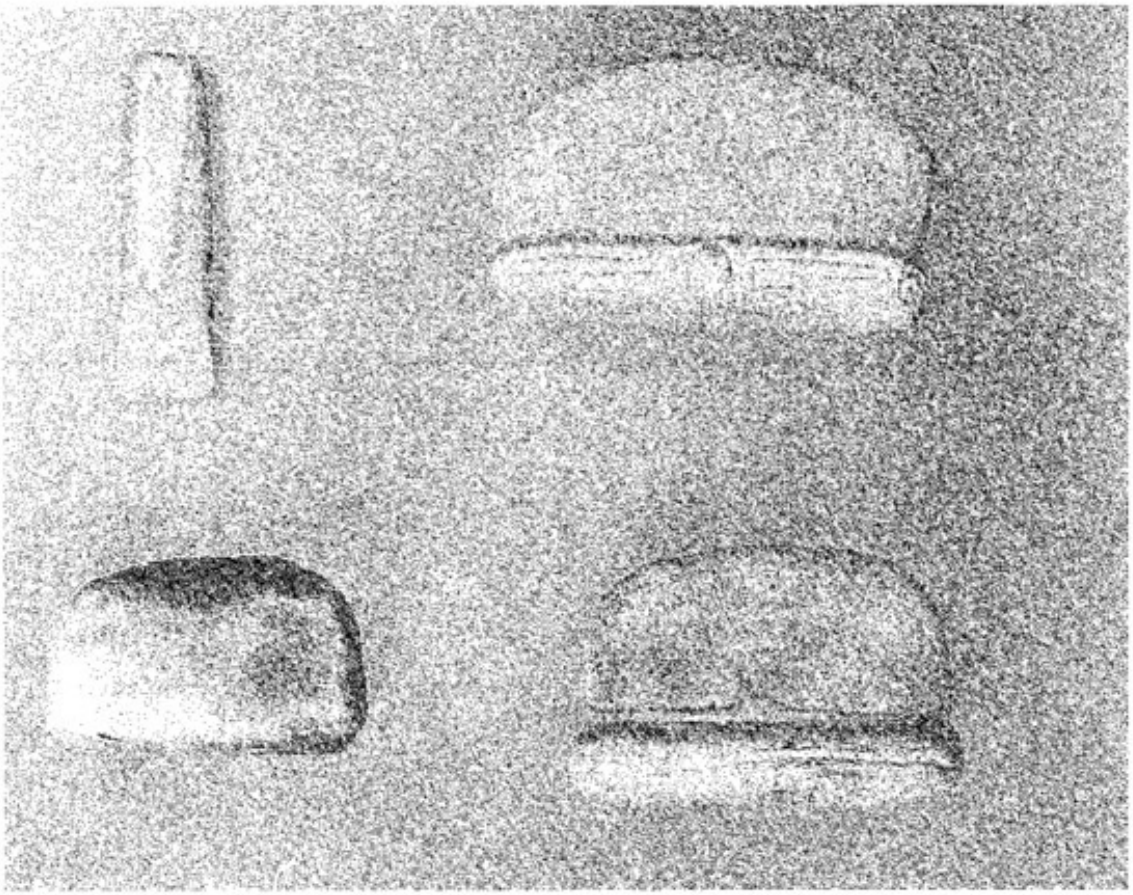


図版96

遺構内・外出土土製品

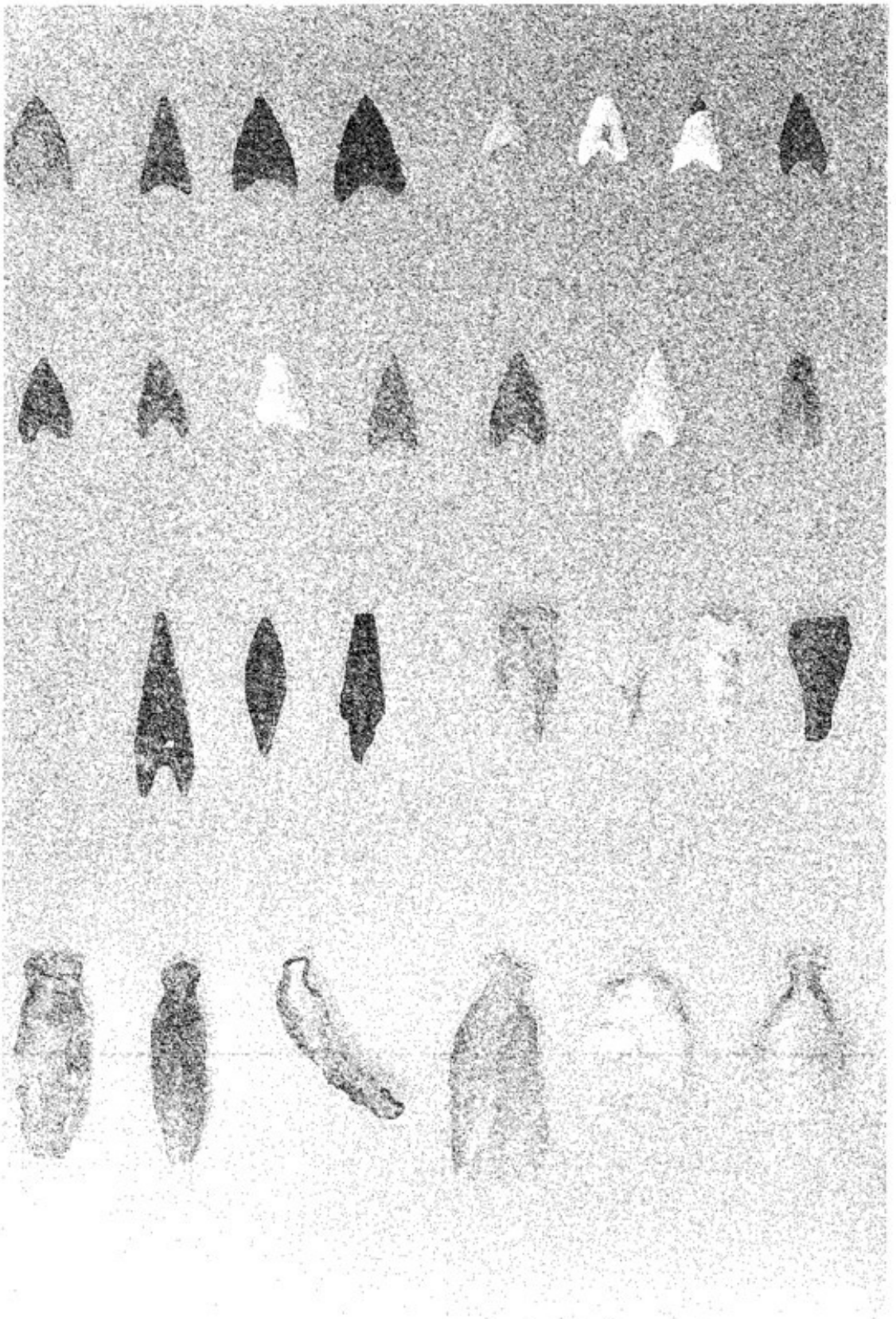


図版97　遺構内・外出土土製品・石製品



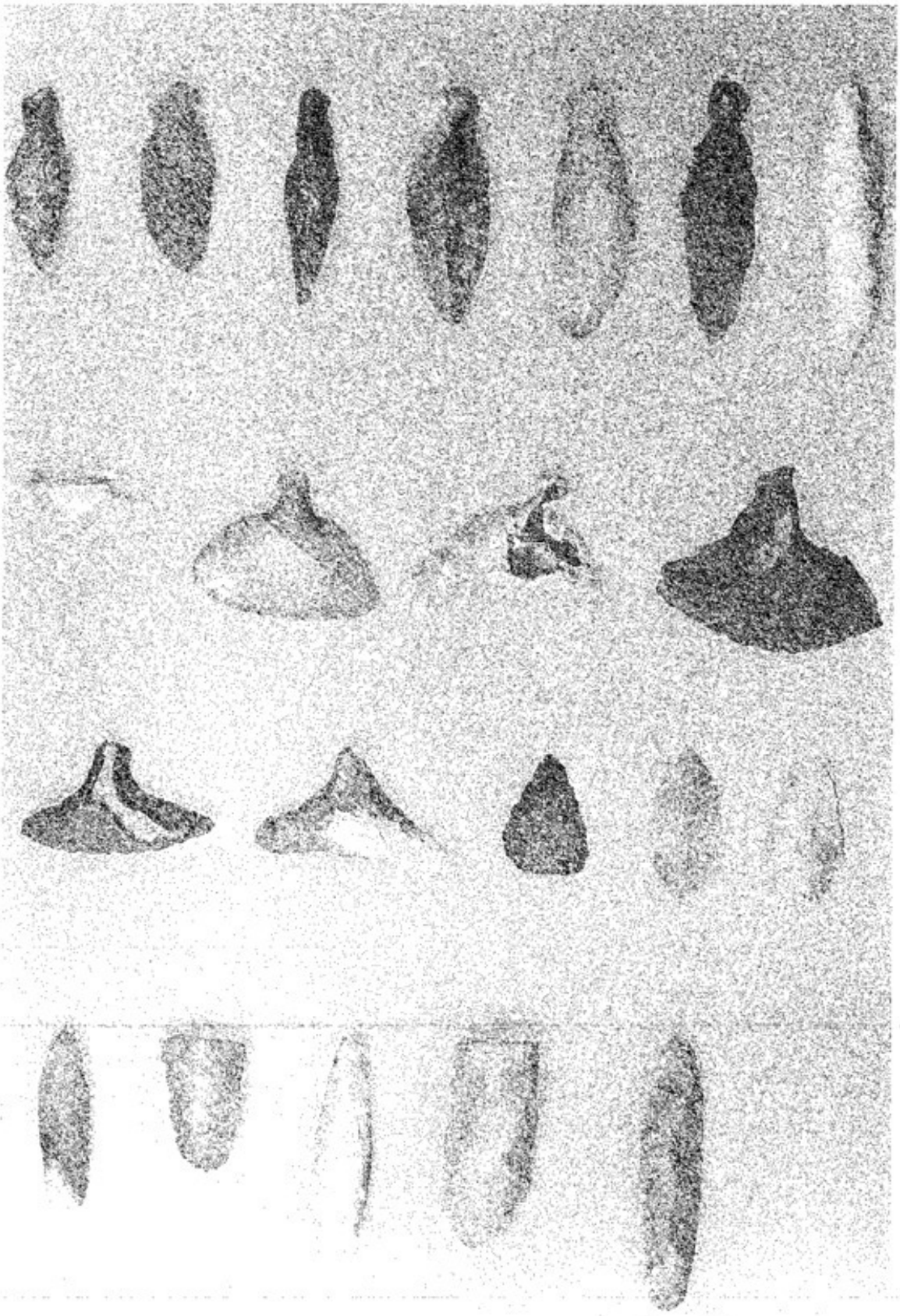
図版98

遺構内・外出土土製品・石製品

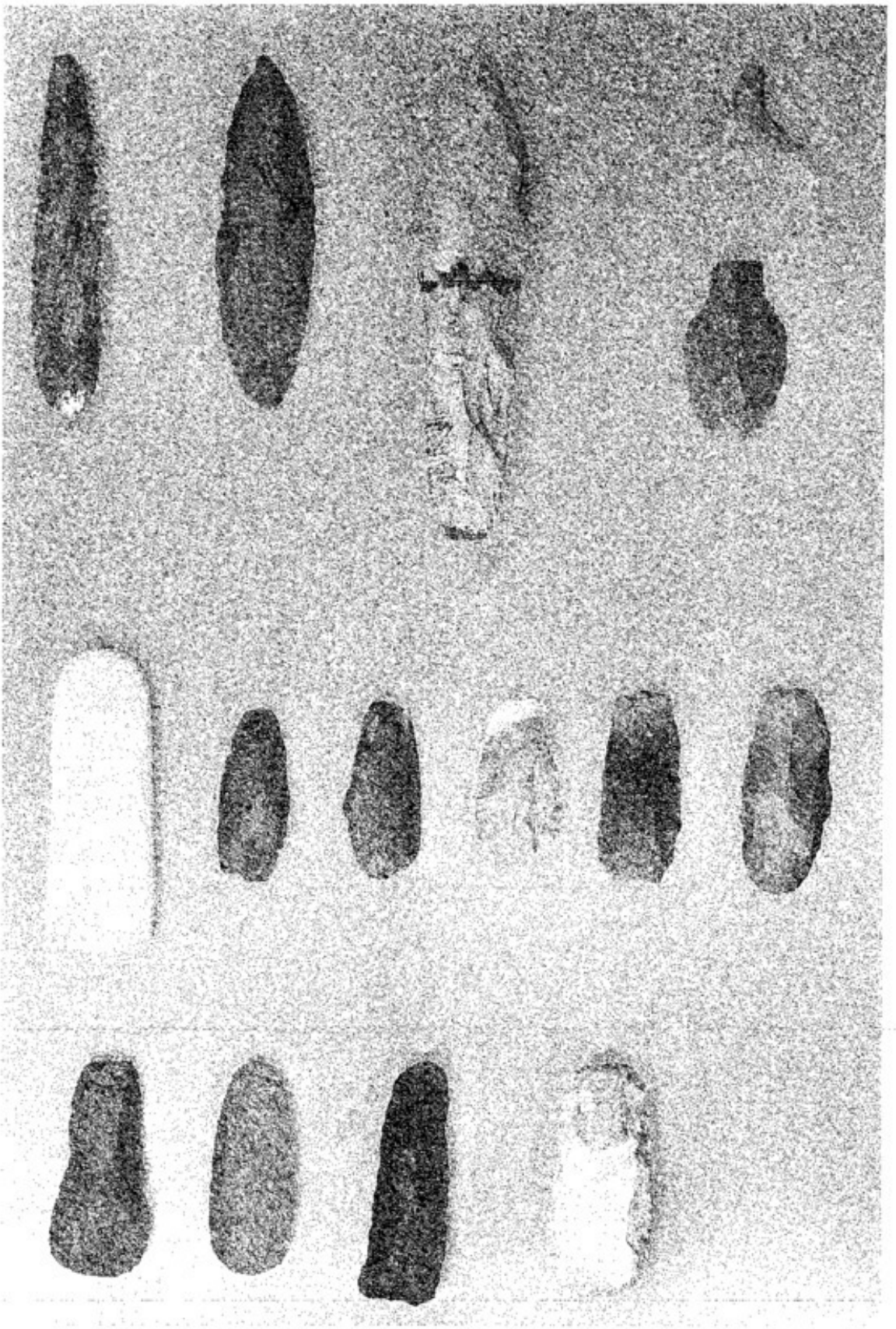


図版99

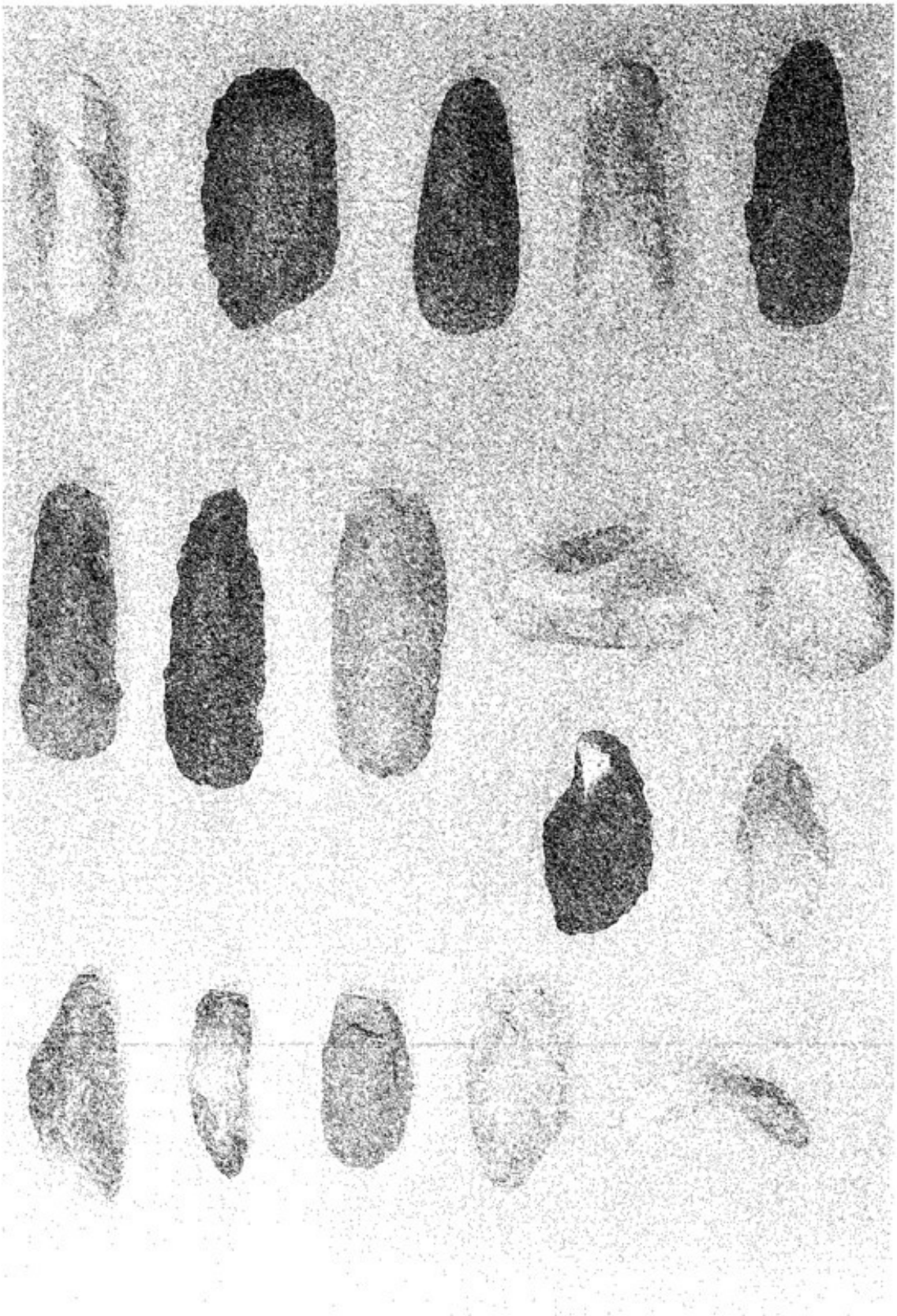
遺構外出土石器



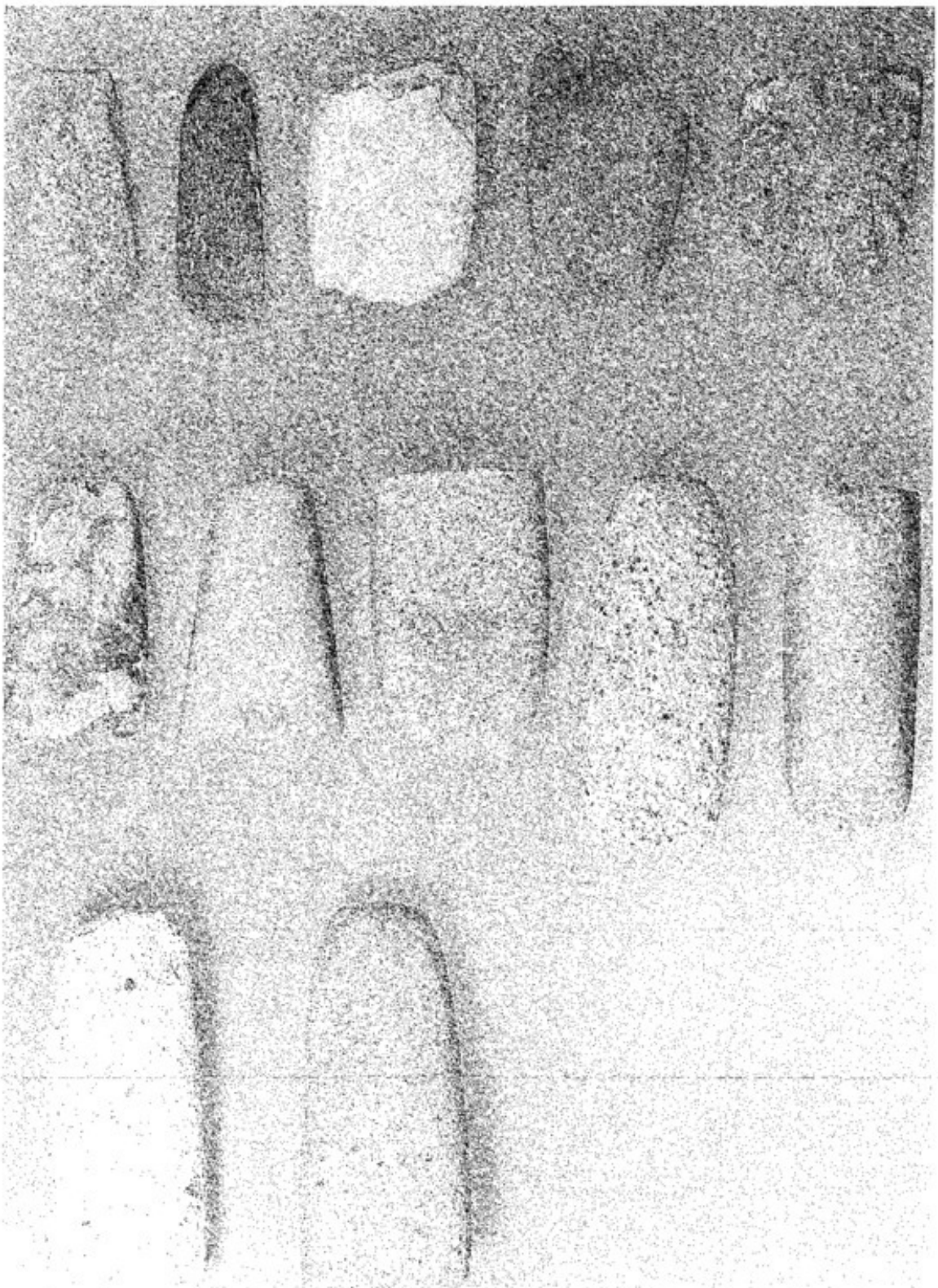
図版100　遺構外出土石器



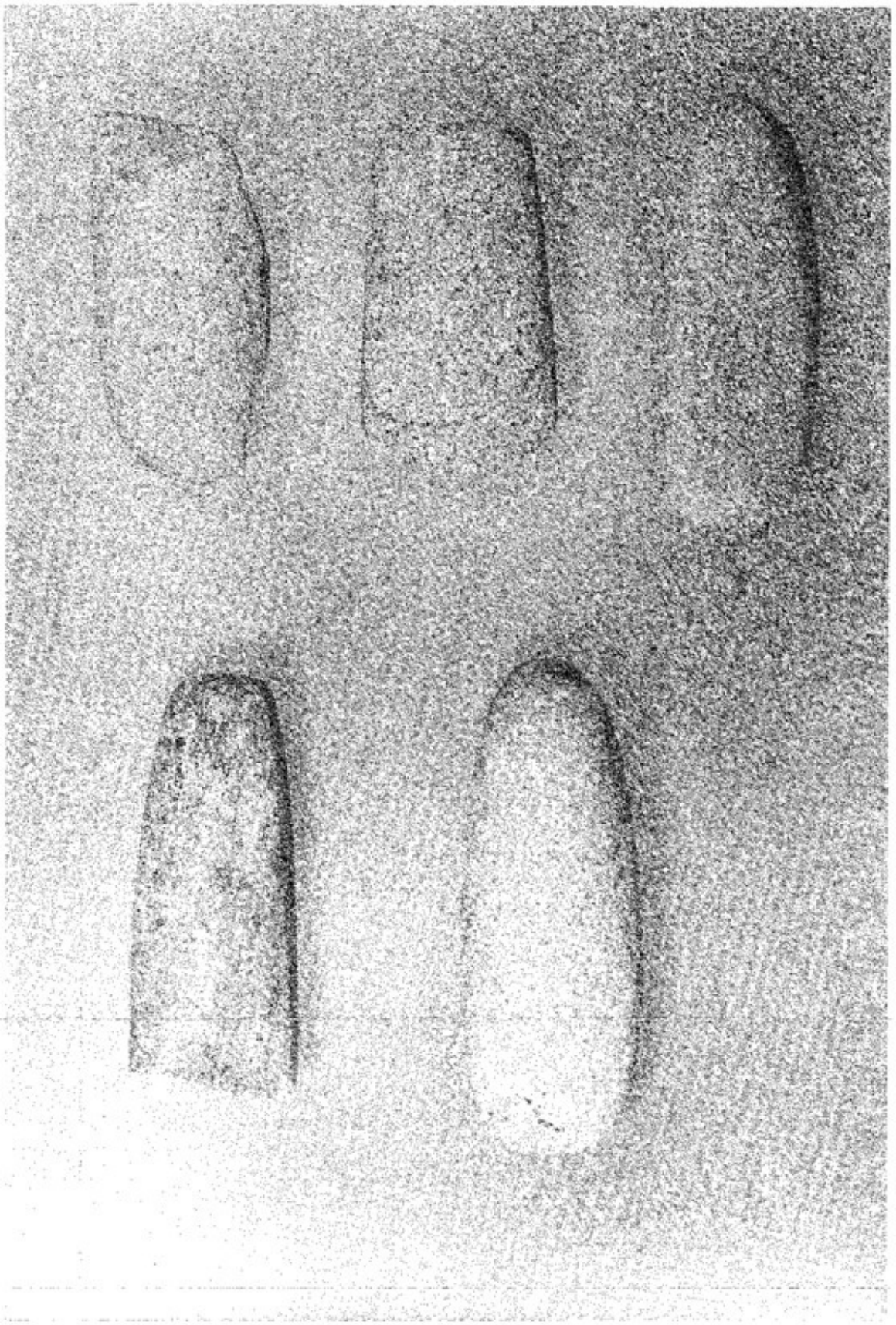
図版101　　遺構外出土石器



図版102　遺構外出土石器

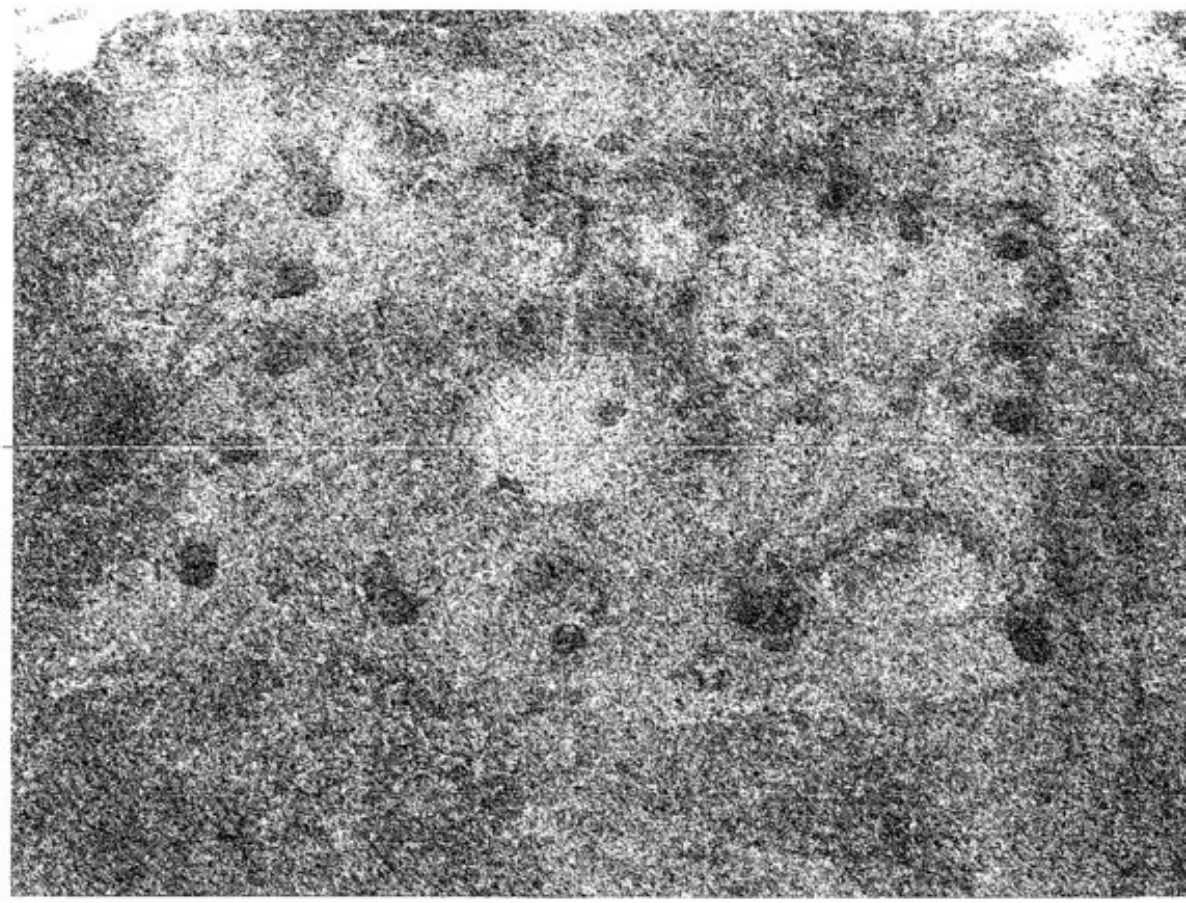


図版103　遺構外出土石器



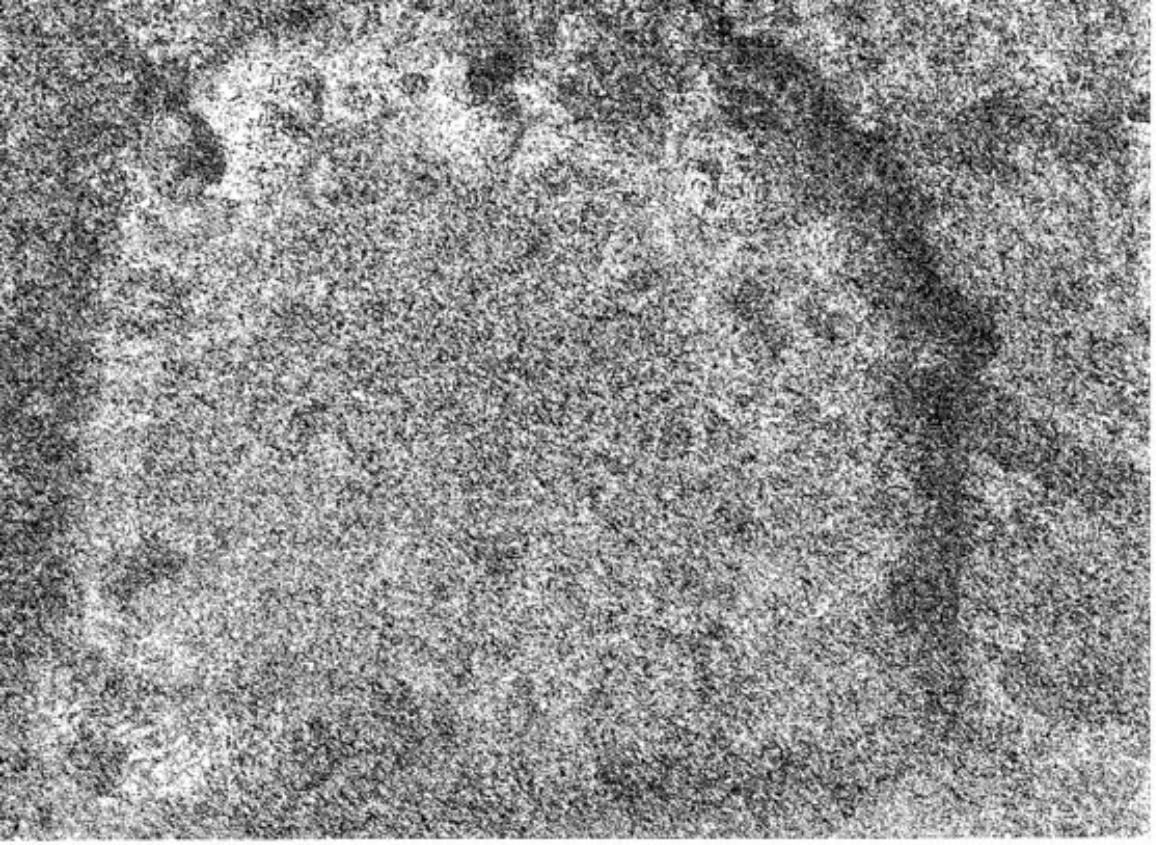
図版104　遺構外出土石器

35号住居跡（北西→）

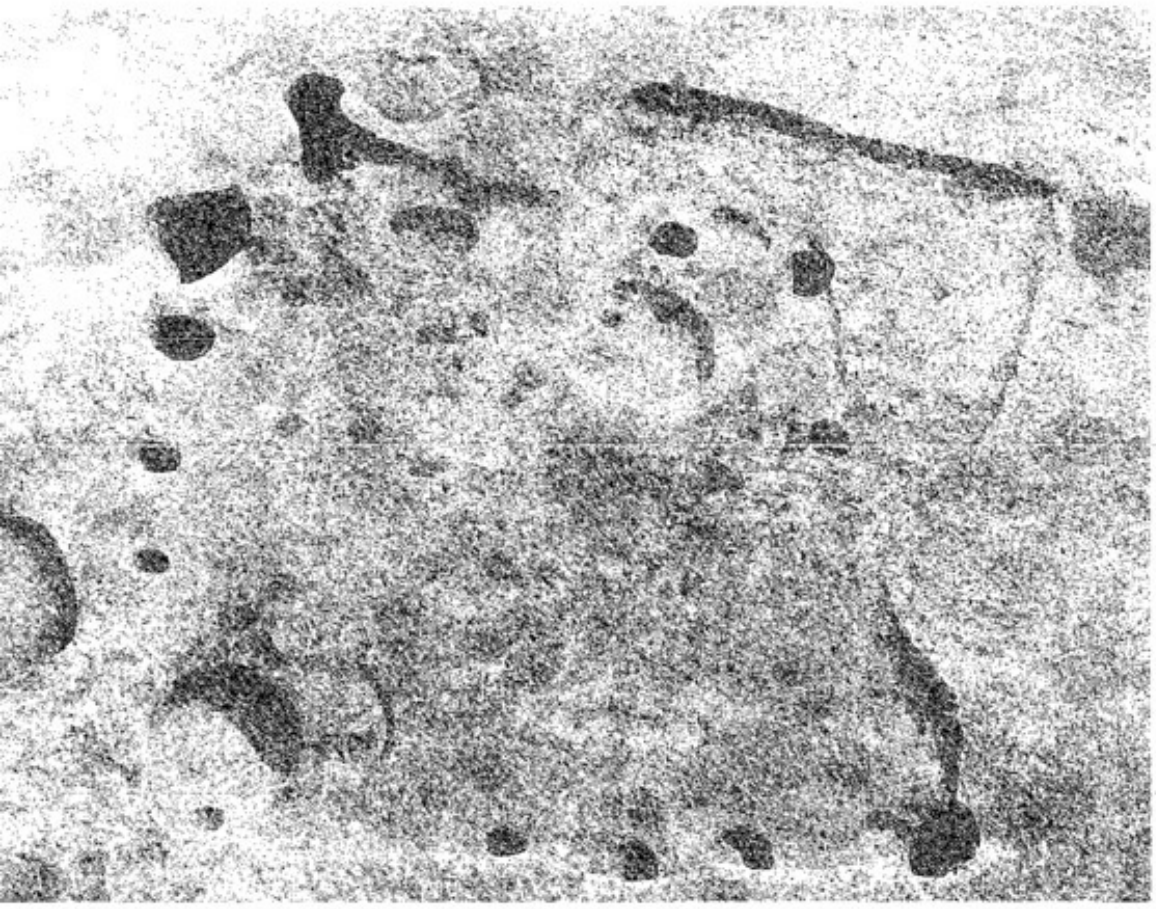


55号住居跡（北西→）

図版105

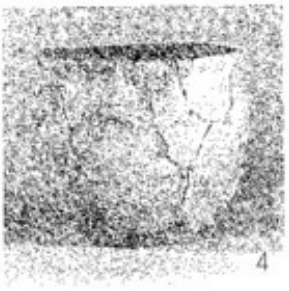


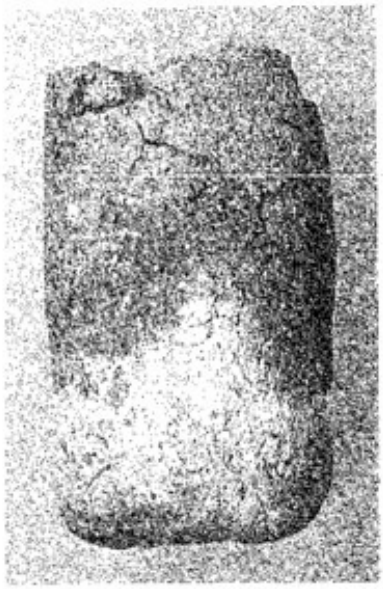
70号住居跡（西→）



78号住居跡（北→）

図版106



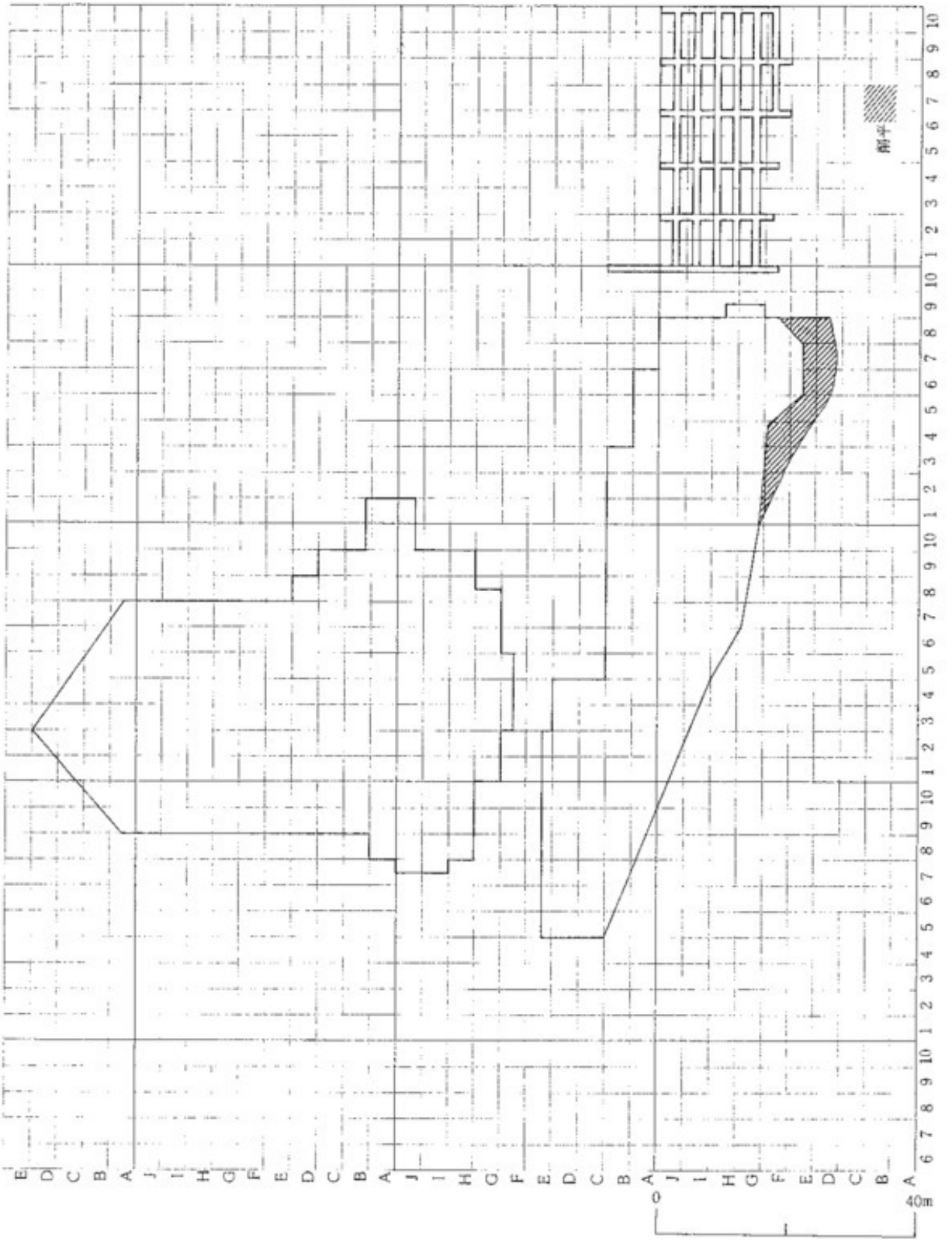


1　70号住居跡
2・3　78号住居跡
4　昭和45年、下堤遺跡出土
5　遺構外、フイゴ羽口

図版107

下堤B遺跡

第1図　遺跡周辺の地形



第2図　グリット配置図

遺跡の概観

御所野台地の北西部、JR東日本奥羽本線四ツ小屋駅から北東へ約1.2㎞の地点である。西と北側から大きな沢が入り込み、4つの突出する舌状部をもつ台地が東から西に延びる。遺跡は東側の地峡部から入り、南西約1.2㎞の最も奥の台地に位置する。標高は約40㎞である。

調査の結果、縄文時代中期末葉の集落跡、平安時代の集落跡を検出した。遺跡の北東約300～400mに「下堤A遺跡」、「下堤C遺跡」が所在する。

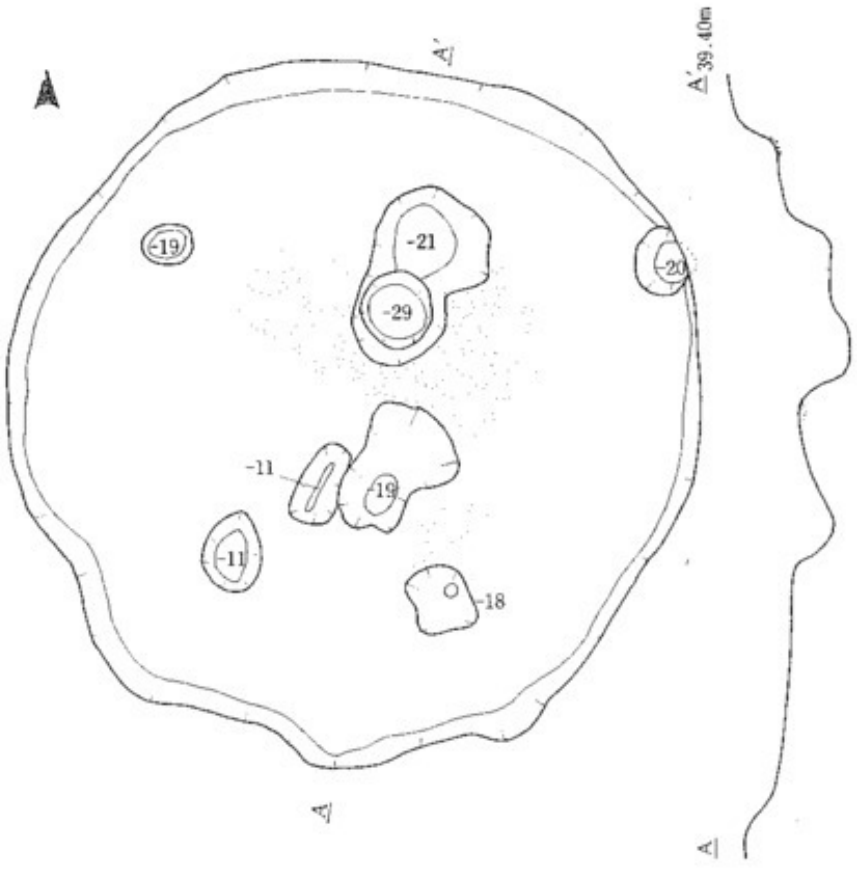
遺構と遺物

縄文時代

1号住居跡（第3図）

調査区の南東部で検出された。昭和47年度下堤遺跡調査でS42J5住居跡としたものを再発掘した。

プランは径約3.4mの円形を呈する。確認面からの深さは約20cmで、壁は斜めに立ち上がる。ピットは炉を中心とした三角形に3個検出され、これが主柱穴と思われる。炉は北側に位置しており前回の調査で土器埋設部と掘り込み部からなり、間に礫が組れる複式炉を検出している。床面は平坦で堅く良好である。



第3図　1号住居跡

0　1m

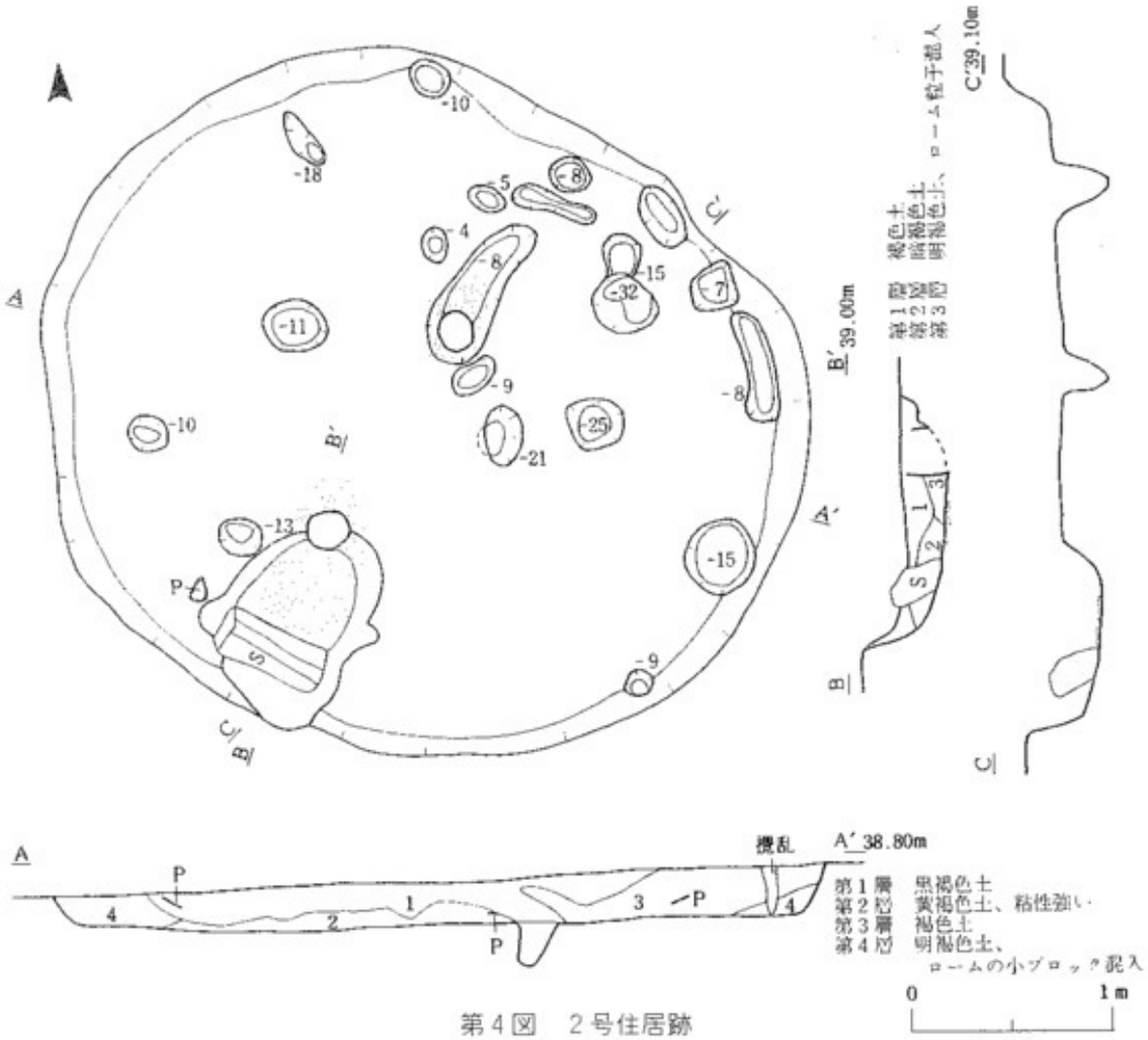
出土遺物

土器（第63図）

60は昭和47度調査で出土した炉埋設土器である。倒立に埋設されていた土器で、口縁部が外反し、胴部が膨らむ深鉢形土器である。沈線区画の磨消帯で「S」字状文を横方向に展開している。地文はLR（縦回転）単節斜縄文である。

2号住居跡（第4図）

調査区の南側で検



第4図　2号住居跡

出された。

プランは長軸3.9 m、短軸3.4 mの楕円形を呈する。確認面からの深さは25 cmで、壁は斜めに立ち上がる。ピットは20個検出されているが配置は不規則である。主柱穴は深さ10 cm以上のピットと思われる。炉は新旧二期検出された。Ⅰ期―古い炉で北東部に位置する。土器埋設部と掘り込み部からなる。上・下半欠損の深鉢形土器が埋設されており、周辺は火熱を受けて赤変している。廃棄後に貼床されている。Ⅱ期―Ⅰ期炉と対峙する南西部に位置する。土器埋設部と掘り込み部からなる。深鉢形土器が埋設され周辺は火熱を受けて赤変している。掘り込み部は壁に接しており、円礫が配されている。床面は平坦で堅く良好である。

出土遺物

土器（第51・65図）

1はⅠ期、2はⅡ期炉の埋設土器である。上半、底部欠損の胴部が膨らむ深鉢形土器である。沈線区画の磨消帯によって曲線的な文様が施されている。地文は1がRL（縦回転）、2はRL（横回転）単節斜縄文である。64～76は覆土から出土した。64～66は口縁部が磨消無文帯で、地文は撚

糸文である。67～73は沈線区画の磨消帯が施される。74～76は磨消帯に円形刺突文が施されている。

石器（第77図）

1・2は覆土から出土した。1は作りの雑な石鏃、2は掻器である。

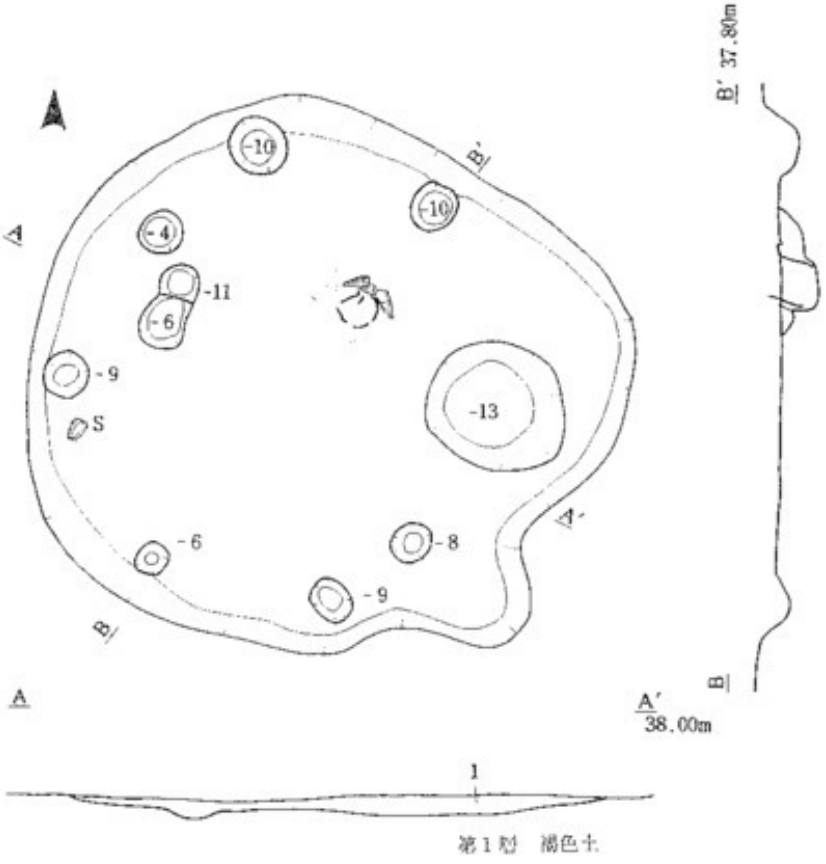
石製品（第77図）

3は覆土から出土した。細長い扁平な礫の両端に両側から孔を穿ったもので、装飾品としての用途が考えられる。

3号住居跡（第5図）

調査区南側中央部で検出された。

プランは長軸2.8m、短軸2.6mの楕円形を呈する。確認面からの深さは5～10cm、壁はわずかに認められ、ゆるく斜めに立ち上がる。ピットは10個検出されており、壁下を円形に周るものが主柱穴と思われる。炉は北東部に位置する。石囲土器埋設炉で、北東側に3個の拳大の礫が認められる。他の礫は抜き取られている。底部欠損の深鉢形土器が埋設され、周辺は火熱を受けて赤変している。床面は平坦であるが軟弱である。



第5図　3号住居跡

出土遺物

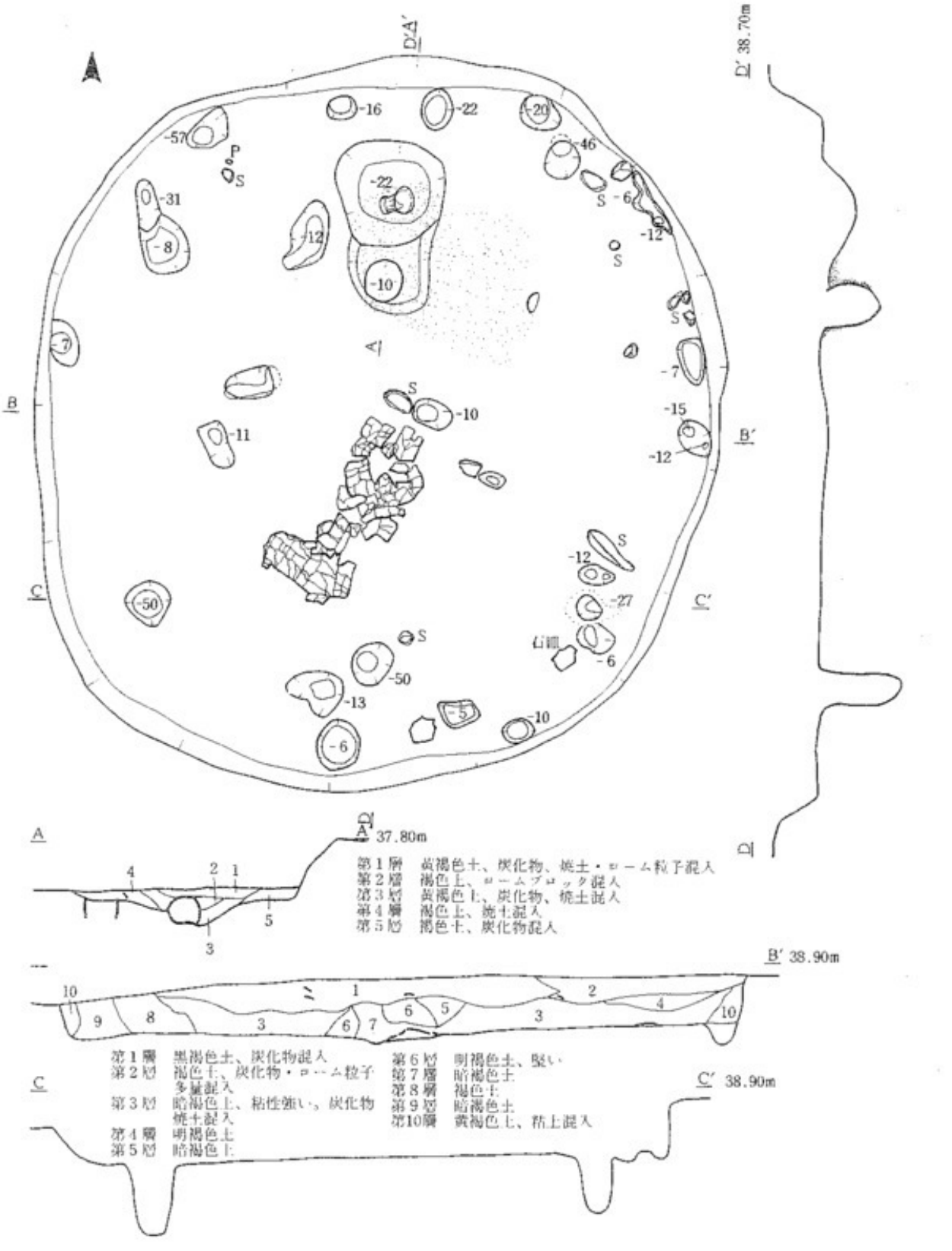
土器（第51図）

3は炉埋設土器である。山形口縁の深鉢形土器である。口縁部は磨消無文帯で頸部から胴部に沈線区画の磨消帯が施される。地文はLR（縦回転）の単節斜縄文である。

4号住居跡（第6図）

調査区南側東部で検出された。

プランは長軸4.8m、短軸4.4mの楕円形を呈する。確認面からの深さは35cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは壁下を中心に大小25個検出されている。主柱穴は等間隔に配された6個と思われる。炉は北側に位置する。土器埋設部と掘り込み部からなる。底部欠損の深鉢形土器が埋設され、周辺は火熱を受けて赤変している。掘り込み部底部から器台が出土した。床面は平坦で堅く


D'A'
D' 38.70m
B
B'
C
C'
A
A' 37.80m
第1層　黄褐色土、炭化物、焼土・ローム粒子混入
第2層　褐色土、ロームブロック混入
第3層　黄褐色土、炭化物、焼土混入
第4層　褐色土、焼土混入
第5層　褐色土、炭化物混入
B' 38.90m
第1層　黒褐色土、炭化物混入
第2層　褐色土、炭化物・ローム粒子多量混入
第3層　暗褐色土、粘性強い、炭化物焼土混入
第4層　明褐色土
第5層　暗褐色土
第6層　明褐色土、堅い
第7層　暗褐色土
第8層　褐色土
第9層　暗褐色土
第10層　黄褐色土、粘土混入
C' 38.90m
0
1m

第6図　4号住居跡

良好である。

出土遺物

土器（第51・65図）

4は炉埋設土器である。口縁部がゆるく外反し、胴部が膨らむ深鉢形土器である。口縁部は磨消無文帯で、頸部から胴部にかけて沈線区画の磨消帯でクランク状の文様が施され、その末端の円文に刺突文を配している。地文はLR（縦回転）単節斜縄文である。5は掘り込み部から出土した器台である。3単位の土器で楕円形の透しを3ヶ所に施して区画し、沈線区画の磨消帯で楕円文が施される。地文はRL（縦回転）単節斜縄文である。77～85は覆土から出土した。77～81は沈線区画の磨消帯によって文様が施される。82～85は磨消帯内に刺突文が施される。

石器（第77・80図）

4～7・48～50は覆土から出土した。4は有茎の石鏃、7は石槍である。いずれも頁岩である。48・49は磨石、50はくぼみ石である。

5号住居跡（第7図）

調査区南側西部で検出された。

プランは径約6.2mの円形を呈する。確認面からの深さは25cmで壁は斜めに立ち上がる。ピットは大小36個検出されている。主柱穴は壁下を周る深さ25cm以上の15個のピットと思われる。炉は二期検出された。Ⅰ期―北側北東壁寄りに位置する。土器埋設部、掘り込み部、浅い掘り込み部からなる。土器埋設部には深鉢形土器の胴部を埋設している。周辺は火熱を受けて赤変している。Ⅱ期―Ⅰ期炉の南に位置する。土器埋設部、掘り込み部、掘り込み部からなる。土器埋設部には深鉢形土器が埋設され、周辺、掘り込み部は火熱を受けて赤変している。Ⅰ・Ⅱ期炉とも二次的な貼床などは認められず新旧関係は不明である。床面は平坦で堅く良好である。

出土遺物

土器（第52・65図）

6はⅠ、7はⅡ期炉埋設土器である。6は口縁部、底部欠損、胴部がゆるく膨らむ深鉢形土器である。沈線区画の磨消帯で「J」字、曲線的な文様が展開する。地文はLR（縦回転）単節斜縄文である。7は口縁部、底部欠損の深鉢形土器である。Rlrの撚糸文である。8は深鉢形土器の胴部で沈線区画の磨消帯で「J」字状に文様が展開する。地文はRlrの撚糸文である。87・88は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯によって文様が施される。

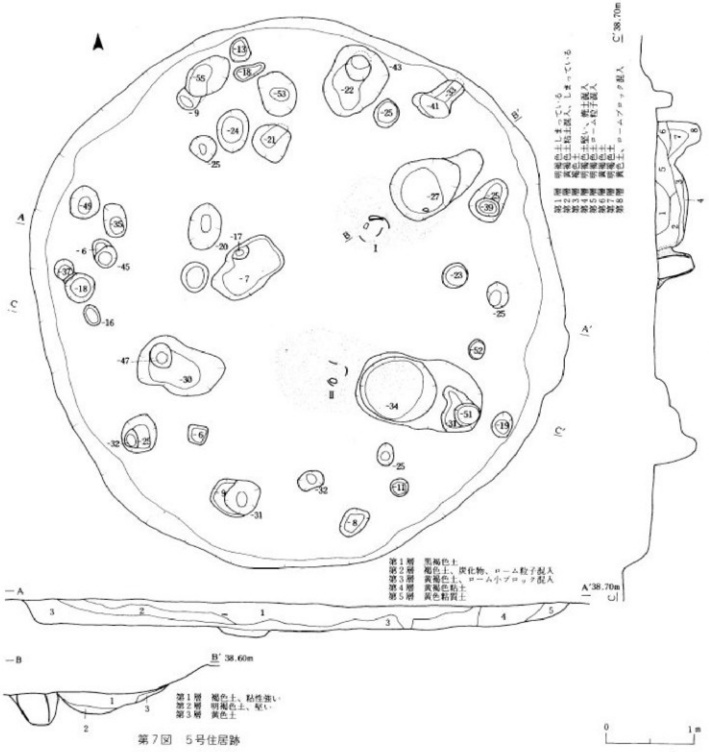
石器（第77・80図）

8・51は覆土から出土した。8は磨製石斧、51は磨石である。

6号住居跡（第8図）

調査区の南端で検出された。

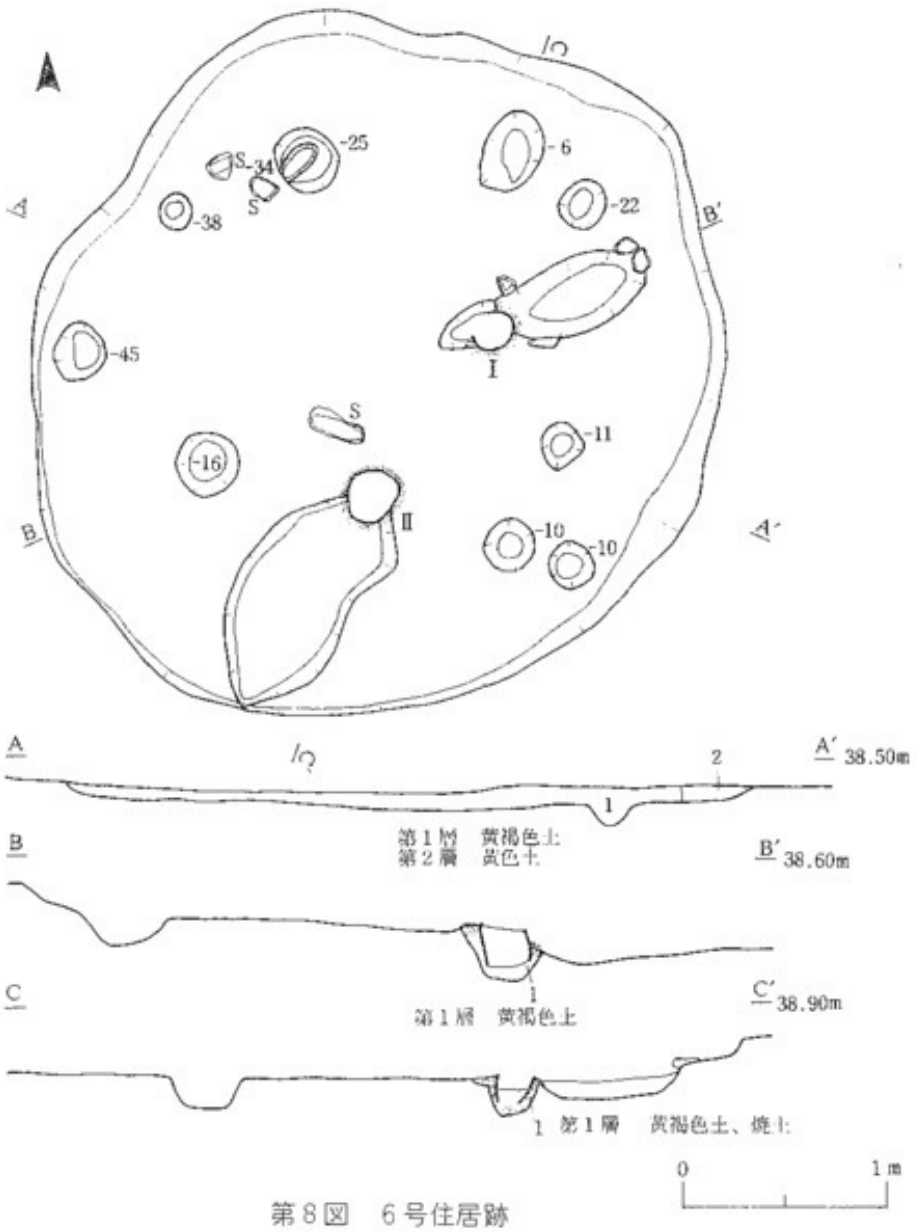
プランは径3.5mの円形を呈する。確認面からの深さは10cmで壁は斜めに立ち上がる。南西部は



第1層　黒褐色土
第2層　褐色土、炭化物、ローム粒子混入
第3層　黄褐色土、ローム小ブロック混入
第4層　黄褐色粘土
第5層　黄色粘質土
A'38.70m
B' 38.60m
第1層　褐色土、粘性強い
第2層　明褐色土、堅い
第3層　黄色土
C'38.70m
0
1m

第7図　5号住居跡

ゆるく傾斜し削平され壁の遺存は不良である。ピットは9個検出されており、主柱穴は掘り方のしっかりした5個である。炉は新旧二期検出された。Ⅰ期—北東部に位置する古い炉である。土器埋設部、掘り込み部からなる。土器埋設部には深鉢形土器の胴部が埋設される。掘り込み部上面には礫が4個認められる。廃棄後貼床されている。Ⅱ期—南東部に位置する。土器埋設部、掘り込み部からなり、壁に接している。埋設土器は、Ⅰ期炉土器の一部を再利用している。床面は平坦であるが軟弱である。



第8図　6号住居跡

出土遺物

土器（第52図）

9はⅠ・Ⅱ期炉埋設土器である。口縁部、底部欠損、胴部が膨らむ深鉢形土器である。沈線区画の磨消帯を「コ」の字状に大きく横方向に展開している。地文はLR（縦回転）単節斜縄文である。

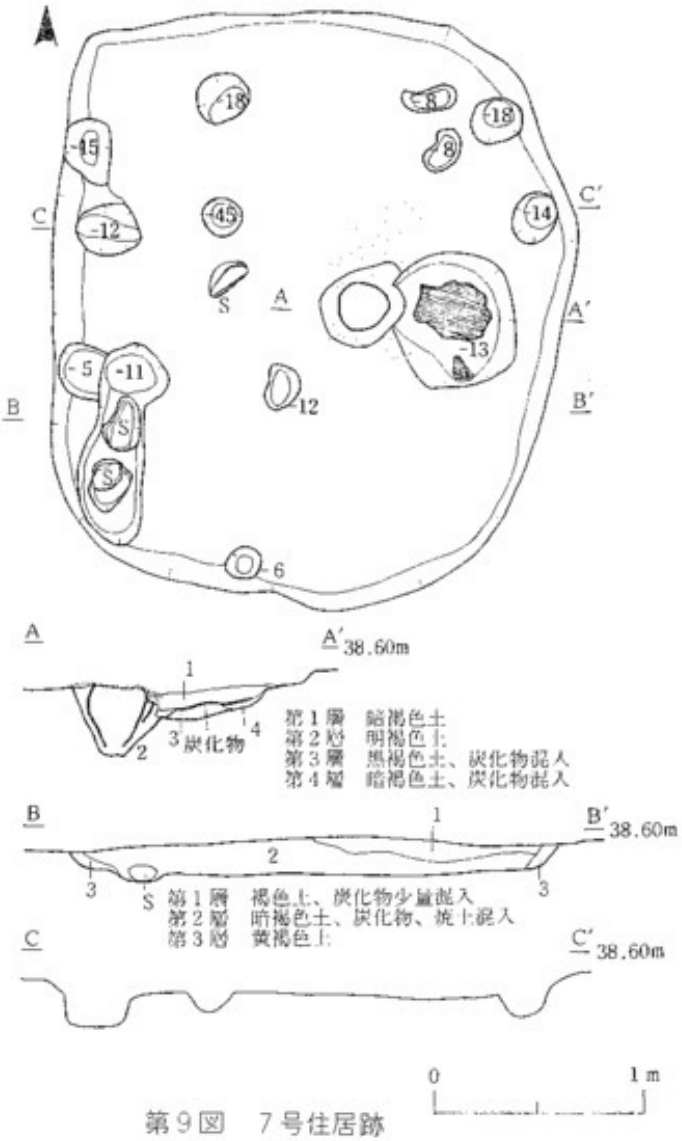
石器（第77図）

9は覆土から出土した磨製石斧である。

7号住居跡（第9図）

調査区南側で検出された。

プランは長軸 2.9 m、短軸 2.5 mの楕円形を呈する。確認面からの深さは 20 cmで壁は斜めに立ち上がる。ピットは 12 個検出されているが主柱穴は不明である。炉は中央東側に位置している。土器埋設部、掘り込み部からなり、土器埋設部には深鉢形土器が埋設されている。掘り込み部内には炭化物・材が多く認められる。周辺は火熱を受けて赤変している。



第9図　7号住居跡

出土遺物

土器（第 52 ・ 66 図）

10 は炉埋設土器である。沈線区画の磨消し帯を横方向に大きく展開し、4 ケ所に楕円文を配し刺突文を施している。地文は RL（斜回転）単節斜縄文である。89 ・ 90 は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯で文様が施されている。

8 号住居跡（第 10 図）

調査区南部で検出された。

プランは径 3.4 mのほぼ円形を呈する。北東部は攪乱で一部壊されている。確認面からの深さは 10 cmで壁は斜めに立ち上がる。ピットは 12 個検出されており、主柱穴は深さ 17 cm以上の 5 個と思われる。炉は中央南東寄りに位置している。土器埋設部、掘り込み部からなり、土器埋設部には深鉢形土器が二重に埋設されている。周辺は火熱を受けて赤変している。床面は平坦で堅く良好である。

出土遺物

土器（第 53 図）

12 ・ 13 は炉埋設土器である。12 は外側の土器で、上半欠損の深鉢形土器である。地文は LR（縦回転）単節斜縄文である。13 は内側の土器で口縁部が外反する深鉢形土器である。口縁部は磨消無文帯で、頸部に一条の沈線が周る。胴部は沈線区画の磨消帯が施されている。地文は LR（縦回転）単節斜縄文である。14 は覆土から出土した丸底を呈する浅鉢形土器である。口縁部に把手がついていた痕跡がみられる。中央に円形刺突文が配され、体部には沈線区画の磨消帯で「J」字状に文様が

施される。

9号住居跡（第11図）

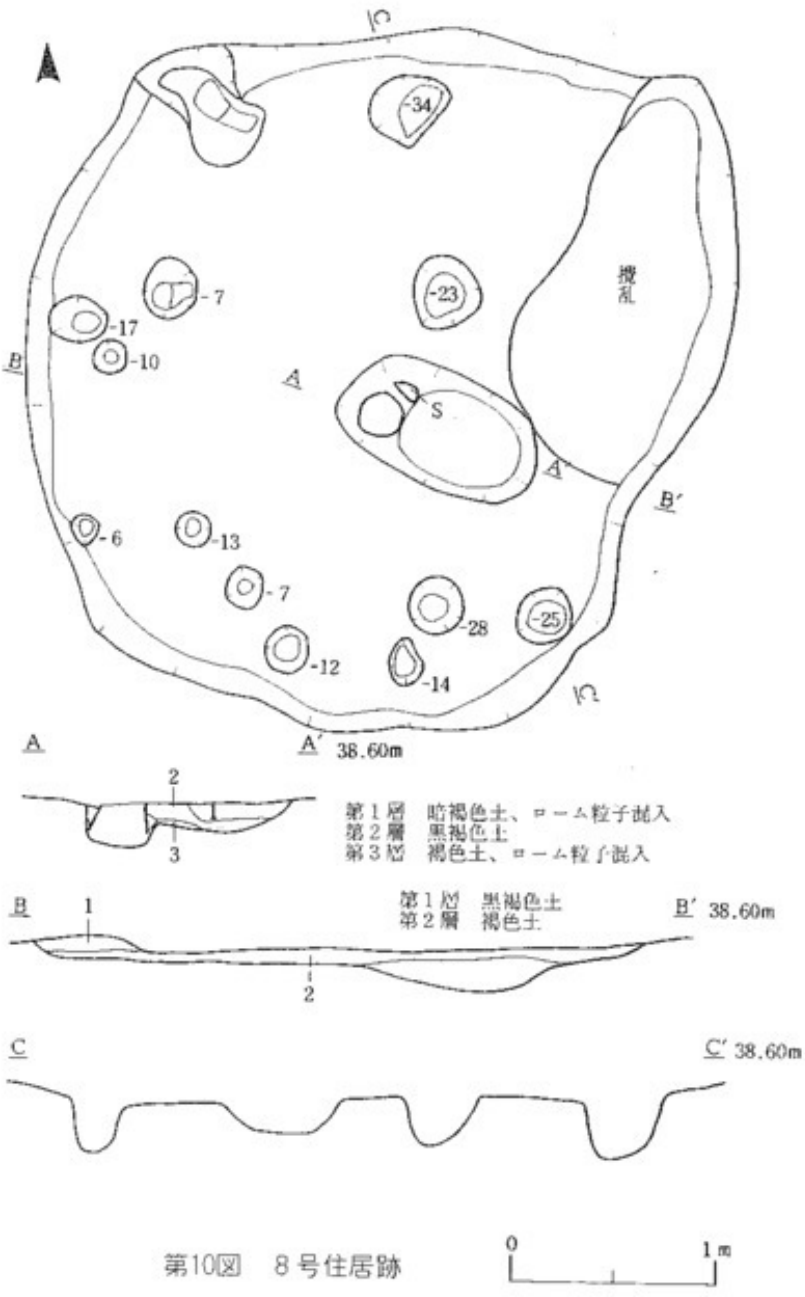
調査区南側西端部で検出された。

プランは長軸3.4 m、短軸2.9 mの楕円形を呈する。確認面からの深さは15 cmで壁は斜めに立ち上がる。ピットは6個検出されているが主柱穴は不明である。炉は不明であるが、中央部に少量焼土が認められる。床面は平坦であるが軟弱である。出土遺物はまったく認められなかった。

10号住居跡（第12図）

調査区中央南側で検出された。

プランは径3.0 mの円形を呈する。東壁は攪乱により壊されている。確認面からの深さは17 cmで壁は斜めに立ち上がる。ピットは大小12個が不規則に検出されているが、主柱穴は不明である。炉は南東部に位置している。土器埋設部、石組掘り込み部からなる。土器埋設部には深鉢形土器胴部を埋設している。石組掘り込み部の側壁には礫が組まれているが、一部抜き取られている。周辺は火熱を受けて赤変している。床面は平坦で堅く良好である。



第10図　8号住居跡

出土遺物

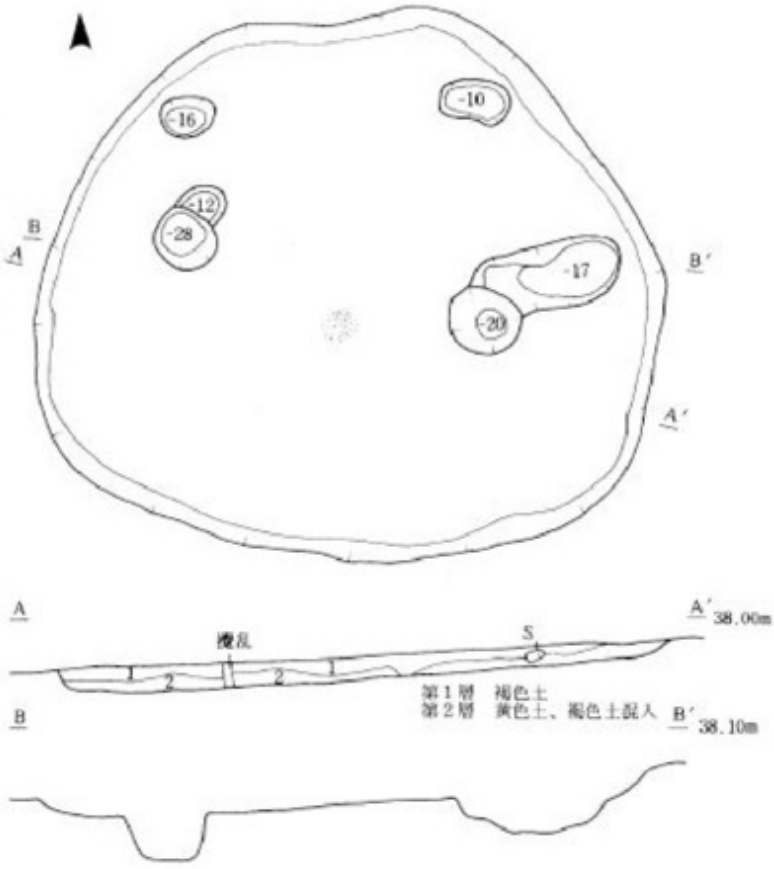
土器（第53・66図）

15は炉埋設土器である。口縁部、底部欠損の深鉢形土器である。頸部に一条の沈線が周る。RL（縦回転）単節斜縄文である。9は覆土から出土した土器片である。

11号住居跡（第13図）

調査区中央西端部で検出された。

プランは長軸3.8 m、短軸2.7 mの楕円形を呈する。確認面からの深さは15 cmで壁は斜めに立ち上がる。ピットは壁下に沿って9個検出されている。炉は南側に位置している。浅い掘り込み内に火熱による焼土が全体に認められる。地床炉と思われる。床面は若干凹凸があり軟弱である。



第11図　9号住居跡

出土遺物

土器（第66図）

92～103は覆土から出土した。92～94・97～103は沈線区画の磨消帯を施すもので、95・96は磨消帯に刺突文が施されている。

石器（第80図）

52は覆土から出土した磨石である。

12号住居跡（第14図）

調査区中央部で検出された。

プランは径3.2 mのほぼ円形を呈する。北西部は2号土壙が掘り込まれ壊されている。確認面からの深さは14 cmで壁は斜めに立ち上がる。ピットは大小18個検出され主柱穴は壁下をめぐる深さ15 cm以上の8個と思われる。炉は東側に位置する。石囲土器埋設部と掘り込み部からなる。石囲土器埋設部には上部欠損の深鉢形土器が斜めに埋設されている。また石囲の礫は、掘り込み部との境にある2個が特に大きい。周辺は火熱を受けて赤変している。床面は若干凹凸があるが堅く良好である。

出土遺物

土器（第53図）

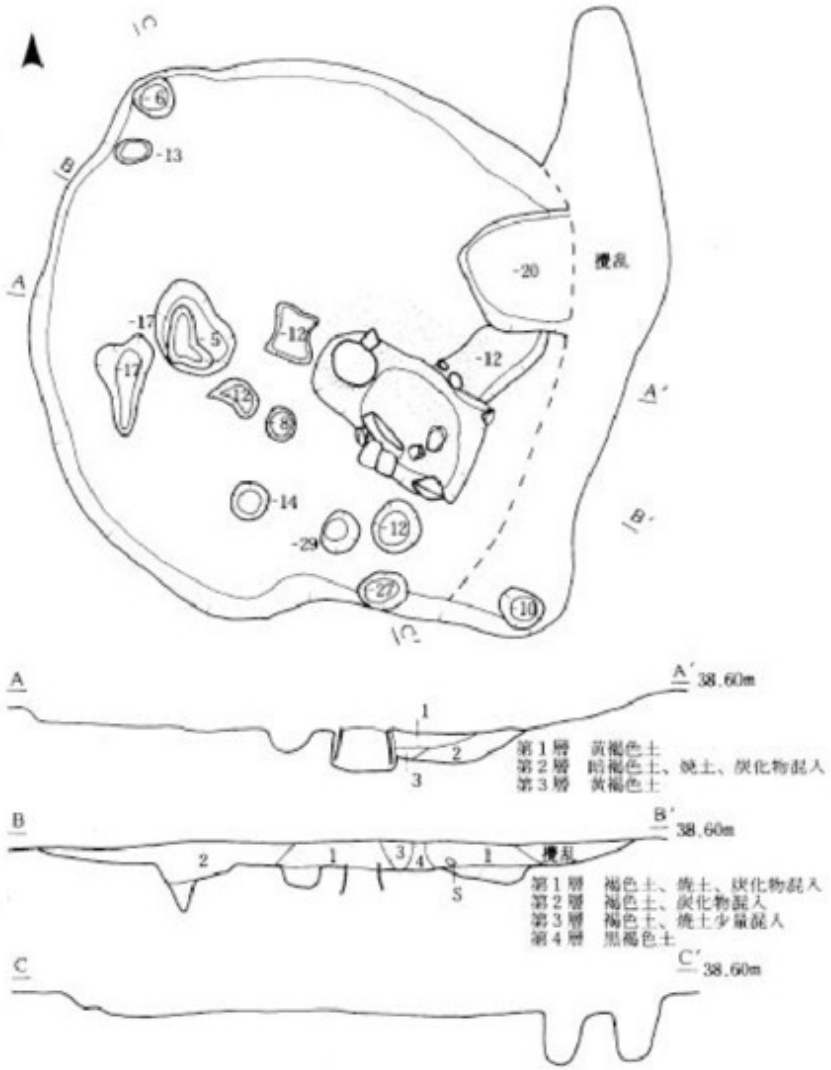
16は炉埋設土器である。上部欠損の深鉢形土器で胴部に沈線区画の磨消帯で文様が施される。地

文はRL（縦回転）単節斜縄文である。上部は二次北熱を受けて赤変し、もろい。

13号住居跡（第15図）

調査区の中央部で検出された。

プランは径2.3mの円形を呈する。確認面からの深さは12cmで壁は斜めに立ち上がる。ピットは北西部に4個検出されているが主柱穴については不明である。炉は東側に位置している。土器埋設部と掘り込み部からなり、東側に接する。土器埋設部には上半欠損の深鉢形土器を埋設し、掘り込み部との境には礫を組んでいる。周辺は火熱を受けて赤変している。床面はほぼ平坦で堅く良好である。



第12図　10号住居跡

出土遺物

土器（第54図）

17は上半・底部欠損の炉埋設土器である。地文はL化の撚糸文である。

14号住居跡（第16図）

調査区中央部で検出された。西側半分は昭和47年度に調査されたS33J10A・B住居跡で、A住居跡の炉は完掘されている。今回はB住居跡の東半分が明らかになり14号住居跡とした。

プランは径3.3mの不整円形を呈する。確認面からの深さは14cmで壁は斜めに立ち上がる。ピットは8個検出され、主柱穴は壁下を周る6個と思われる。炉は東側に位置している。土器埋設部と

掘り込み部からなり、土器埋設部には口縁部、底部欠損の深鉢形土器が埋設され、周辺は火熱を受けて赤変している。床面は平坦で堅く良好である。

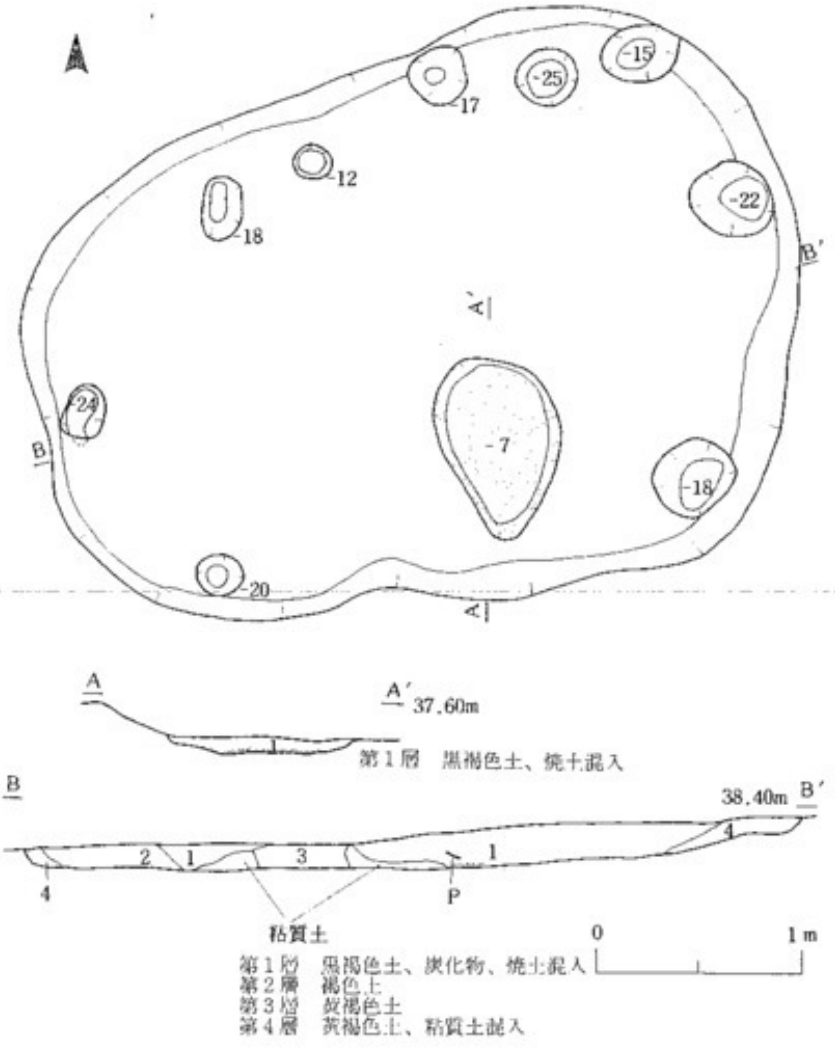
出土遺物

土器（第54・66図）

18は炉埋設土器で口縁部、底部欠損の深鉢形土器である。地文はLR（縦回転）単節斜縄文である。上部は二次火熱で赤変している。104～107は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯で文様を施している。

石器（第77図）

12は覆土から出土した縦型石匙である。石質は頁岩である。



第13図　11号住居跡

15号住居跡（第17図）

調査区中央部で検出された。

プランは径4.4mの円形を呈する。確認面からの深さは25cmで壁は斜めに立ち上がる。南西部は攪乱のため一部壊されている。ピットは33個検出されており、主柱穴は壁下を周る深さ30cm以上のものと思われる。炉は東側に位置し、新旧二期検出された。I期—北東に位置する古い炉である。土器埋設部と掘り込み部からなる。土器埋設部には口縁部、底部欠損の深鉢形土器が埋設され、周辺は火熱を受けて赤変している。廃棄後にきれいに貼床されている。II期—I期炉の南東に位置する。土器埋設部と掘り込み部からなり深鉢形土器が埋設されている。周辺は火熱を受けて赤変している。床面は凹凸があるが堅く良好である。

出土遺物

土器（第54図）

19はI期炉埋設土器である。口縁部、底部欠損の深鉢形土器で地文はRlrの撚糸文である。

16号住居跡（第18図）

調査区中央部で検出された。

プランは径 2.6 m のほぼ円形を呈する。確認面からの深さは 10 cm で壁は斜めに立ち上がる。ピットは 16 個検出されており壁下に沿って周るものが多い。主柱穴は不明である。炉は 9 号土壙によって壊されており不明であるが、火熱を受けて赤変する箇所が認められる。床面は平坦であるがやや軟弱である。

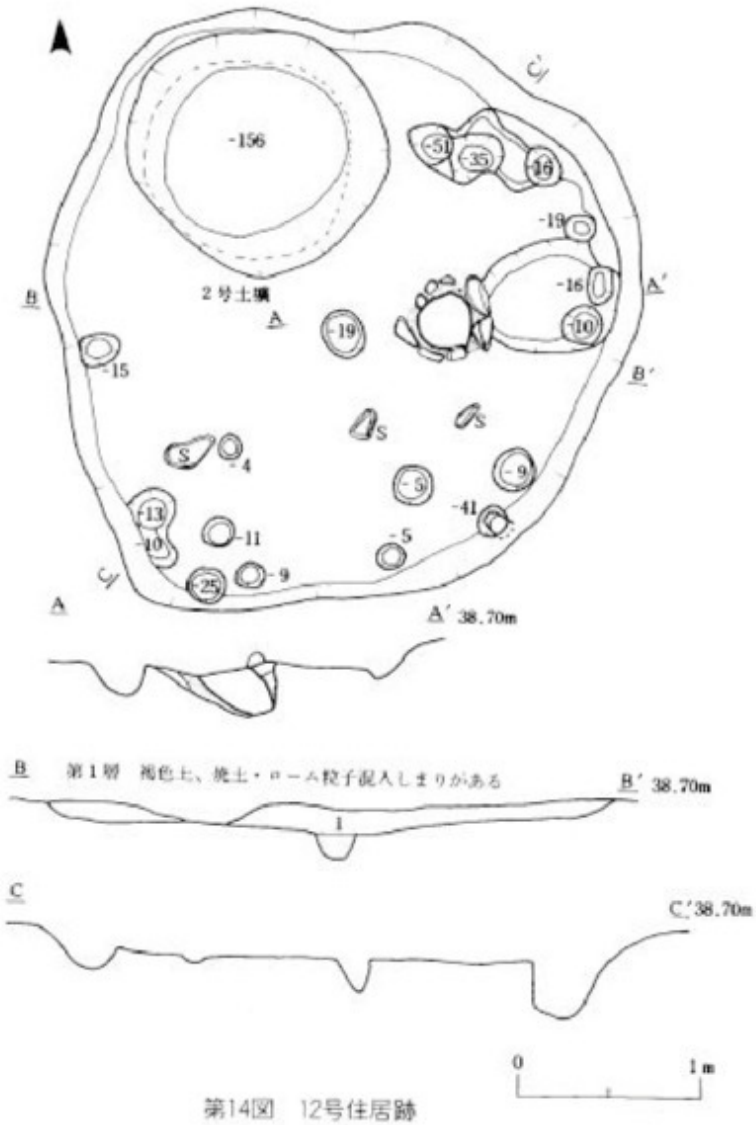
出土遺物

土器（第 66 図）

108 ・ 109 は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯によって文様が施されている。

石器（第 77 図）

13 は覆土から出土した縦型石匙である。石質は頁岩である。



第14図　12号住居跡

17 号住居跡（第 19 図）

調査区中央東側で検出された。

プランは長軸 6.5 m、短軸 6 m の不整楕円形を呈する。土取りの攪乱のため覆土が削られ、一部壁が壊されている。確認面からの深さは 15 cm で壁は斜めに立ち上がる。ピットは 31 個検出されており、主柱穴は深さ 30 cm 以上の 11 個と思われる。炉は南側に位置している。土器埋設部と掘り込み部からなるが、掘り込み部の大半は 11 号土壙に壊されている。土器埋設部には胴部の膨らむ深鉢形土器が埋設されている。周辺は火熱を受け赤変している。床面は平坦で堅く良好である。

出土遺物

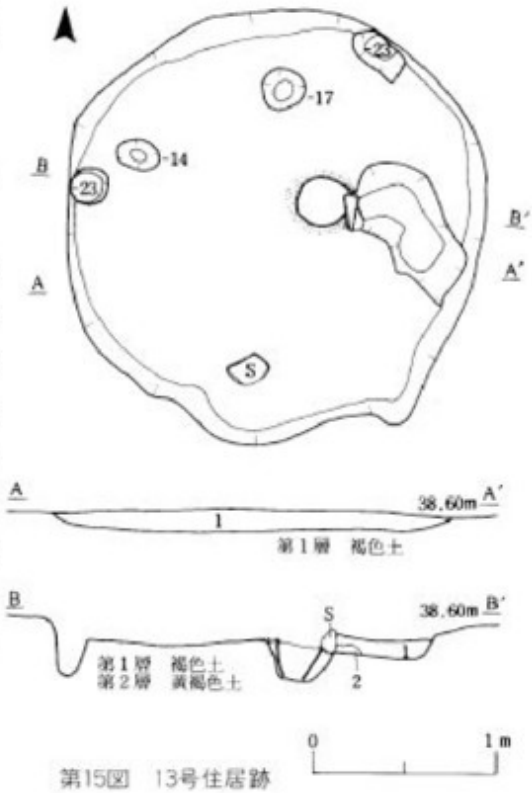
土器（第 54 ・ 66 図）

20 は炉埋設土器である。口縁部、底部欠損の深鉢形土器で地文は R 付の撚糸文である。110 ～ 112 は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯、撚糸文などが施される。

18 号住居跡（第 20 図）

調査区中央部東端で検出された。土取りの攪乱のため覆土の一部が削られている。

プランは長軸 5.2 m、短軸 4.9 m の楕円形を呈する。確認面からの深さは 25 cm で壁は斜めに立ち上がる。東南部壁は 8 号土坑によって切られている。ピットは 24 個検出されており、深さ 35 cm 以上の 8 個が主柱穴と思われる。炉は南西寄りに位置する。石囲土器埋設部と掘り込み部からなる。石囲土器埋設部には口縁部、底部欠損の深鉢形土器が埋設されている。石囲の礫の一部は抜き取られている。周辺は火熱を受けて赤変している。床面は平坦で堅く良好である。



第15図　13号住居跡

出土遺物

土器（第 54 ・ 67 図）

21 は炉埋設土器である。口縁部、底部欠損の深鉢形土器で地文は RLR の複節斜縄文である。上部は二次火熱で赤変している。113 ～ 121 は覆土から出土した。いずれも沈線区画の磨消帯で文様が施されている。

石器（第 77 図）

14 ・ 15 は覆土から出土した。14 はツマミ部分が欠損する縦型石匙である。15 は掻器と思われる。両方とも頁岩である。

19 号住居跡（第 21 図）

調査区中央部で検出された。南西部は土壙状の掘り込みと重複しており、本住居跡が新しい。

プランは径 4.5 m の円形を呈する。確認面からの深さは約 15 cm で壁は斜めに立ち上がる。ピットは 7 個検出されている。主柱穴は炉中軸線上西側の深さ 65 cm のピット、さらに炉埋設土器をはさんで対面している深さ 58 cm、68 cm のピット 3 個である。炉は東側に位置している。土器埋設部、掘り込み部、掘り込み部からなり東壁に接している。土器埋設部には底部が欠損する深鉢形土器が埋設されている。周辺は火熱を受けて赤変している。床面は平坦で堅く良好である。

出土遺物

土器（第55・67図）

23は炉埋設土器である。口径28cmで胴部が膨らむ深鉢形土器である。口縁部は磨消無文帯で、地文はRL（縦回転）単節斜縄文である。縄の結び目がみられる。122～130は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯で文様が施される。124は刺突文が施されている。

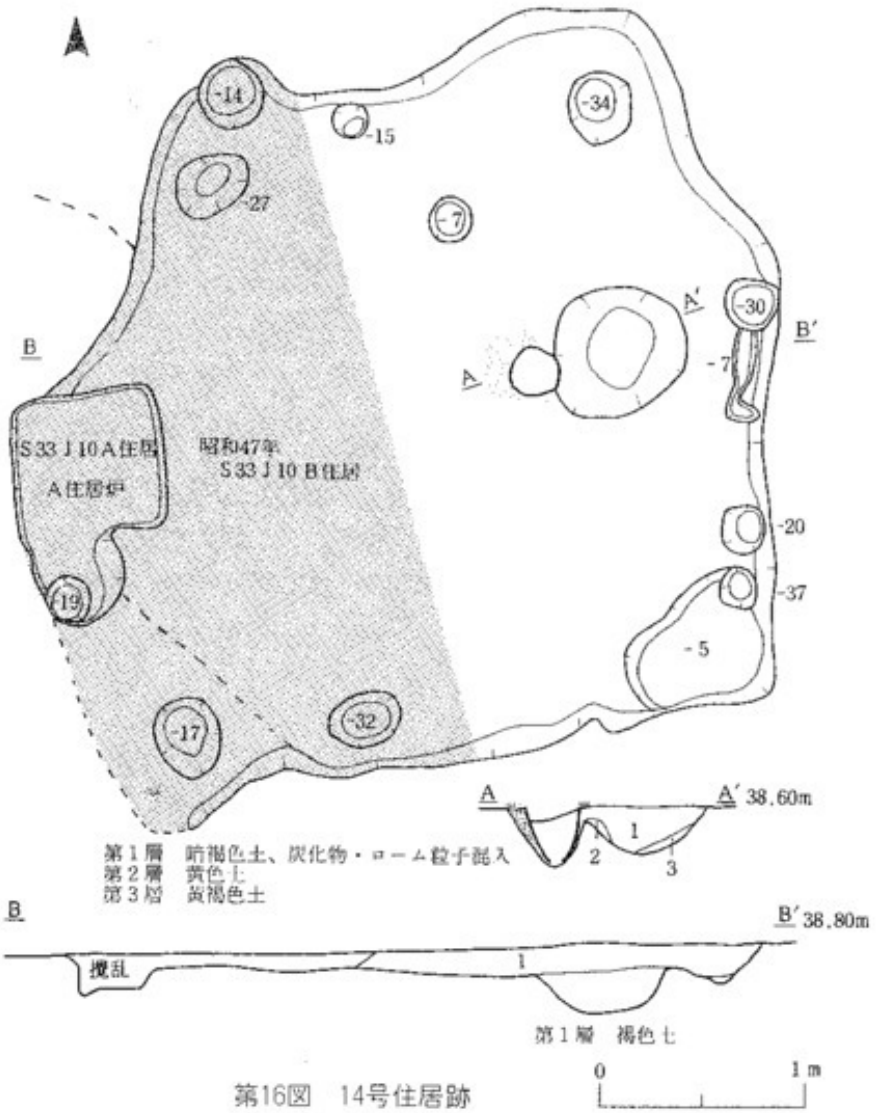
石器（第77・80図）

16～18・53は覆土から出土した。16は石鏃、17は縦型石匙、18はヘラ状石器である。いずれも頁岩である。53は磨石である。

20号住居跡（第22図）

調査区中央部で検出された。

プランは径2.7mの円形を呈する。確認面からの深さは約7cmで壁は斜めに立ち上がる。ピットは14個検出されているが主柱穴は不明である。炉は東側に位置している。石囲土器埋設部と掘り込み部からなり、上半欠損の深鉢型土器が埋設されている。礫はほとんど抜き取られているが掘り込み部との間に巨礫3個が組まれている。周辺は火熱により赤変している。床面は平坦で堅く良好である。



第16図　14号住居跡

出土遺物

土器（第54図）

22は炉埋設土器である。上半欠損の深鉢形土器で地文はRL（縦回転）単設斜縄文である。全体に二次火熱による赤変が著しい。

21号住居跡（第23図）

調査区中央部で検出された。

プランは長軸2.3m、短軸2.0mの楕円形を呈する。土取りの攪乱、住居跡を切る2・3号土壙に

より東・西・南は壊されている。確認面からの深さは10㎝で壁の北側は斜めに立ち上がる。ピットは北側に4個検出されているが主柱穴は不明である。炉は中央東側に位置している。土器埋設部を除き3号土壙に壊されている。土器埋設部には深鉢形土器の破片が認められている。床面は平坦で堅く良好である。

出土遺物

土器（第67図）

137は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯で文様が施されている。

22号住居跡（第24図）

調査区中央部で検出された。

プランは長軸4m、短軸3.1mの楕円形を呈する。土取りの撹乱で覆土が大部分削られており、壁の立ち上がりも皿状に残る程度である。ピットは壁下に沿って9個検出されているが主柱穴は不明である。炉は南側に位置している。土器埋設部と堀り込み部からなり、土器埋設部には上部欠損の深鉢形土器が埋設されている。周辺は火熱により赤変している。床は堅く良好である。

出土遺物

土器（第55図）

24は炉埋設土器である。底部を除く大部分が欠損している。地文はRL（縦回転）単節斜縄文である。二次火熱を受けて赤変している。

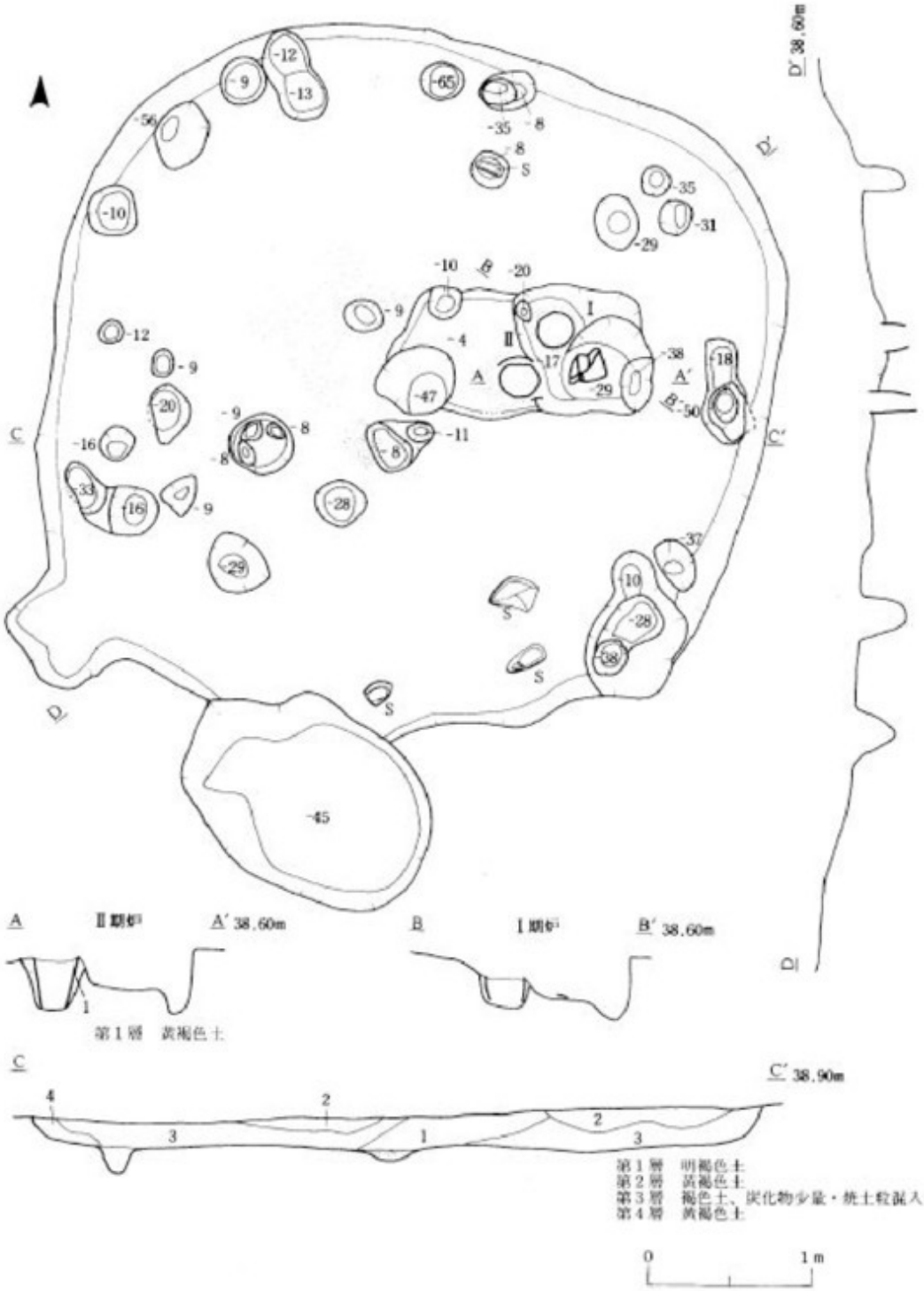
23号住居跡（第25図）

調査区中央部西側で検出された。

プランは長軸5.3m、短軸4.3mの楕円形を呈する。北側は27号住居跡に切られている。確認面からの深さは約15㎝で壁は斜めに立ち上がる。炉は新旧三期検出されている。Ⅰ期―中央南側に位置する最も古い炉である。土器埋設部と堀り込み部からなり、胴下半が欠損する深鉢形土器が埋設されている。Ⅱ期―Ⅰ期炉の北側に位置する二番目に古い炉である。土器埋設部と堀り込み部からなり、底部、上部欠損の深鉢形土器二個体が埋設されている。Ⅲ期―Ⅱ期炉に貼床後に堀り込み部の一部を壊して作られた最も新しい炉である。土器埋設部と堀り込み部からなり、上半、底部欠損の深鉢形土器が埋設されている。堀り込み部底部には礫が数個認められ、堀り込み部壁は石組であった可能性もある。Ⅰ～Ⅲ期炉周辺は火熱を受けて赤変している。本住居跡はⅡ期炉からⅢ期炉への移行時に北東部を拡張した痕跡がピットの配列から考えられる。ピットは中央部壁下に沿って21個検出されている。Ⅰ・Ⅱ期にともなうピットは、南西部壁下に沿って周りⅡ・Ⅲ期炉の間を周るものと思われる。Ⅲ期炉の時期には外側に深さ9㎝、9㎝、7㎝のピットを堀り、拡張したことが考えられる。床面は平坦で堅く良好である。

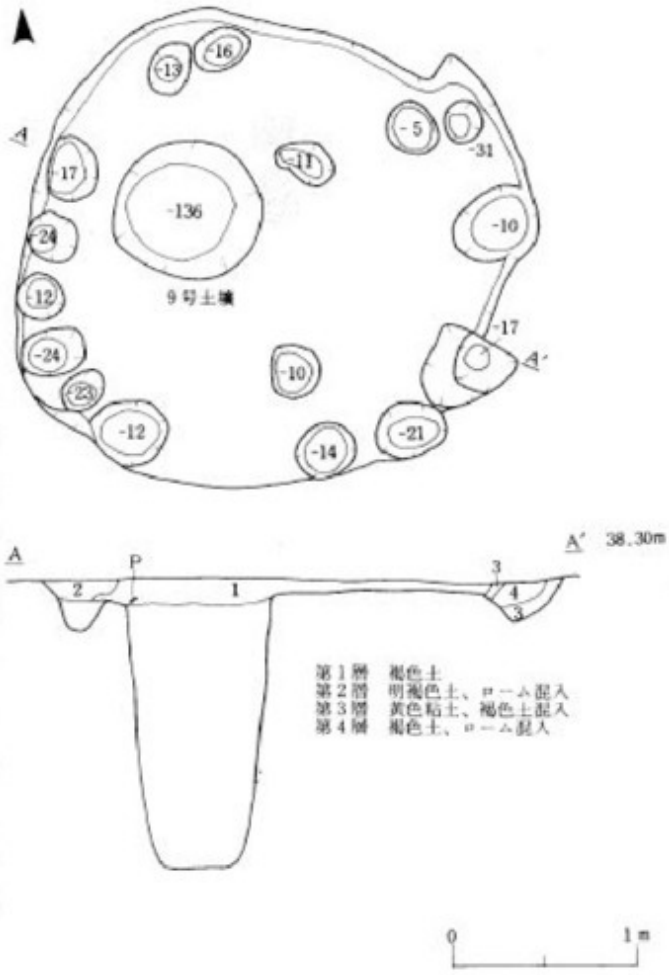
出土遺物

土器（第55・56・57図）


D′ 38.60m
A
Ⅱ期炉
A′ 38.60m
B
Ⅰ期炉
B′ 38.60m
第1層　黄褐色土
C
C′ 38.90m
第1層　明褐色土
第2層　黄褐色土
第3層　褐色土、炭化物少量・焼土粒混入
第4層　黄褐色土
0
1 m

第17図　15号住居跡

25 は I 期炉、26 ・ 27 は II 期炉、28 は III 期炉の埋設土器である。25 は胴下半が欠損する深鉢形土器である。ゆるい波状口縁をなし口縁部は磨消無文帯である。沈線区画の磨消帯で文様を施し、磨消部には二列に刺突文が施される。地文は LR（縦回転）単節斜縄文である。26 ・ 27 は上・下半が欠損する深鉢形土器で地文は 26 が RL（縦回転）、27 が LR（縦回転）単節斜縄文である。28 は上半、底部が欠損する深鉢形土器である。胴部には沈線区画の磨消帯が波状に施される。地文は RL（縦回転）単節斜縄文である。29 は III 期炉堀り込み部から出土した。上・下半が欠損する深鉢形土器で結束のない羽状縄文が施されている。132 ～ 139 は覆土から出土した。いずれも沈線区画の磨消帯で文様が施されている。139 は沈線区画の外側に円形刺突文が配列される。



第18図　16号住居跡

石器（第 78 ・ 80 図）

19 ・ 54 ・ 55 は覆土から出土した。19 は磨製石斧、54 は磨石、55 はくぼみ石である。

24 号住居跡（第 26 図）

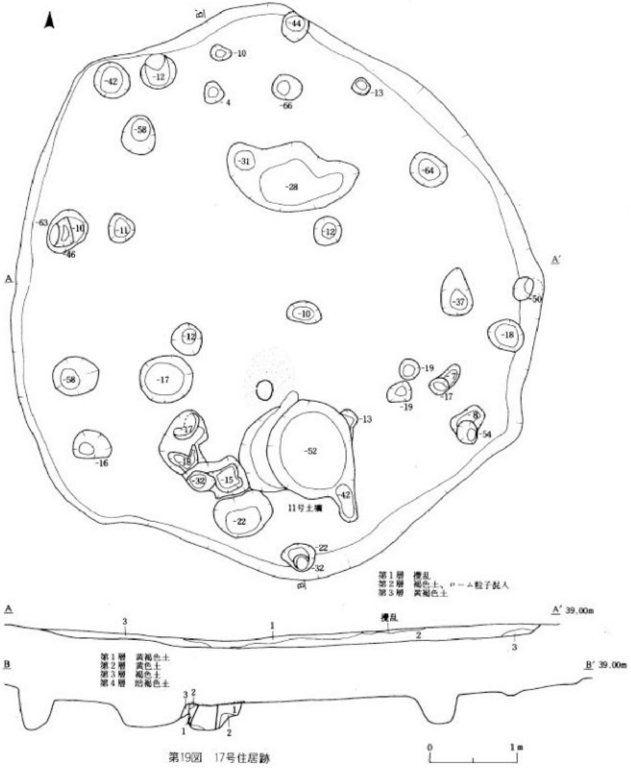
調査区北東部で検出された。26 号住居跡に切られている。

プランは長軸 4.2 m、短軸 3.8 m の不整楕円形を呈する。土取りの攪乱のため覆土が大部分削られている。壁は浅く皿状になっている。炉は確認できなかった。床は凹凸があり軟弱である。

25 号住居跡（第 27 図）

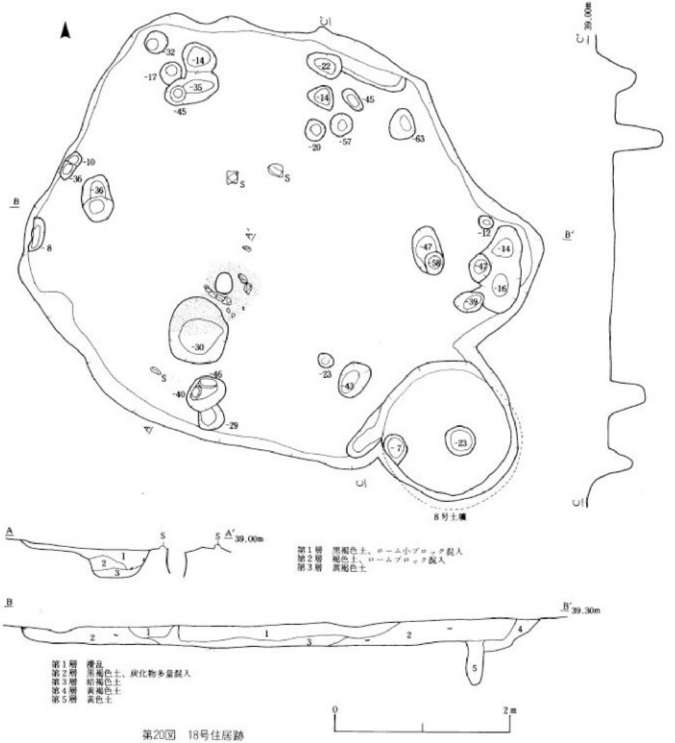
調査区北東部で検出された。北東部は土取りの攪乱、東側は 6 ・ 7 号土壙によって壊されている。

プランは南北 3.5 m、東西は不明であるが楕円形を呈すると思われる。確認面からの深さは 9 cm で壁は斜めに立ち上がる。ピットは壁下に沿って 9 個検出されており、深さ 25 cm以上のピットが主柱穴と思われる。炉は西側に位置している。石囲土器埋設部と石組堀り込み部からなる。石囲土器



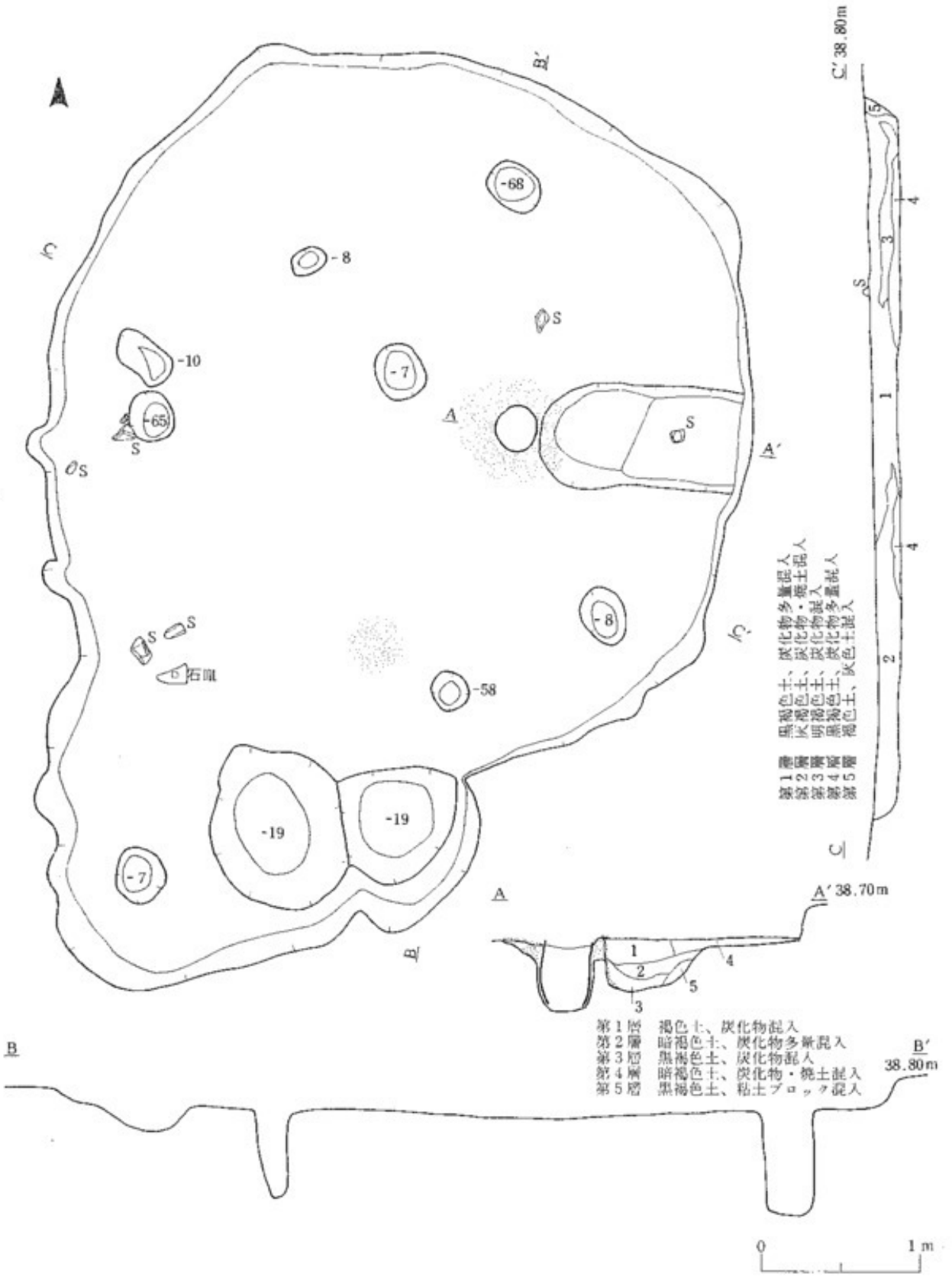
A
A'
B
B'
11号土壙
第1層 攪乱
第2層 褐色土、ローム粒子混入
第3層 黄褐色土
A' 39.00m
B' 39.00m
第1層 黄褐色土
第2層 黄色土
第3層 褐色土
第4層 暗褐色土
0
1m

第19図 17号住居跡



C'
39.00m
B
B'
A
A'
8号土壙
A'
39.00m
第1層　黒褐色土、ローム小ブロック混入
第2層　褐色土、ロームブロック混入
第3層　黄褐色土
B'
39.30m
第1層　攪乱
第2層　黒褐色土、炭化物多量混入
第3層　暗褐色土
第4層　黄褐色土
第5層　黄色土
0
2m

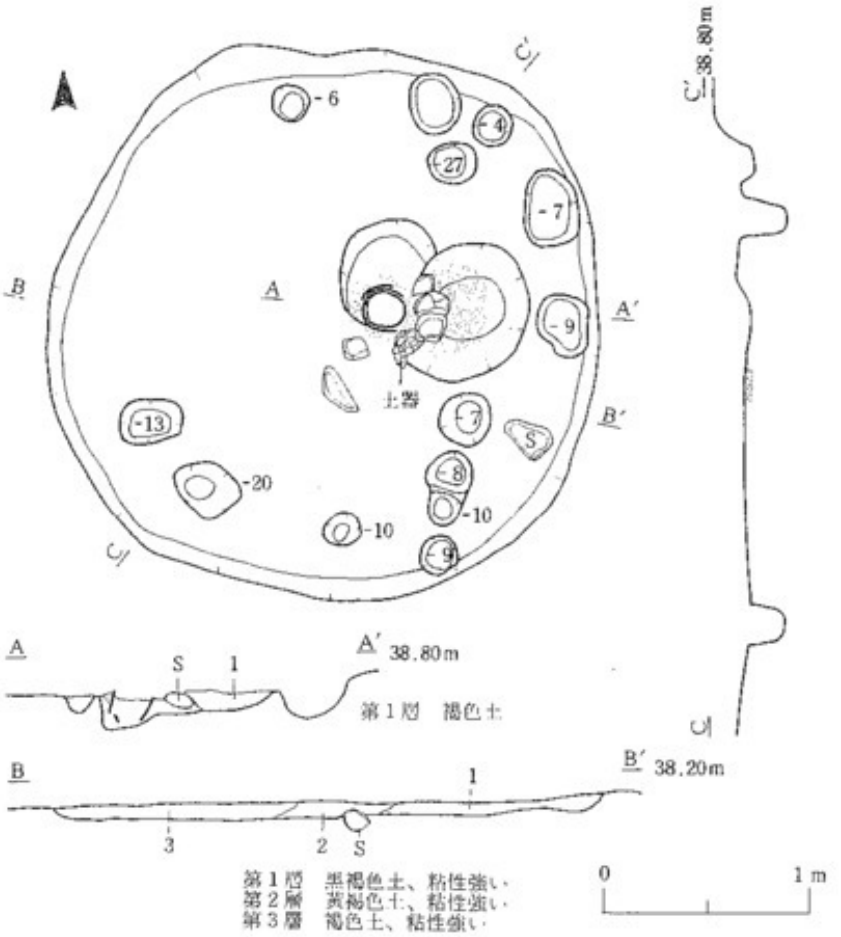
第20図　18号住居跡



C′ 38.80m
-68
-8
-10
-7
-65
-8
-58
-19
-19
-7
石皿
A
A′
B
B′
C
C′
A′ 38.70m
第1層　褐色土、炭化物混入
第2層　暗褐色土、炭化物多量混入
第3層　黒褐色土、炭化物混入
第4層　暗褐色土、炭化物・焼土混入
第5層　黒褐色土、粘土ブロック混入
B′
38.80m
0
1 m

第21図　19号住居跡

埋設部の礫は二重にまわり、下半欠損の深鉢形が倒立して埋設されている。周辺は火熱で赤変している。石組堀り込み部は前・側壁に巨礫を組、間に拳大の礫を組んでいる。礫の一部は抜き取られている。床面は平坦で堅く良好である。



第22図　20号住居跡

出土遺物

土器（第56・68図）

30は炉埋設土器である。下半欠損の深鉢形土器である。口縁部は磨消無文帯で、1ケ所から沈線区画の磨消帯が舌状に施される。地文はRLRの複節斜縄文である。140～147は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯で文様が施され、143は無文帯に刺突文が施される。

26号住居跡（第28図）

調査区の北東部で検出した。

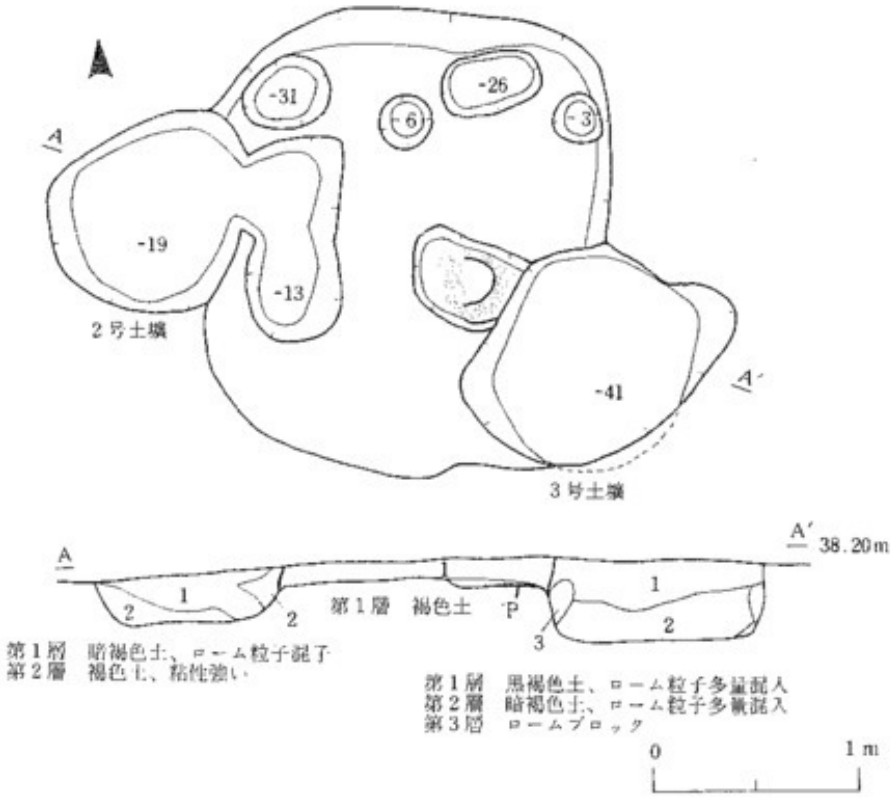
プランは長軸4.5m、短軸3.8mの不整楕円形を呈する。確認面からの深さは16cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁下には南東部を除き周溝が周っている。ピットは18個検出されており、壁下に沿って周る深さ47cm以上のものが主柱穴と思われる。炉は新旧二期検出されている。I期―南西に位置する古い炉である。土器埋設部と堀り込み部からなるが、埋設土器はつぶれて破片になっている。廃棄後に貼床されている。II期―I期炉の東側に位置する。土器埋設部と堀り込み部からなる。土器埋設部には深鉢形土器の胴部を埋設している。周辺は火熱を受けて赤変している。床面は平坦で堅く良好である。

出土遺物

土器（第56・68図）

31・32はI期炉の埋設土器である。31は上・下半欠損の深鉢形土器で、胴上部はLR（縦回転）単節斜縄文、下部は縦方向にカキ目を施している。32は胴部の膨らむ深鉢形土器で、沈線区画の磨

消帯で文様が施される。地文はLR（縦回転）単節斜縄文である。33はII期炉埋設土器である。上・下半欠損の深鉢形土器で、沈線区画の磨消帯が「J」字状に展開する。地文はLR（縦回転）単節斜縄文である。148～153は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯で文様が施される。



第23図　21号住居跡

石器（第78図）

20・21は覆土から出土した。20はヘラ状石器、21は掻器である。石質は頁岩である。

27号住居跡（第29図）

調査区中央部西側で検出された。南側では23号住居跡を切っている。

プランは長軸3.4m、短軸3.2mの楕円形を呈する。確認面からの深さは18cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは壁下に沿って14個検出されているが主柱穴は不明である。炉は東側に位置している。土器埋設部と堀り込み部からなり、上半欠損の深鉢形土器が埋設されている。土器埋設部と堀り込み部の間には3個の礫を組んでいる。周辺は火熱を受けて赤変している。床は平坦で堅く良好である。

出土遺物

土器（第57・68図）

34は炉埋設土器である。深鉢形土器の底部で地文はRlの撚糸文である。二次火熱で赤変している。154～159は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯で文様が施される。159は沈線上に刺突文が施されている。

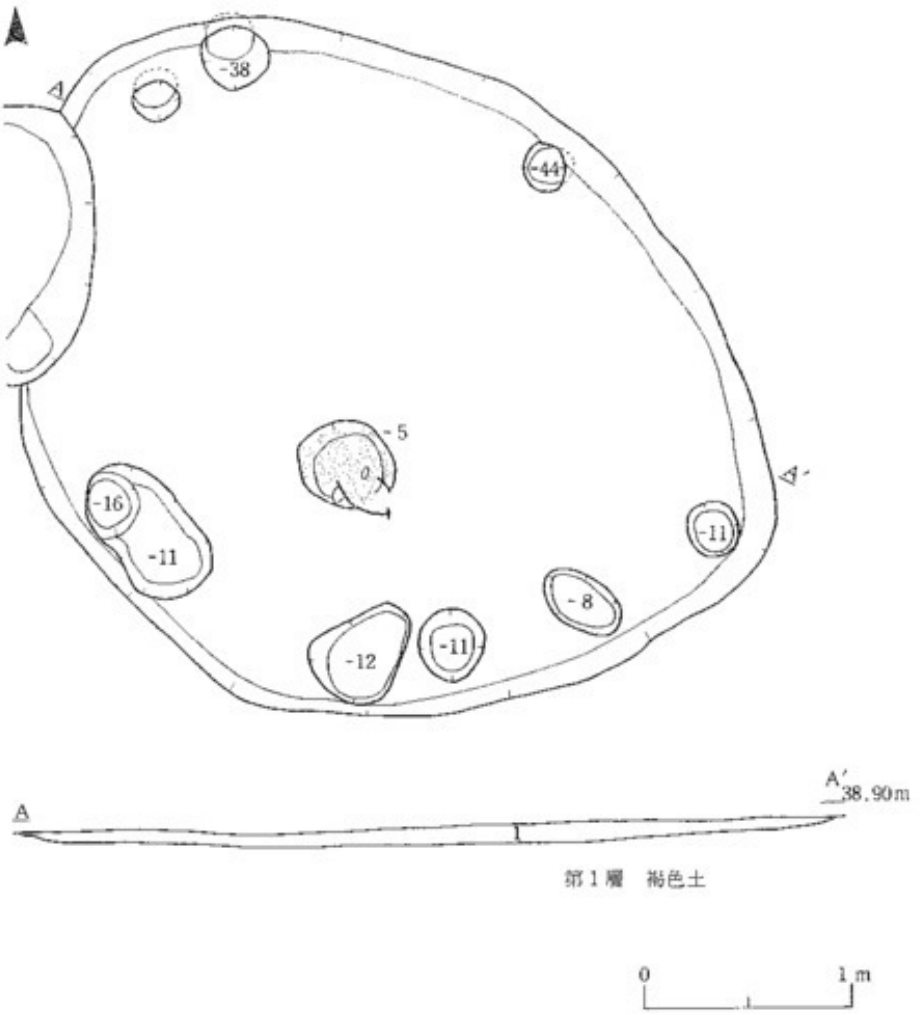
石器（第80図）

56は覆土から出土した磨石である。

28号住居跡（第30図）

調査区中央、北西部で検出された。

プランは長軸4.9m、短軸4.6mの楕円形を呈する。確認面からの深さは17cmで壁は斜めに立ち上がる。ピットは15個検出されており、主柱穴は壁下に沿って周る深さ25cm以上のものと思われる。炉は新旧二期検出されている。Ⅰ期—中央部に位置する古い炉である。土器埋設部と掘り込み部からなるが埋設土器は抜き取られており認められない。Ⅱ期—Ⅰ期炉南東部に位置する。土器埋設部と掘り込み部、掘り込み部からなり壁に接する。土器埋設部には口縁部、下半欠損の深鉢形土器が埋設されている。周辺は火熱を受けて赤変している。床面は平坦で堅く良好である。



第24図　22号住居跡

出土遺物

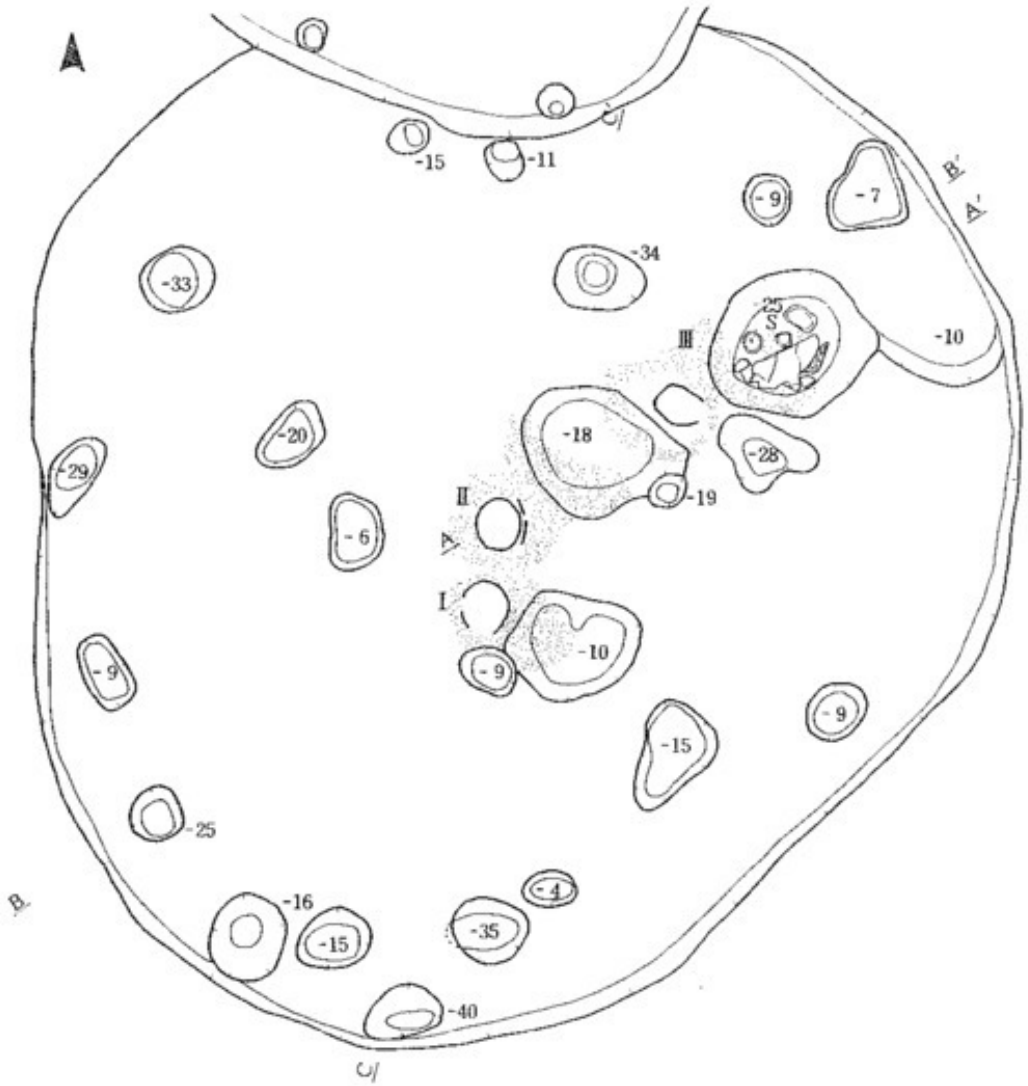
土器（第57・68図）

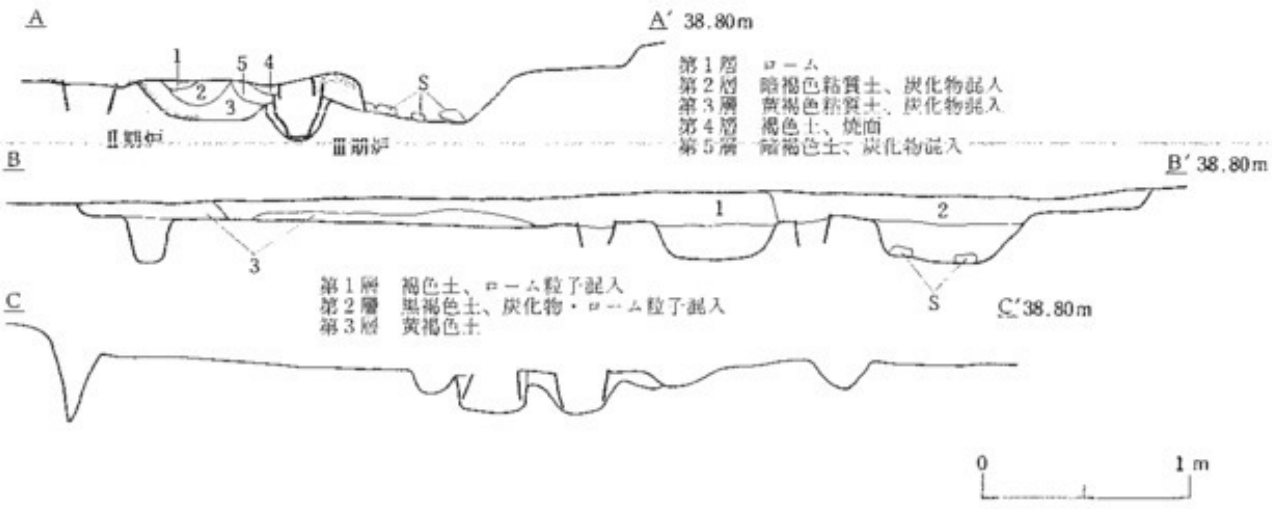
35はⅡ期炉埋設土器である。口縁部は磨消無文帯で頸部に一条の沈線がまわっている。地文はLRの撚糸文である。160～165は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯で文様が施されている。

29号住居跡（第31図）

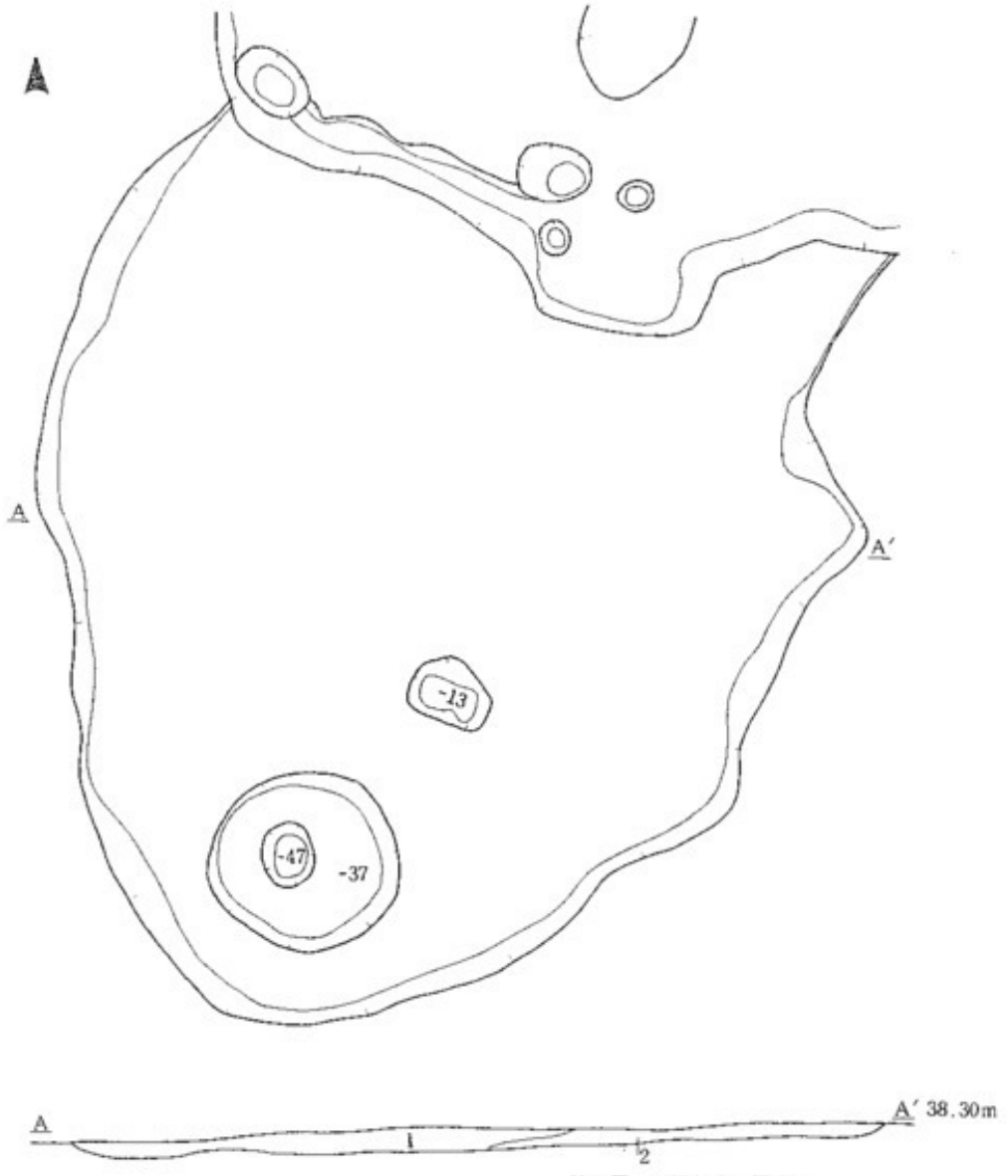
調査区中央、北西部で検出された。

プランは長軸4.4m、短軸3.8mの隅丸方形を呈する。確認面からの深さは28cmで壁は斜めに立ち上がる。覆土中、床面には焼土が厚く堆積し、炭化物・材が壁際に多く認められることから本住


-15
-11
-9
-7
-34
-33
-10
-20
-18
-28
-29
-19
-6
-10
-9
-9
-15
-25
-16
-4
-15
-35
-40
A
A'
B
B'
C
C'
S
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ


A
A' 38.80m
1
2
3
4
5
S
Ⅱ期炉
Ⅲ期炉
第1層 ローム
第2層 暗褐色粘質土、炭化物混入
第3層 黄褐色粘質土、炭化物混入
第4層 褐色土、焼面
第5層 暗褐色土、炭化物混入
B
B' 38.80m
1
2
3
第1層 褐色土、ローム粒子混入
第2層 黒褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第3層 黄褐色土
C
S
C' 38.80m
0
1m

第25図　23号住居跡



第26図　24号住居跡

居跡は火災住居と思われる。ピットは主に壁下に沿って14個検出されており、主柱穴は壁下に等間隔に配される深さ38㎝以上のピットである。炉は中央南に位置している。石囲土器埋設部と掘り込み部からなる。石囲土器埋設部の礫は二重にまわり、下半欠損の深鉢形土器が埋設されている。周辺は火熱を受けて赤変している。床面は平坦で堅く良好である。

出土遺物

土器（第57・68図）

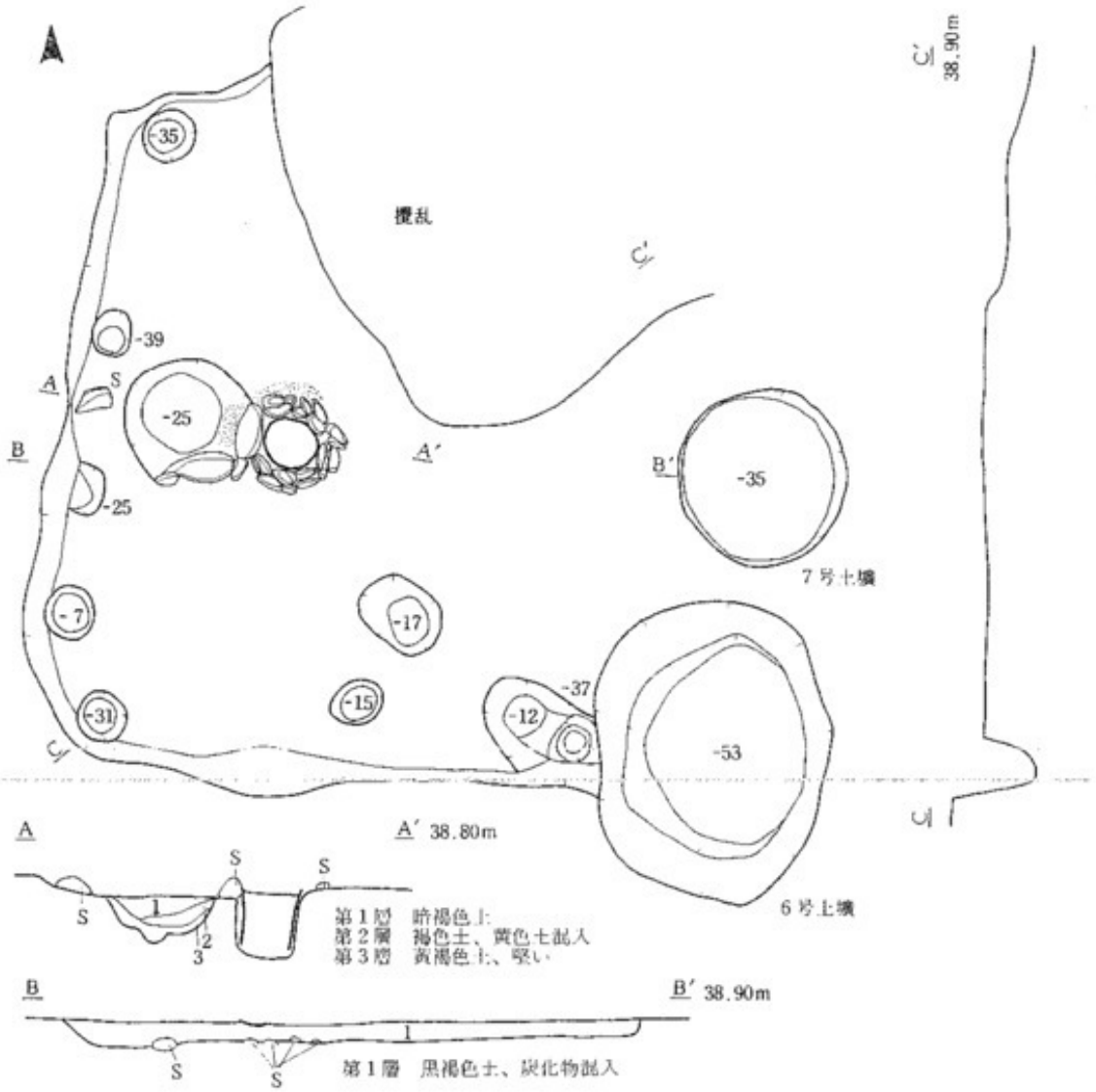
37は炉埋設土器である。口縁部がゆるく外反し、胴部が膨らむ深鉢形土器である。口縁部は磨消無文帯で地文はLR（縦回転）単節斜縄文である。36・166～169は覆土から出土した。36は台付

鉢形土器の台部である。4単位の土器で楕円形の透しが4ケ所に付され、透し間の磨消帯区画内は刺突文が充填している。166～169は沈線区画の磨消帯が施されている。

30号住居跡（第32図）

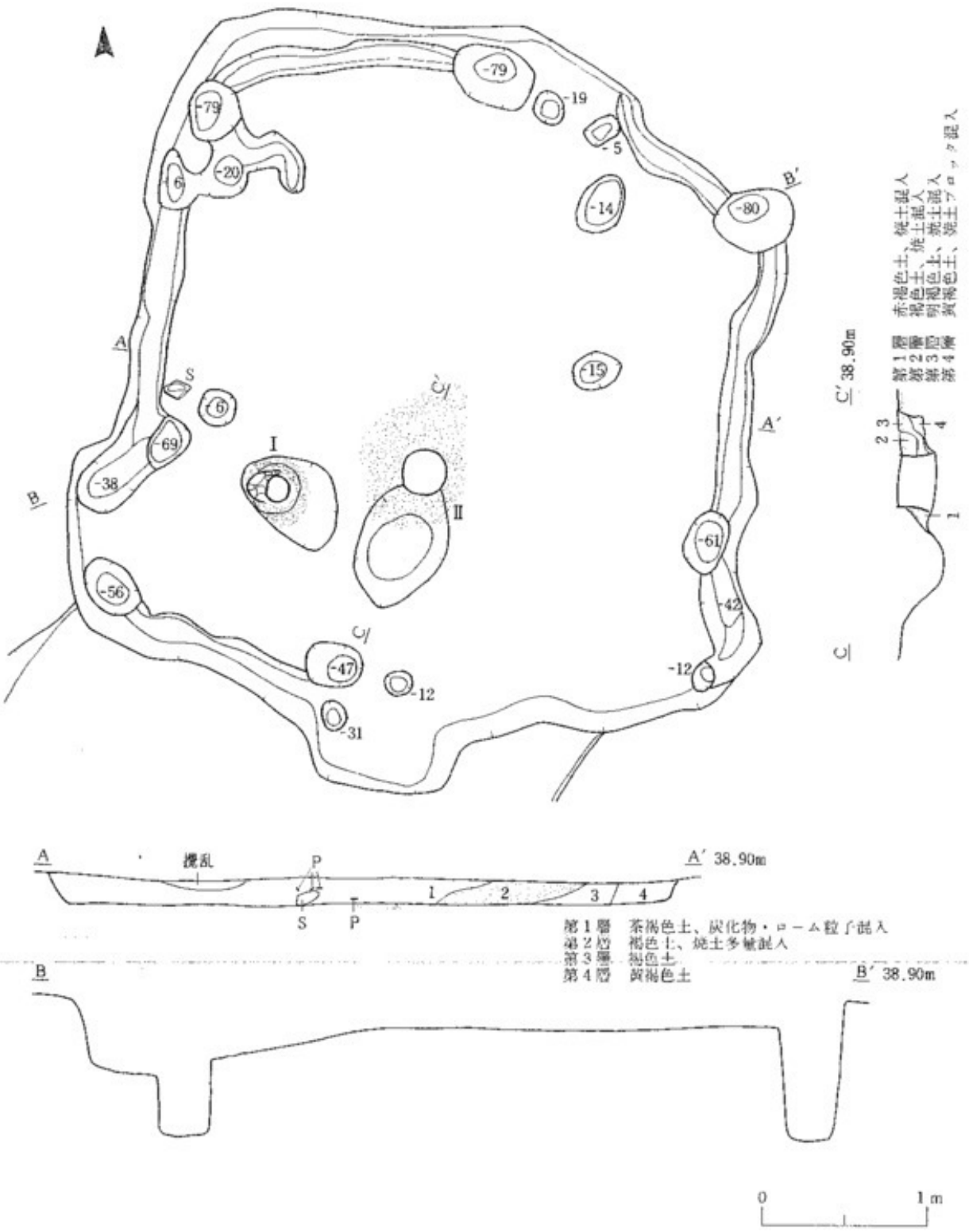
調査区の北部西側で検出された。

プランは長軸6.8 m、短軸5.8 mの楕円形を呈する。確認面からの深さは30 cmで壁は斜めに立ち上がる。炉は新旧三期が検出された。Ⅰ期—中央部に位置する最も古い炉である。土器埋設炉で口縁部欠損の深鉢形土器が埋設されている。Ⅱ期—Ⅰ期炉東南に位置する。土器埋設炉で上・下半欠損の深鉢形土器が埋設されている。Ⅲ期—Ⅱ期炉東南部に位置する。土器埋設部と掘り込み部、掘り込み部からなり、東壁に接している。土器埋設部には深鉢形土器が埋設されている。また周辺には礫が数個認められ、当初は石囲土器埋設炉の可能性も考えられる。Ⅰ～Ⅲ期炉の周辺は火熱を受



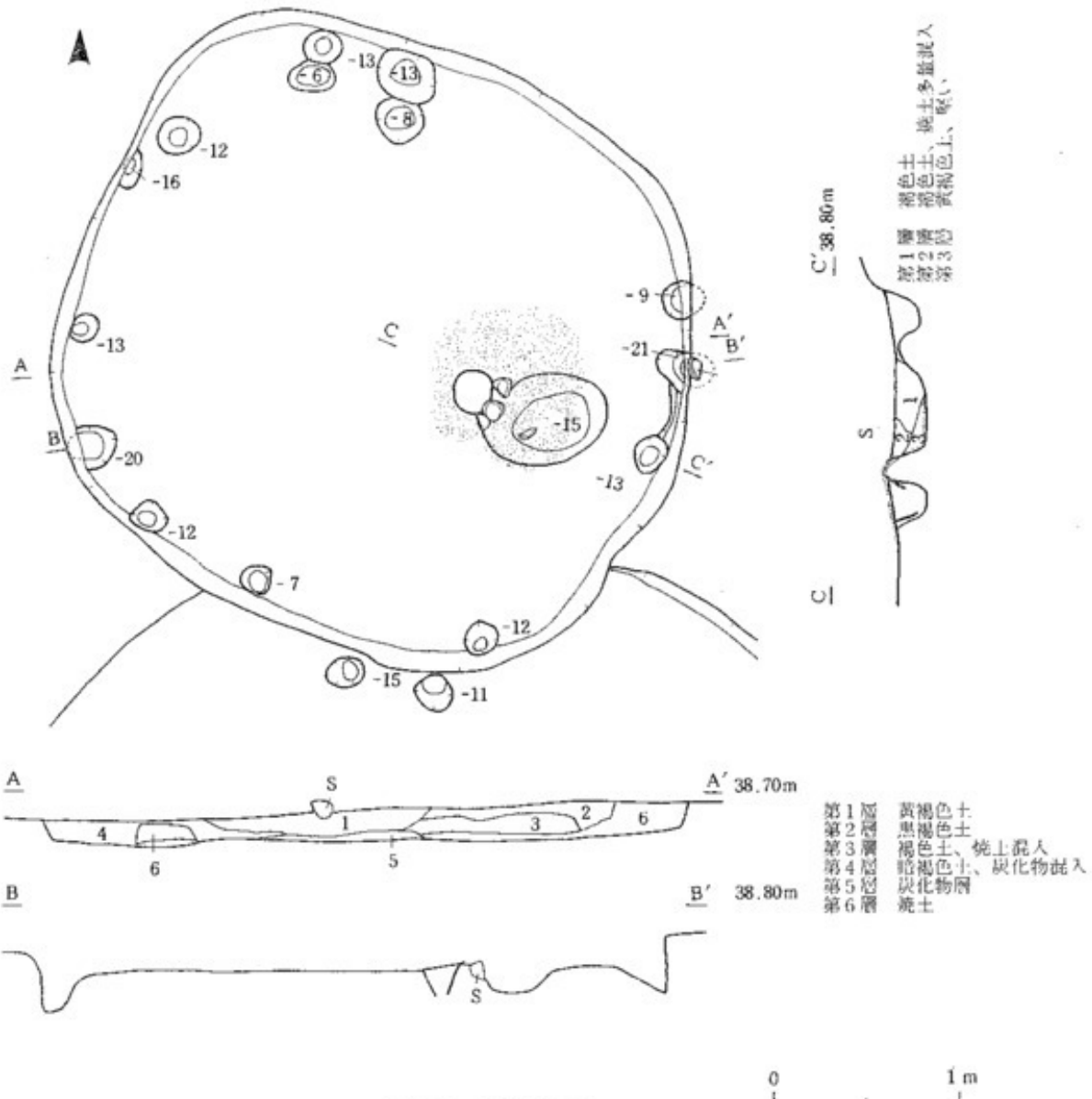
第27図　25号住居跡

0　1 m



A
A′
B
B′
C
C′
S
P
I
II
-79
-19
-5
-20
-6
-14
-80
-15
-69
-38
-61
-42
-56
-47
-12
-31
攪乱
A′ 38.90m
B′ 38.90m
第1層　茶褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層　褐色土、焼土多量混入
第3層　褐色土
第4層　黄褐色土
0
1 m

第28図　26号住居跡



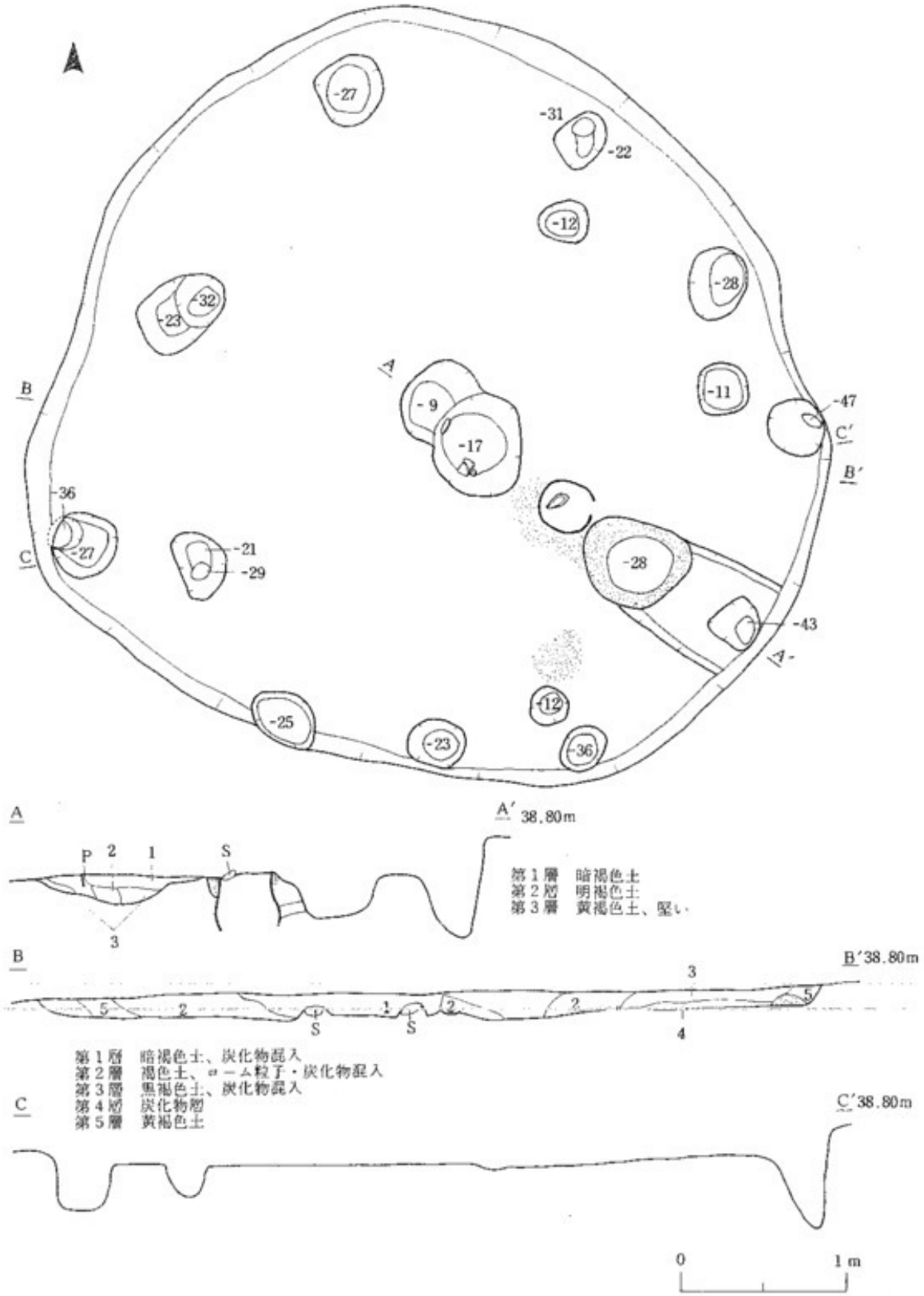
第29図　27号住居跡

けて赤変している。炉の移築にともない住居跡の拡張が行なわれていることが、ピットの配列から推測できる。ピットは総数36個検出されており、大別すると壁下に沿って周るもの、その内側を周るものとに別られる。内側を周るピットがⅠ・Ⅱ期炉にともなうものと思われ、壁下に沿って周るピットがⅢ期炉にともなうものと思われる。すなわちⅢ期炉の時期に炉の移築とともに住居規模を一回り大きくしている。床面は平坦で堅く良好である。

出土遺物

土器（第58・69図）

38はⅠ期、39はⅡ期、40はⅢ期炉の埋設土器である。38は口縁部、底部欠損の深鉢形土器で、沈線区画の磨消帯が施される。地文はRL（縦回転）単節斜縄文である。39は下半が欠損する深鉢形



-27
-31
-22
-12
-28
-32
-23
A
-9
-17
-11
-47
C′
B′
B
-36
-27
C
-21
-29
-28
-43
A′
-12
-25
-23
-36
A
A′ 38.80m
P
2
1
S
3
第1層　暗褐色土
第2層　明褐色土
第3層　黄褐色土、堅い
B
B′38.80m
3
5
2
1
2
2
5
S
S
4
第1層　暗褐色土、炭化物混入
第2層　褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第3層　黒褐色土、炭化物混入
第4層　炭化物層
第5層　黄褐色土
C
C′38.80m
0
1 m

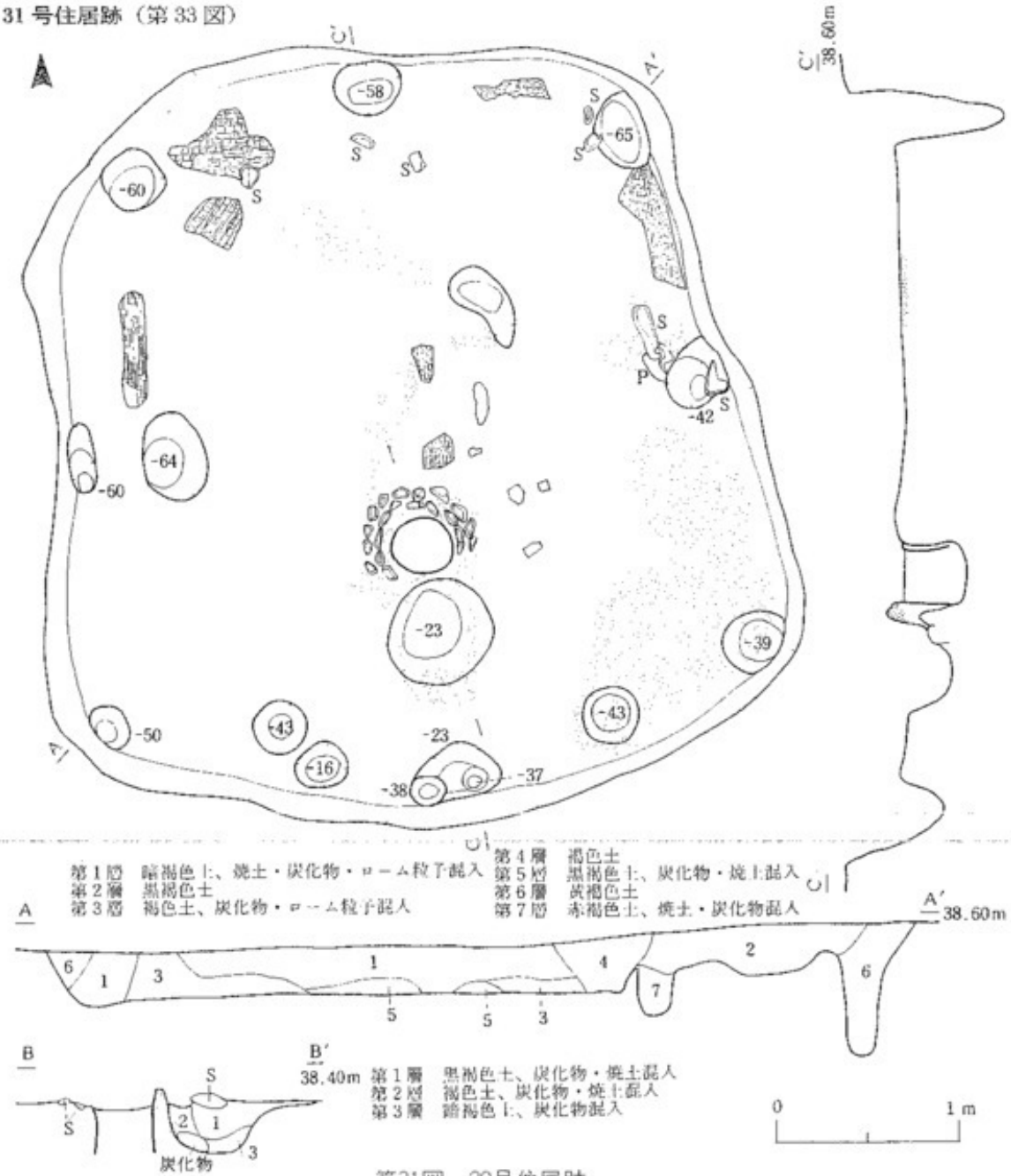
第30図　28号住居跡

土器で沈線区画の磨消帯が「J」字状に展開する。地文はL 位の撚糸文である。下半は縦にカキ目痕が施される。40 は口縁部欠損の深鉢形土器で、沈線区画の磨消帯が「J」字状に展開し、小さな楕円区画内には円形刺突文が施される。地文はR 位の撚糸文である。170 ～ 188 は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯が施される。180 ～ 182 ・ 186 ～ 188 は刺突文が施される。

石器（第 78 ・ 80 図）

22 ・ 23 ・ 57 ・ 58 は覆土から出土した。22 は石鏃、23 は磨製石斧、57 は石皿の破片、58 はくぼみ石である。

31 号住居跡（第 33 図）



第31図　29号住居跡

調査区北部西側で検出された。

プランは長軸 4.2 m、短軸 3.9 mの楕円形を呈する。南側は 30 号住居跡に切られている。確認面からの深さは 25 cmで壁は斜めに立ち上がる。ピットは 10 個検出されているが主柱穴については不明である。炉は新旧二期検出されている。Ⅰ期―古い炉で、土器埋設部と掘り込み部からなるが埋設土器は抜き取られており認められない。Ⅱ期―Ⅰ期炉北東部に位置する。土器埋設部、掘り込み部からなる。埋設土器は破片が認められるだけで他は抜き取られているようである。掘り込み部の東側には巨礫が組まれている。周辺、特に掘り込み部内は火熱により赤変している。床面は平坦で堅く良好である。

出土遺物

土器（第 69 図）

189 ～ 192 は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯で文様が施される。

石器（第 78 図）

24 は覆土から出土した磨製石斧である。

32 号住居跡（第 34 図）

調査区北部東側で検出された。土取り攪乱のために覆土が全体に削られ壁が非常に浅くなっている。

プランは長軸 5.6 m、短軸 4.8 mの楕円形を呈する。確認面からの深さは 10 cmで壁は浅く、斜めに立ち上がる。ピットは 23 個検出されているが主柱穴は不明である。炉は南西部に位置する。土器埋設部と掘り込み部からなり、埋設土器は抜き取られており一部破片が認められる。中央部には不定形の土壙状のピットが認められるが住居跡を切る新しいものである。床面は凹凸があり軟弱である。

出土遺物

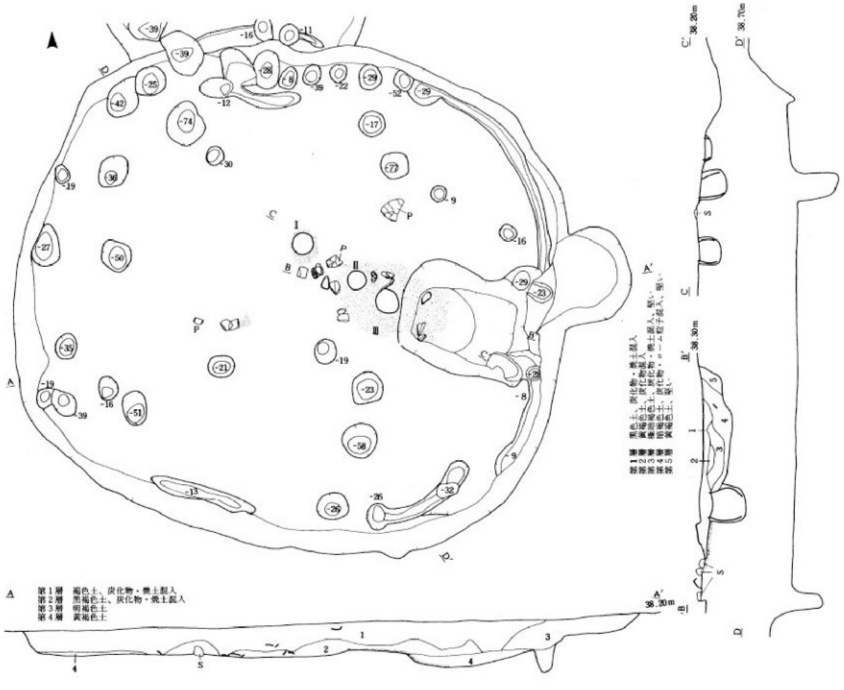
土器（第 69 図）

193 ・ 194 は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯が施されている。193 は磨消帯に刺突文が施される。地文は撚糸文である。

33 号住居跡（第 35 図）

調査区北部東側で検出した。

プランは径 8.0 mの円形を呈する。確認面からの深さは 27 cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。炉は南側に位置しており新旧四期検出された。Ⅰ期―最も古い炉で土器埋設部と掘り込み部からなる。底部欠損の深鉢形が埋設されている。Ⅱ・Ⅲ期―Ⅰ期炉の南東部に移築された炉で土器埋設炉と思われる。深鉢形土器が埋設されている。Ⅳ期―最も南に移築された新しい炉である。土器埋設部と掘り込み部からなり、上・下半が欠損する深鉢形土器が埋設されている。Ⅰ～Ⅳ期炉周辺は火熱で赤変している。本住居跡は炉の移築にともない住居規模を拡張していることがピットの配列から推

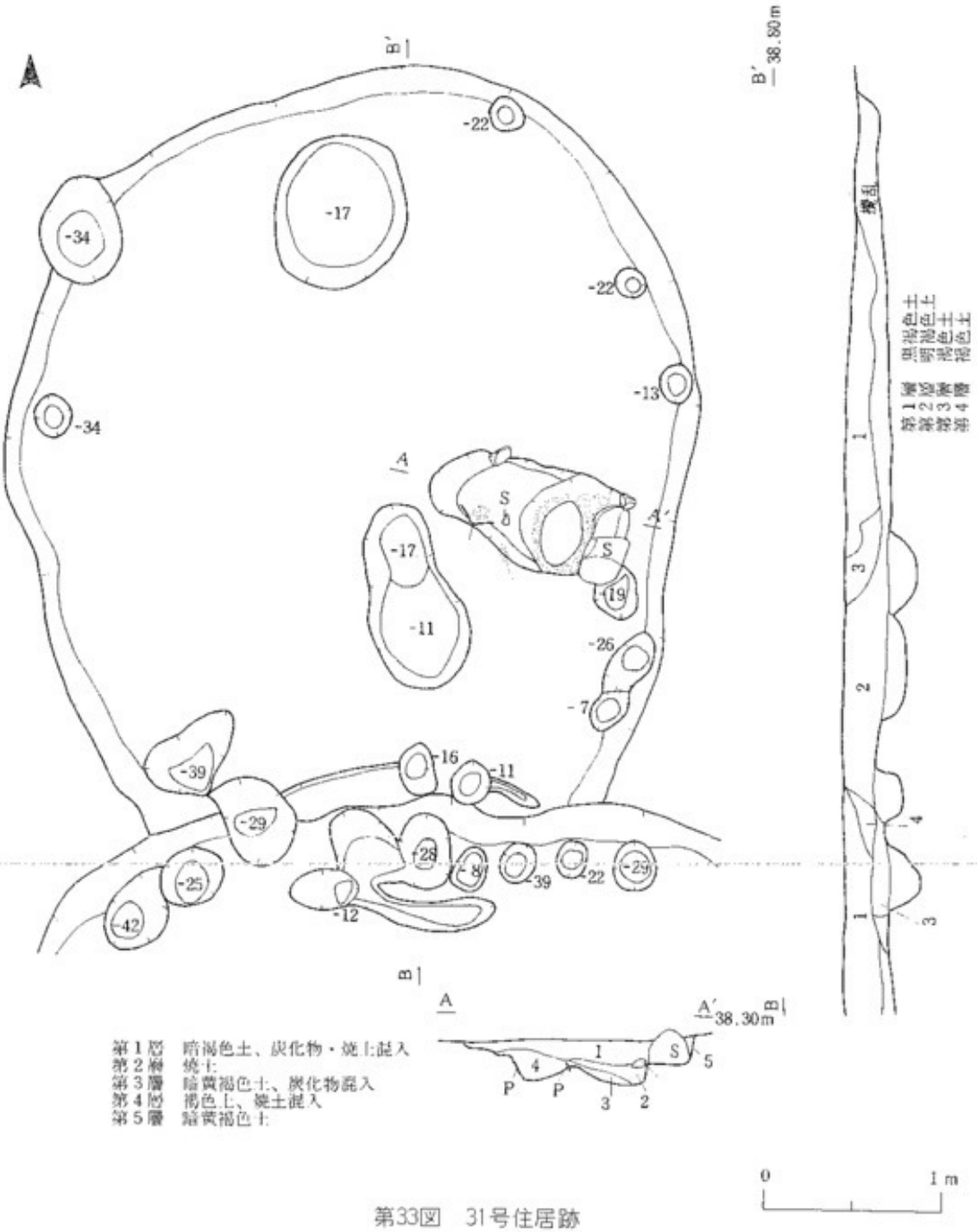

A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
38.20m
38.30m
38.70m
第1層 褐色土、炭化物・焼土粒入
第2層 黒褐色土、炭化物・焼土粒入
第3層 明褐色土
第4層 黄褐色土
0
2m

第32図　30号住居跡

測できる。ピットは総数58個検出されており、壁下に間隔を置いて掘り込まれるものと、内側にきれいに周るピットがある。内側を周るピット列がⅠ～Ⅲ期炉の時期の住居跡と思われ、それより壁際まで炉を大きくしたⅣ期炉の時期には壁下に配列されるピットがともなうものと思われる。床面は平坦で堅く良好である。

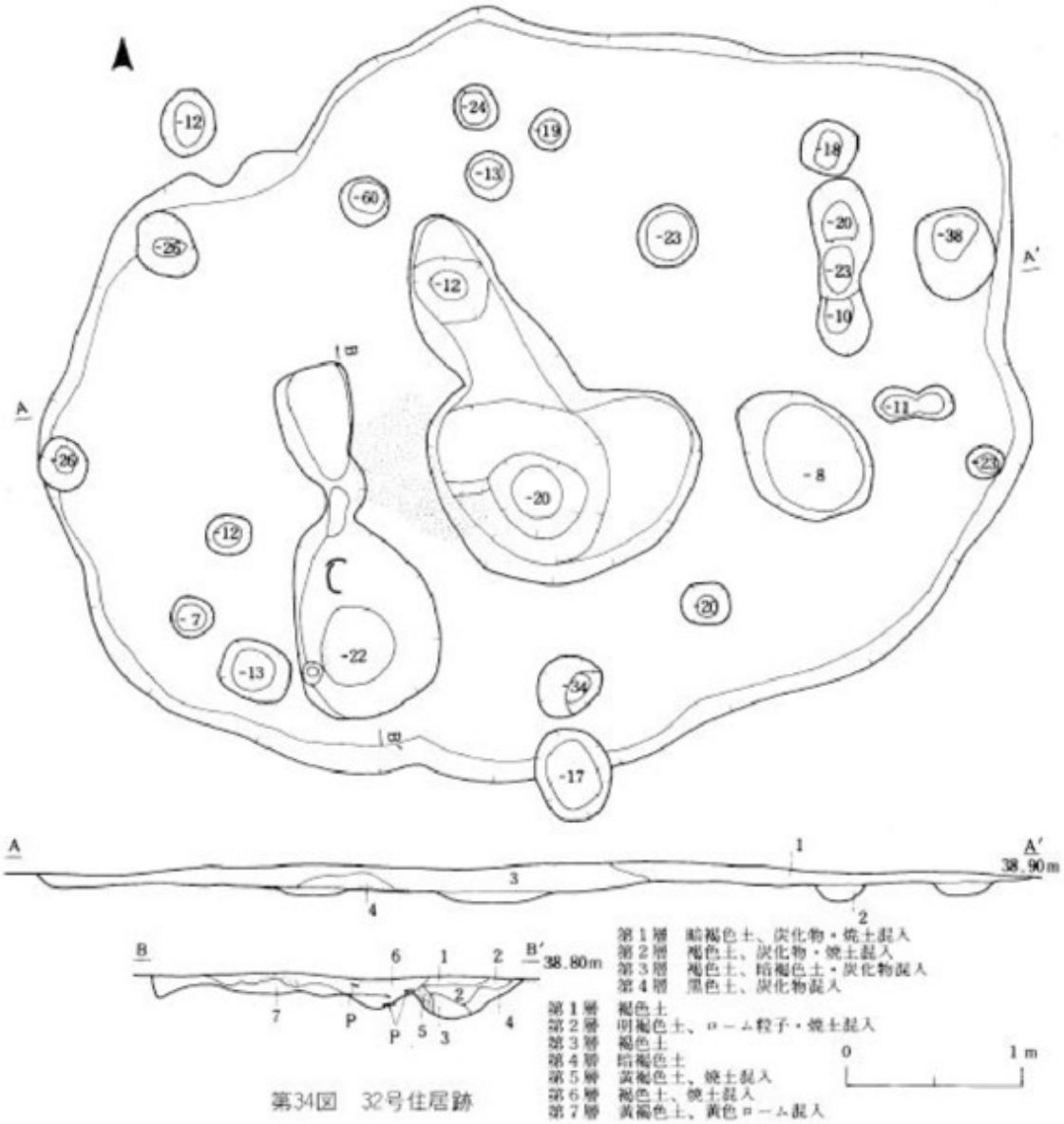
出土遺物

土器（第58・59・70図）



第1層　暗褐色土、炭化物・焼土混入
第2層　焼土
第3層　暗黄褐色土、炭化物混入
第4層　褐色土、焼土混入
第5層　暗黄褐色土

第33図　31号住居跡



第34図　32号住居跡

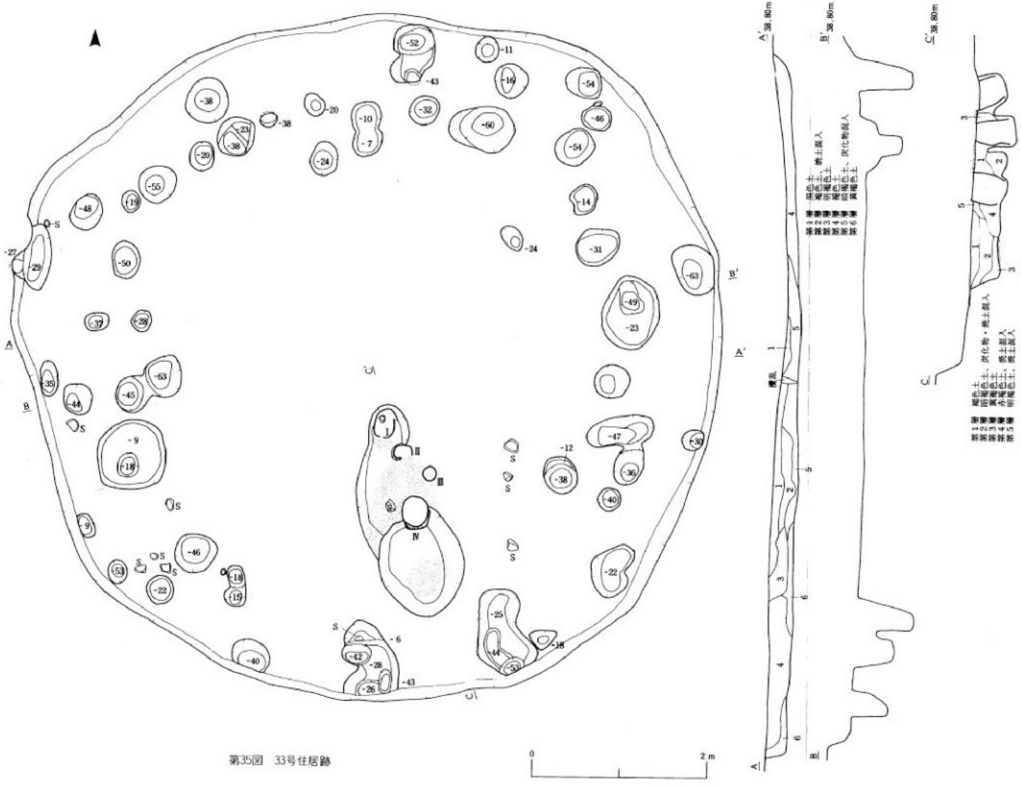
41はⅠ、42はⅡ、43はⅢ、44はⅣ期の埋設土器である。41～43は下半欠損の深鉢形土器で、口縁部は磨消無文帯である。42はLRLの複節斜縄文である。44は上・下半欠損の深鉢形土器である。地文はLR（縦回転）単節斜縄文である。195～204は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯で文様が施されている。198・201・204は刺突文、202は縦にS字状結節が施される。

石器（第78図）

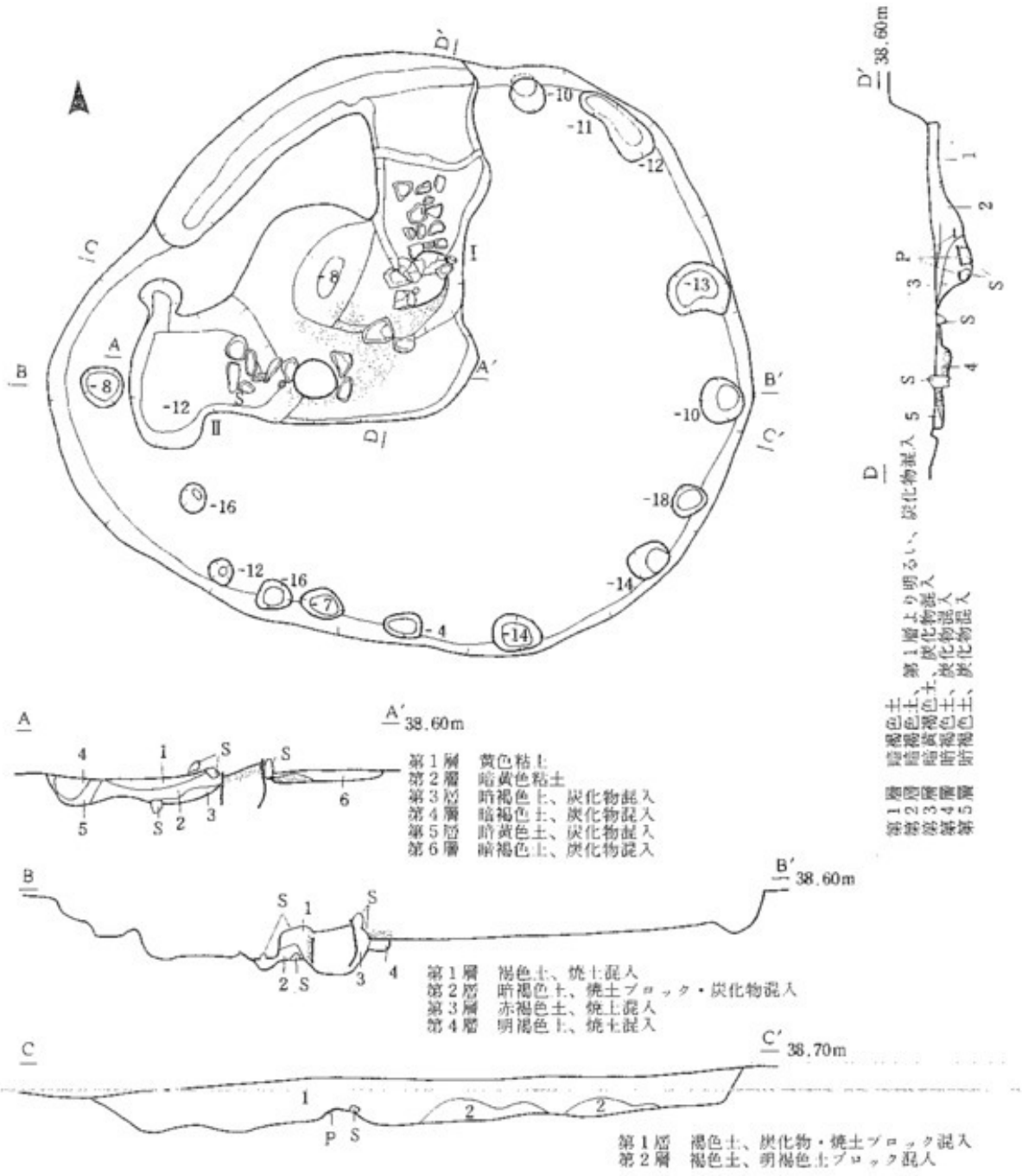
25は横型石匙、26はヘラ状石器、27は磨製石斧である。

土製品（第78図）

28は用途不明の土製品で円盤状を呈する。対になる4ヶ所に貫通する孔が穿たれている。



第35図　33号住居跡



A
A′ 38.60m
第1層　黄色粘土
第2層　暗黄色粘土
第3層　暗褐色土、炭化物混入
第4層　暗褐色土、炭化物混入
第5層　暗黄色土、炭化物混入
第6層　暗褐色土、炭化物混入
B
B′ 38.60m
第1層　褐色土、焼土混入
第2層　暗褐色土、焼土ブロック・炭化物混入
第3層　赤褐色土、焼土混入
第4層　明褐色土、焼土混入
C
C′ 38.70m
第1層　褐色土、炭化物・焼土ブロック混入
第2層　褐色土、明褐色土ブロック混入
D
D′ 38.60m
第1層　暗褐色土
第2層　暗褐色土、第1層より明るい、炭化物混入
第3層　暗黄褐色土、炭化物混入
第4層　暗褐色土、炭化物混入
第5層　暗黄褐色土、炭化物混入
0
1 m

第36図　34号住居跡

34 号住居跡（第 36 図）

調査区北側で検出された。

プランは長軸 3.9 m、短軸 3.3 m の楕円形を呈する。確認面からの深さは 25 cm で、壁は斜めに立ち上がる。ピットは壁下に小さなものが 14 個検出されているが主柱穴は不明である。炉は北、西側に新旧二期検出された。Ⅰ期―北側に位置する古い炉である。石囲土器埋設部、石組掘り込み部、掘り込み部からなり壁に接する。石囲土器埋設部には、深鉢形土器が壊れた状態で出土している。また、石囲の礫は二次的に動いたり、抜き取られているものもある。石組掘り込み部は底部に礫が組まれている。廃棄後きれいに貼床されている。Ⅱ期―西側に位置する新炉である。石囲土器埋設部、掘り込み部からなる。石囲土器埋設部には上・下半欠損の深鉢形土器が埋設されている。石囲の礫は東側に遺存し、他は掘り込み部に流れ込んでいる。Ⅰ・Ⅱ期炉の埋設土器周辺は火熱を受けて赤変している。床面は平坦で堅く良好である。

出土遺物

土器（第 59 ・ 60 ・ 70 図）

45 は一期、46 はⅡ期炉埋設土器である。45 は口縁部、底部欠損の深鉢形土器である。頸部に一条の沈線が周り、口縁部は磨消無文帯である。地文は RLR の複節斜縄文である。46 は LR（縦回転）単節斜縄文である。205 ～ 212 は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯で文様が施される。208 は磨消帯に刺突文が施されている。

石器（第 78 図）

覆土から出土した。29 は細身のヘラ状石器、30 は掻器、31 は磨製石斧である。

35 号住居跡（第 37 図）

調査区北側で検出された。

プランは長軸 3.6 m、短軸 3.1 m の楕円形を呈する。確認面からの深さは 8 cm で壁は斜めに立ち上がる。ピットは 7 個検出されており、深さ 21 cm 以上の 4 個が主柱穴と思われる。炉は南側に位置している。石囲土器埋設部、堀り込み部からなる。礫、埋設土器は抜き取られており、数片が遺存する。周辺は火熱を受けて赤変している。床面は平坦で堅く良好である。

36 号住居跡（第 38 図）

調査区の北端東側で検出された。

プランは径 2.9 m のほぼ円形を呈する。確認面からの深さは 24 cm で、壁は斜めに立ち上がる。ピットは 9 個検出されており、深さ 12 cm 以上の 4 個が主柱穴と思われる。炉は南西部に位置している。土器埋設部と堀り込み部からなり、上・下半欠損の深鉢形土器が埋設されている。周辺、堀り込み部内は火熱を受けて赤変している。床面は平坦で堅く良好である。

出土遺物

土器（第 60 ・ 70 図）

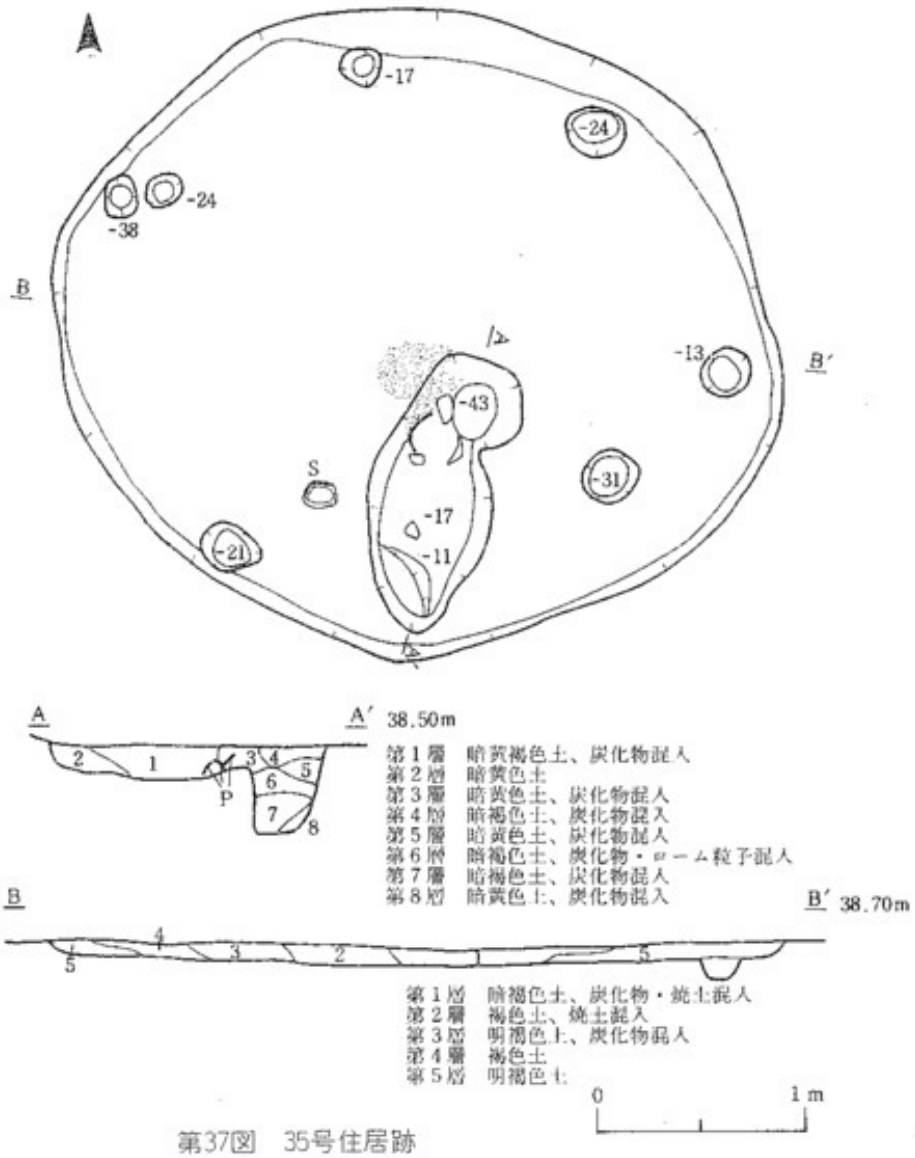
47は炉埋設土器である。上・下半欠損の深鉢形土器で、地文はLR（縦回転）単節斜縄文である。二次火熱を受け赤変している。213～218は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯が施されている。

37号住居跡（第39図）

調査区中央部北端で検出された。

プランは長軸8.5m、短軸7.8mの楕円形を呈する。確認面からの深さは40cmで壁は斜めに立ち上がる。炉は南西部に位置し、新旧二期検出されている。

I期—古い炉で、土器埋設部と堀り込み部からなる。土器埋設部はII期炉に壊されているが二個体分の土器破片が埋設されている。II期——回り大きくした新炉である。石囲土器埋設部と石組堀り込み部からなる。石囲土器埋設部には上・下半欠損の深鉢形土器が埋設されており、礫は一部抜き取られているが二重になっている。本住居跡は炉の移築にともない住居規模を拡張していることがピットの配列から推測できる。ピットは総数63個検出されている。大別すると壁下を周るピットと、若干内側を周るピットがある。内側を周るピットはI期炉堀り込み部のちょうど外側に配列されることからI期にともなうものと思われ、壁下を周るピットはII期炉拡張にともなうピットと思われる。床面は平坦で堅く良好である。



第37図　35号住居跡

出土遺物

土器（第60・70・71図）

48・49はI期、50はII期炉埋設土器である。48・49は破片で、48はRLR複節斜縄文、49はRL（縦回転）単節斜縄文である。219～233は覆土から出土した。いずれも沈線区画の磨消帯で文様が施されるが、221～225は磨消帯に円形、楕円形の刺突文が施される。219は縄の結び目が明瞭

に表われている。

石器（第79・80図）

覆土から出土している。33・34図は磨製石斧である。59は両面、60は片面使用のくぼみ石である。

38号住居跡（第40図）

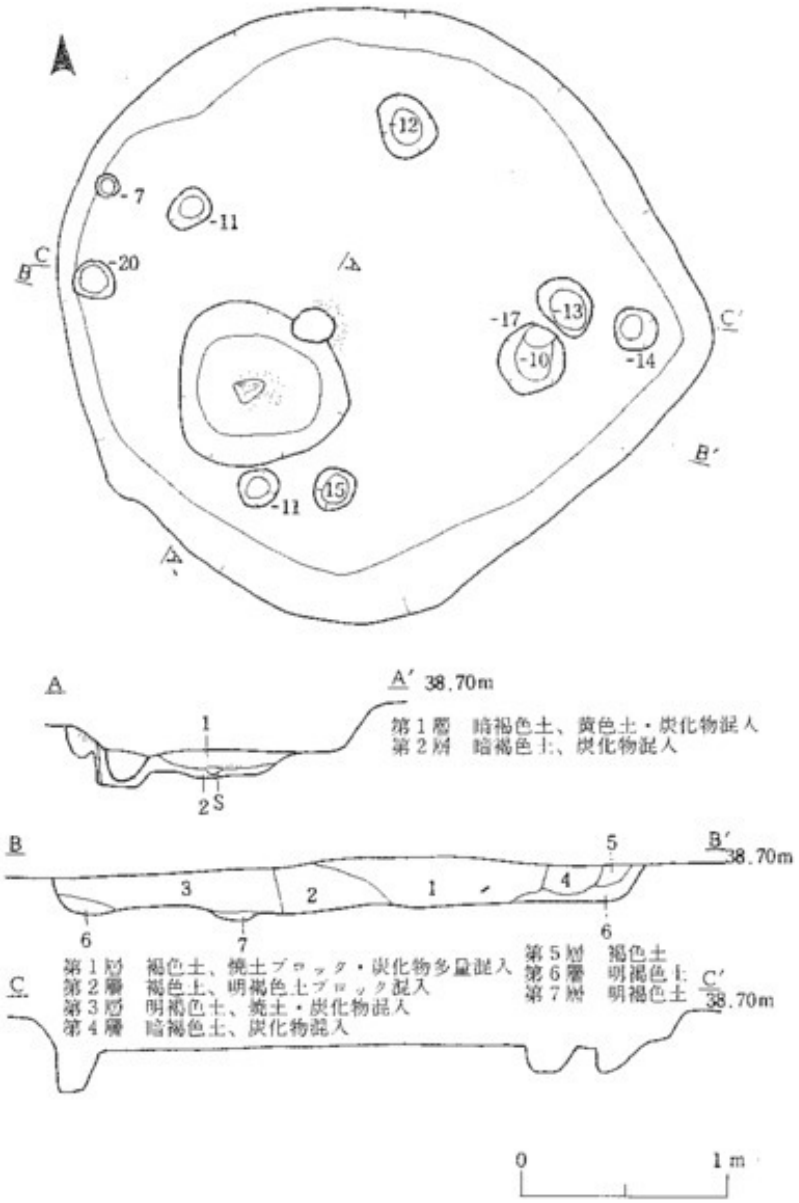
調査区北端西側で検出された。土取りの攪乱のため覆土は削られている。

プランは長軸4.6m、短軸3.5mの楕円形を呈する。壁は削られほとんど不明であるが、わずかに東壁が遺存している。ピットは10個検出されているが主柱穴は不明である。炉は中央東側に位置する。土器埋設炉で上・下半欠損の深鉢形土器が埋設されている。周辺は火熱により赤変している。床面は平坦であるが軟弱である。

出土遺物

土器（第61図）

51は炉埋設土器である。上・下半欠損の深鉢形土器で、地文はRL（縦回転）単節斜縄文である。



第38図　36号住居跡

石器（第79図）

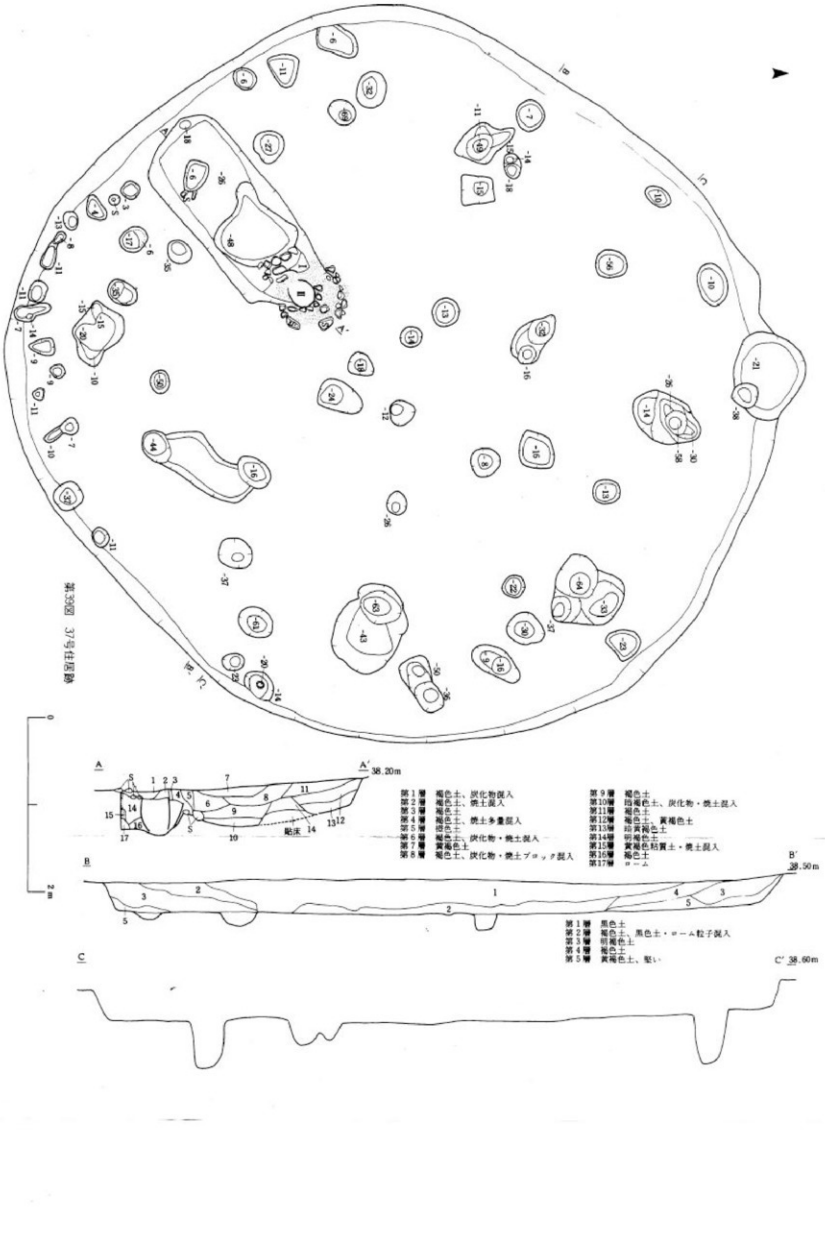
35は覆土から出土した。掻器と思われる。頁岩である。

39号住居跡（第41図）

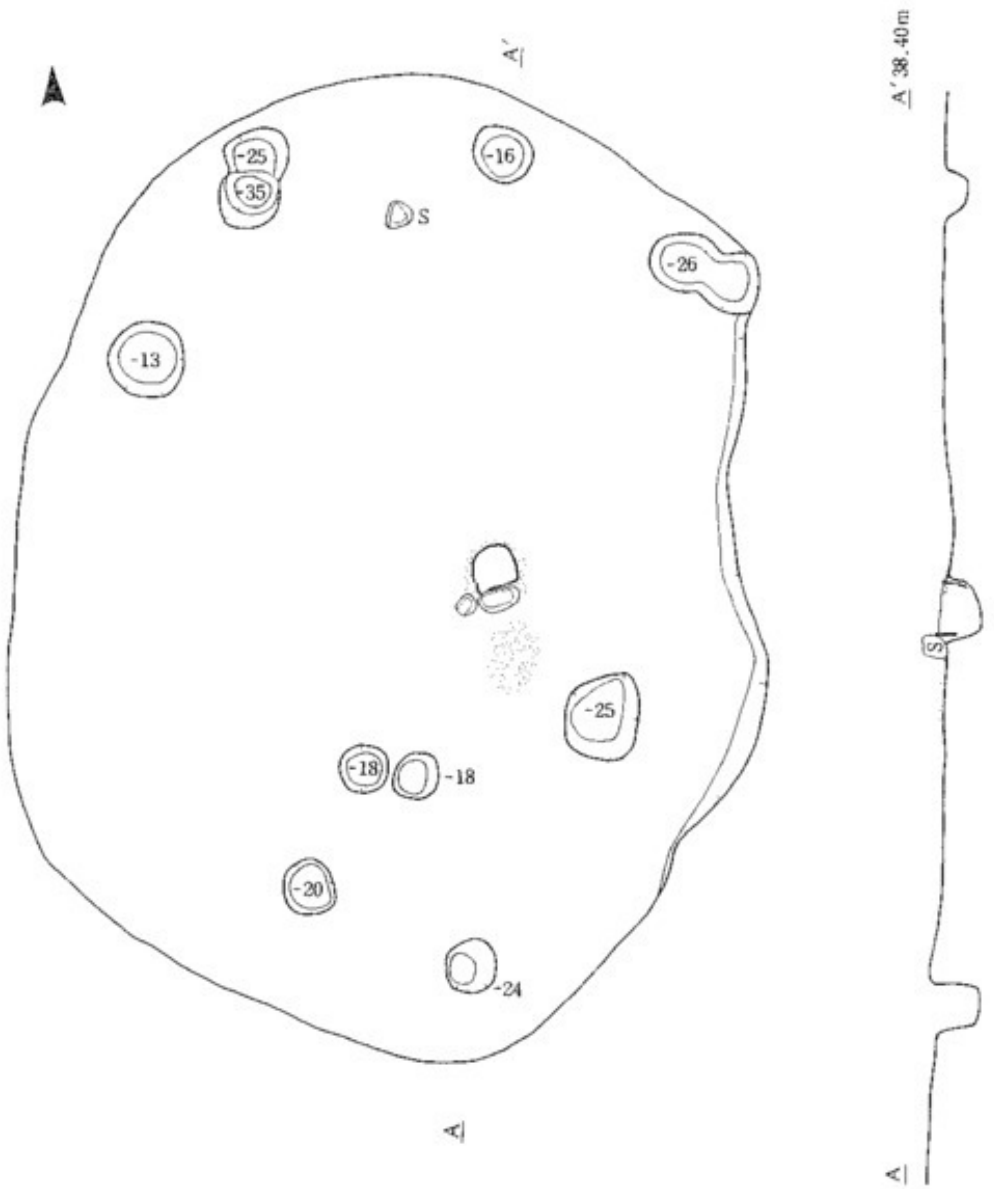
調査区の北部西側で検出された。

プランは径2.7mのほぼ円形を呈する。確認面からの深さは8cmで壁は斜めに立ち上がる。ピットは4個検出され主柱穴と思われる。炉は東南部に位置する。土器埋設部と掘り込み部からなり、深鉢形土器が埋設され、周辺は火熱を受けて赤変している。床面は平坦で堅く良好である。

出土遺物


A
A'
38.20m
第1層 褐色土、炭化物混入
第2層 褐色土、焼土混入
第3層 褐色土
第4層 褐色土、焼土多量混入
第5層 褐色土
第6層 褐色土、炭化物・焼土混入
第7層 黄褐色土
第8層 褐色土、炭化物・焼土ブロック混入
第9層 褐色土
第10層 暗褐色土、炭化物・焼土混入
第11層 褐色土
第12層 褐色土と黄褐色土
第13層 暗黄褐色土
第14層 明褐色土
第15層 黄褐色粘質土・焼土混入
第16層 褐色土
第17層 ローム
貼床
B
B'
38.50m
第1層 黒色土
第2層 褐色土、黒色土・ローム粒子混入
第3層 明褐色土
第4層 褐色土
第5層 黄褐色土、堅い
C
C'
38.60m

第36図 37号住居跡



第40図　38号住居跡

土器（第61・71図）

52は炉埋設土器である。下半欠損の深鉢形土器で沈線区画の磨消帯が「J」字状に展開する。地文はLR（縦回転）単節斜縄文である。234～237は覆土から出土した。234～236は沈線区画の磨消帯が施され、236は刺突文が施される。237は櫛状工具による流水状の文様が施されている。

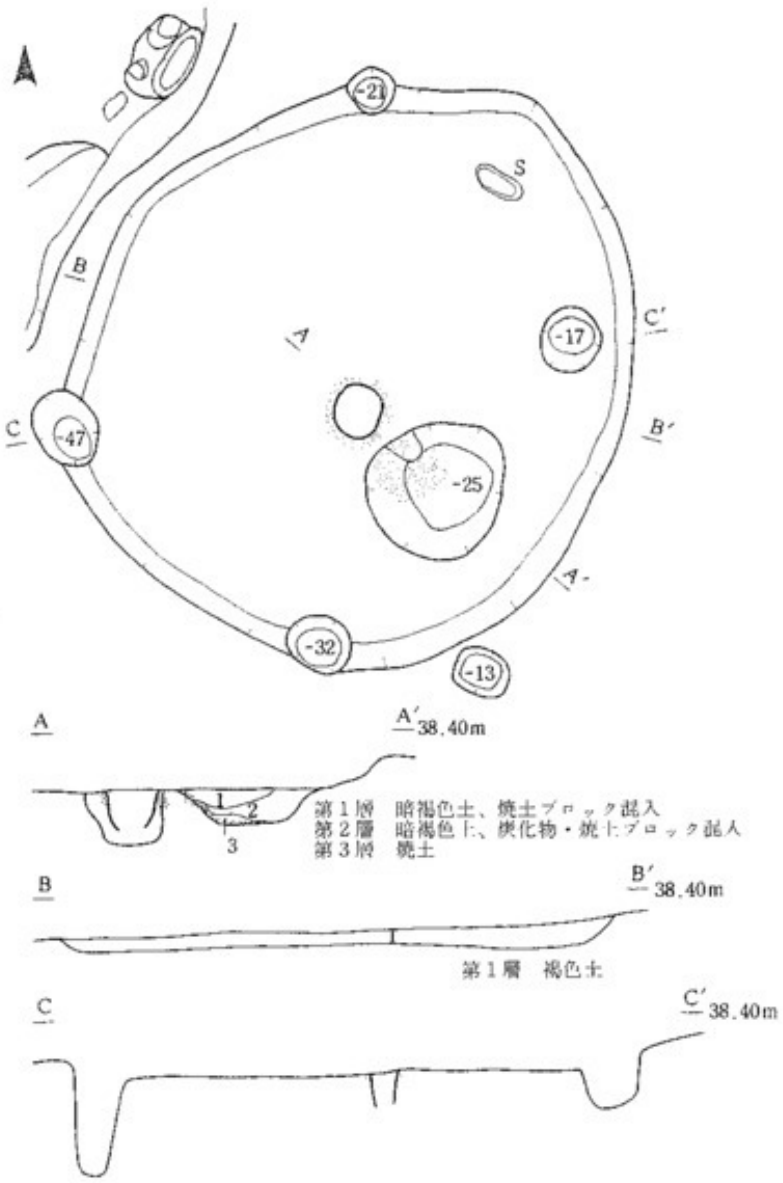
石器（第79図）

36は覆土から出土した磨製石斧である。

40号住居跡（第42図）

調査区北西端で検出された。

プランは長軸 7.0 m、短軸 6.4 mの楕円形を呈する。西側は斜面になっており、覆土、壁は大分削平されている。確認面からの深さは 70 cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁直下には北東部を除き周溝が周っている。ピットは総数 38 個検出されている。主柱穴は掘り方規模の大きい深さ 50 cm以上のピットと思われる。炉は二ケ所に検出された。①南東部に位置し、石囲土器埋設部と石組掘り込み部からなる。石囲土器埋設部は礫が円形にきれいに組まれており、下半欠損の深鉢形土器が埋設されている。周辺は火熱で赤変している。石組掘り込み部は前、側壁に礫がきれいに組まれている。②、①炉の中軸線上 3.2 mのところに位置する。土器埋設炉で下半欠損の深鉢形土器が埋設されている。周辺は火熱で赤変している。床面は平坦で堅く良好である。



第41図　39号住居跡

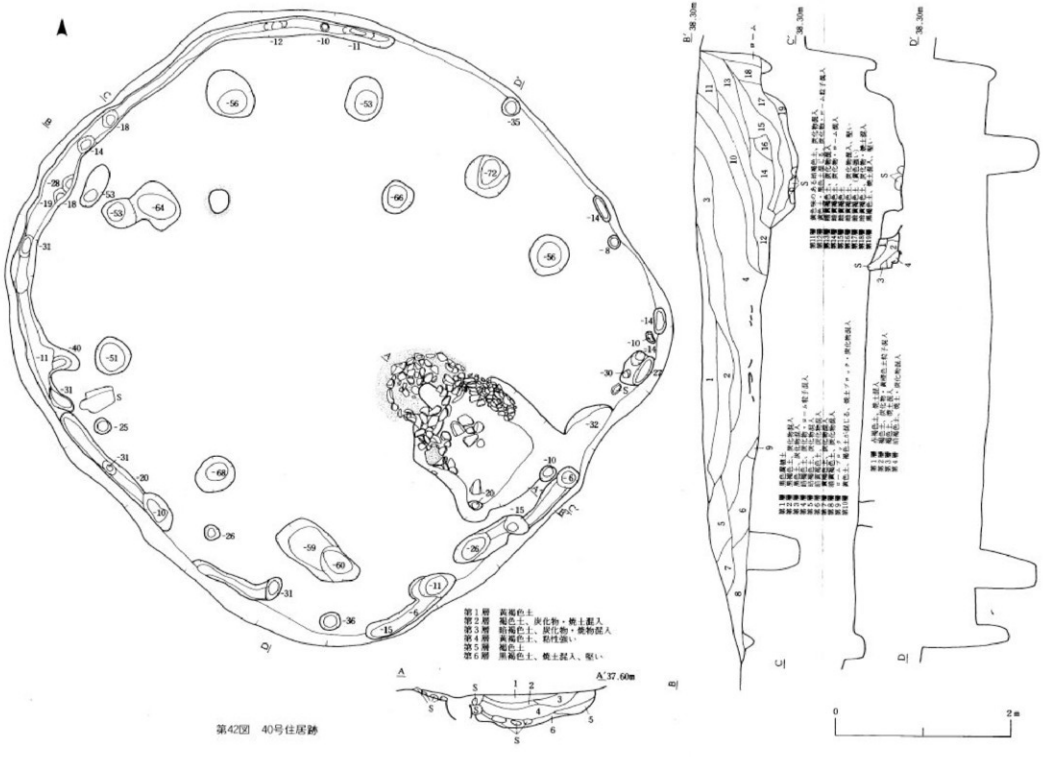
出土遺物

土器（第61・62・71～73図）

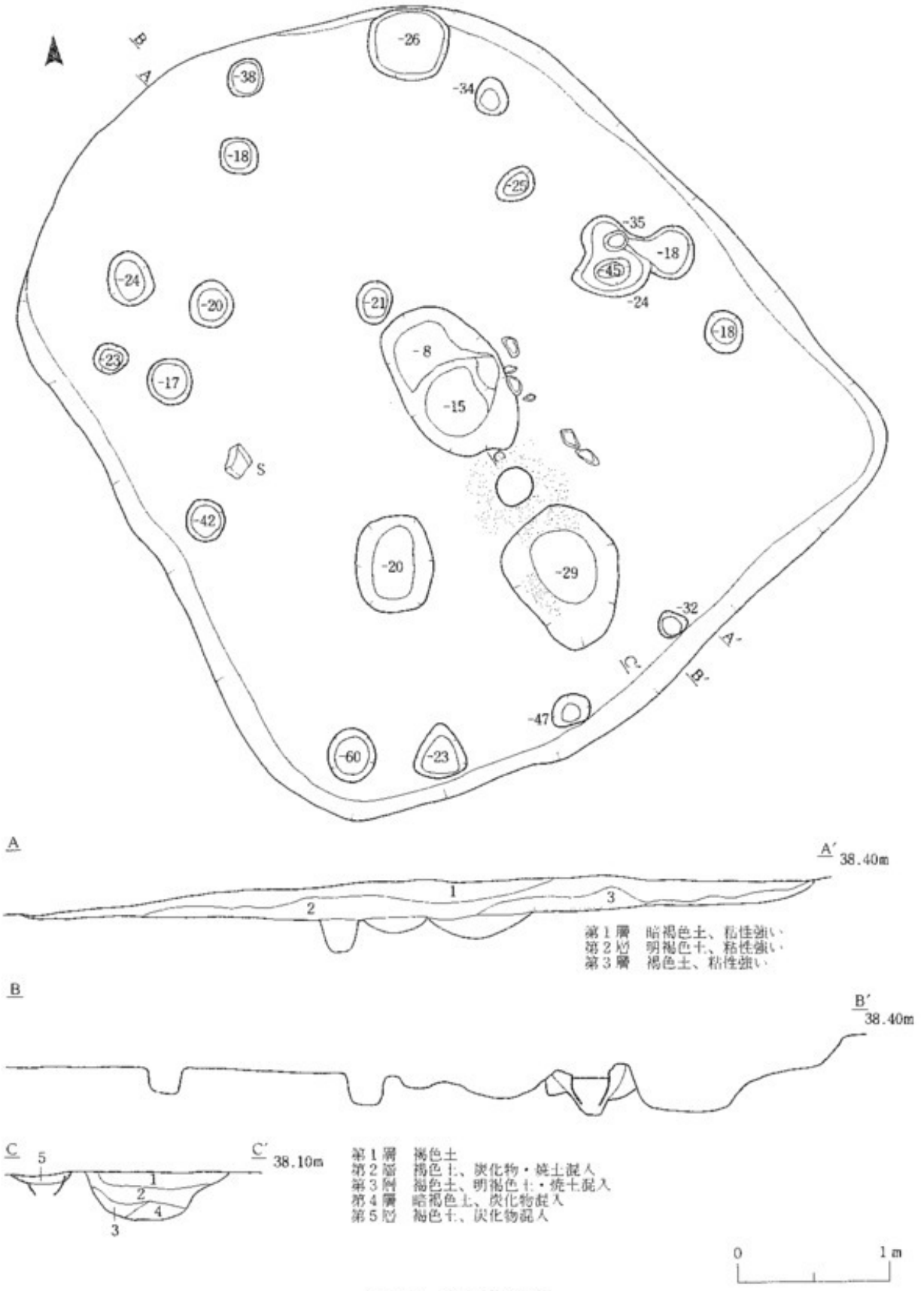
53・54は炉埋設土器である。53は口縁部、下半が欠損する深鉢形土器である。沈線区画の磨消帯が「J」字状に横方向に展開する。地文はLR（縦回転）単節斜縄文である。54は胴下半が欠損する深鉢形土器である。沈線区画の磨消帯が「J」字状に展開する。地文はL 撚の撚糸文である。55は覆土から一括出土した深鉢形土器である。口縁部は磨消無文帯で頸部に一条の沈線が周っている。地文はLR（縦回転）単節斜縄文である。238～267は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯で文様が施される。249～254、265～267のように刺突文が施されるものもある。

石器（第79・80図）

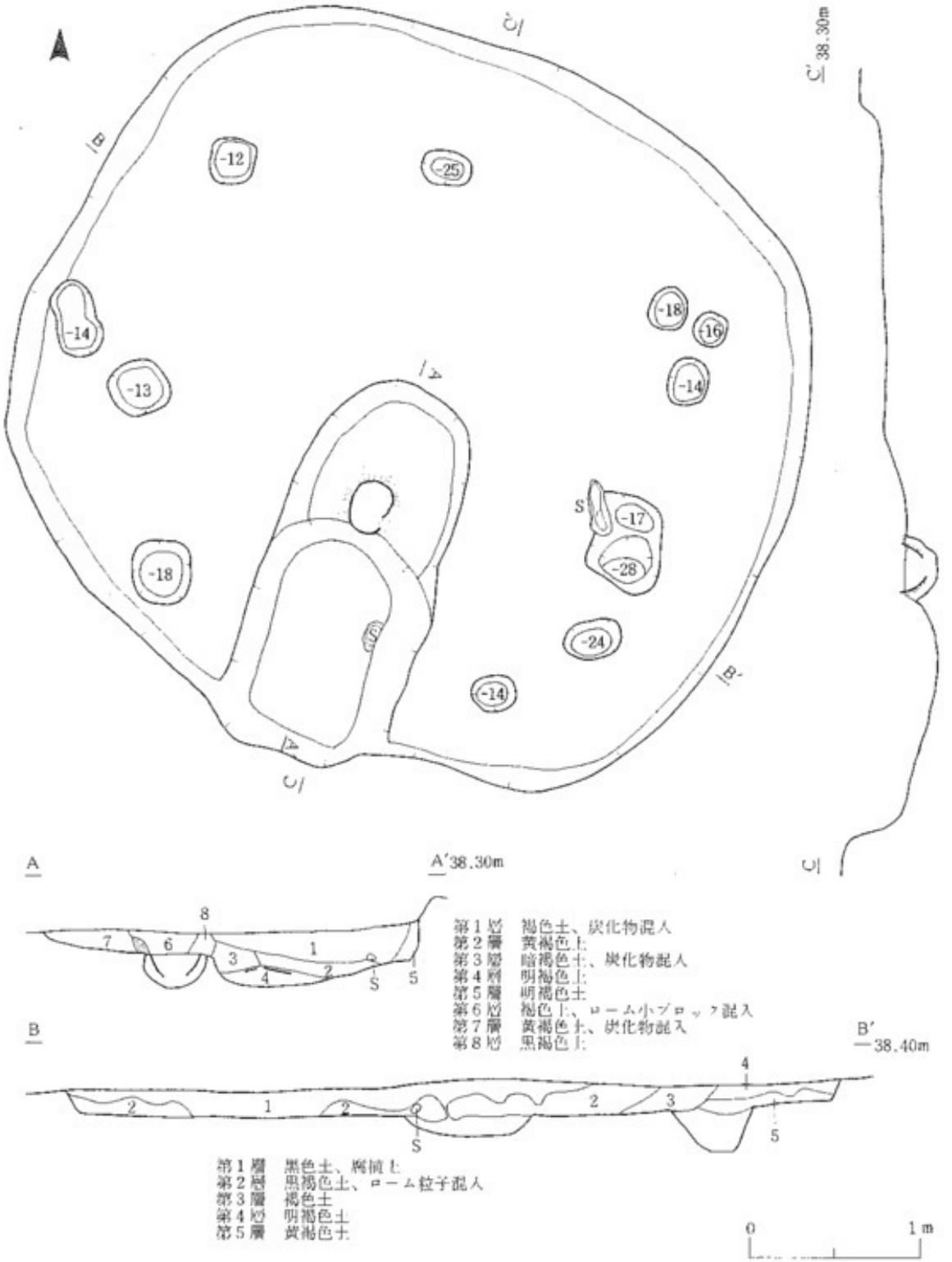
覆土から出土した。37は有茎の石鏃で基部にアスファルトが付着している。38は縦型、39は横型


第1層　黄褐色土
第2層　褐色土、炭化物・焼土混入
第3層　暗褐色土、炭化物・焼物混入
第4層　黄褐色土、粘性強い
第5層　褐色土
第6層　黒褐色土、焼土混入、堅い
A'37.60m
B'38.30m
C'38.30m
D'38.30m
0
2m

第42図　40号住居跡


A
B
C
S
-26
-38
-34
-18
-25
-35
-18
-45
-24
-24
-20
-21
-18
-23
-17
-8
-15
-42
-20
-29
-32
-47
-60
-23
A
A′ 38.40m
1
2
3
第1層 暗褐色土、粘性強い
第2層 明褐色土、粘性強い
第3層 褐色土、粘性強い
B
B′ 38.40m
C
C′ 38.10m
5
1
2
4
3
第1層 褐色土
第2層 褐色土、炭化物・焼土混入
第3層 褐色土、明褐色土・焼土混入
第4層 暗褐色土、炭化物混入
第5層 褐色土、炭化物混入
0
1m

第43図　41号住居跡


C
C'
38.30m
B
B'
-12
-25
-14
-18
-16
-13
-14
-18
S
-17
-28
-24
-14
A
A'38.30m
8
7
6
3
1
4
2
S
5
第1層　褐色土、炭化物混入
第2層　黄褐色土
第3層　暗褐色土、炭化物混入
第4層　明褐色土
第5層　明褐色土
第6層　褐色土、ローム小ブロック混入
第7層　黄褐色土、炭化物混入
第8層　黒褐色土
B
B'
38.40m
4
2
1
2
S
2
3
5
第1層　黒色土、焼土
第2層　黒褐色土、ローム粒子混入
第3層　褐色土
第4層　明褐色土
第5層　黄褐色土
0
1m

第44図　42号住居跡

石匙である。40・41はヘラ状石器である。42は掻器、43・44は磨製石斧である。61・62は磨石、63は両面使用のくぼみ石である。

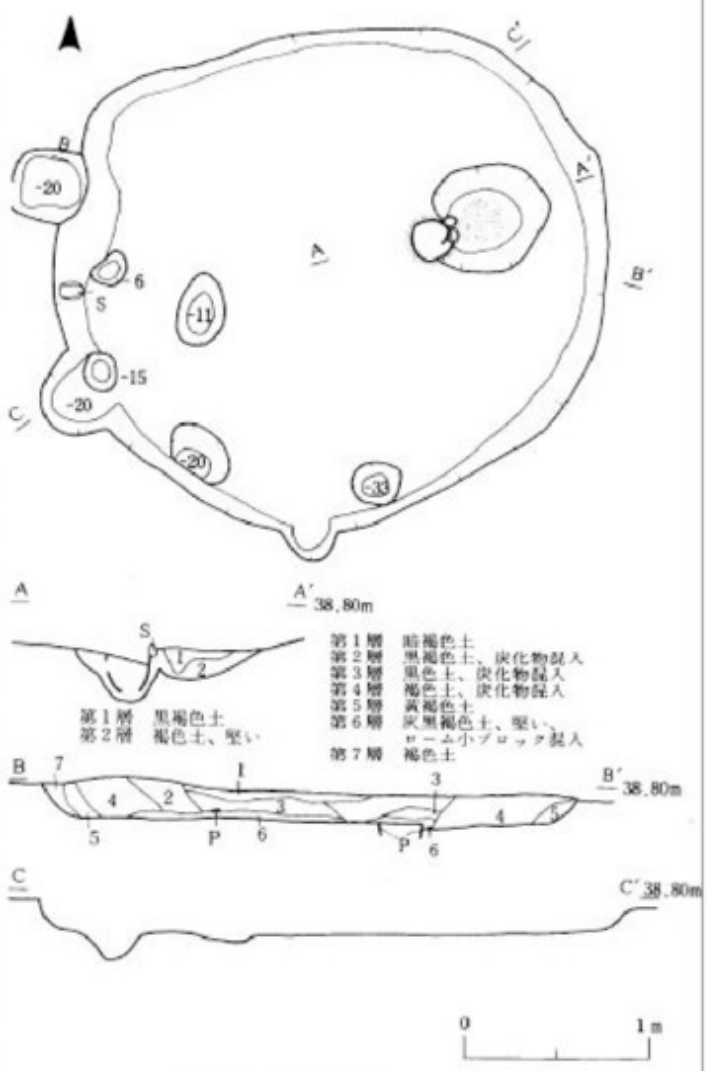
土製品（第79図）

45は覆土から出土した用途不明の円盤状を呈する。表面には円形刺突文が施され、2ケ所に貫通する孔が穿たれている。

41号住居跡（第43図）

調査区北西端で検出された。

プランは長軸5.2m、短軸4.2mの楕円形を呈する。確認面からの深さは23cmで壁は斜めに立ち上がる。北西壁は削られて不明である。ピットは19個検出されている。主柱穴は掘り方が大きくしっかりした深さ20cm以上の4個と思われる。炉は新旧二期検出された。I期—中央部に位置する。土器埋設部と掘り込み部が認められるが、埋設土器は抜き取られ不明である。II期—I期炉の南東部に移築されている。土器埋設部と掘り込み部からなり、上・下半欠損の深鉢形土器が埋設されている。周辺は火熱で赤変している。床面は平坦で堅く良好である。



第45図　43号住居跡

出土遺物

土器（第62・73図）

56はII期炉埋設土器である。上・下半欠損の深鉢形土器で、地文はRLRの複節斜縄文である。268～272は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯で文様が施される。

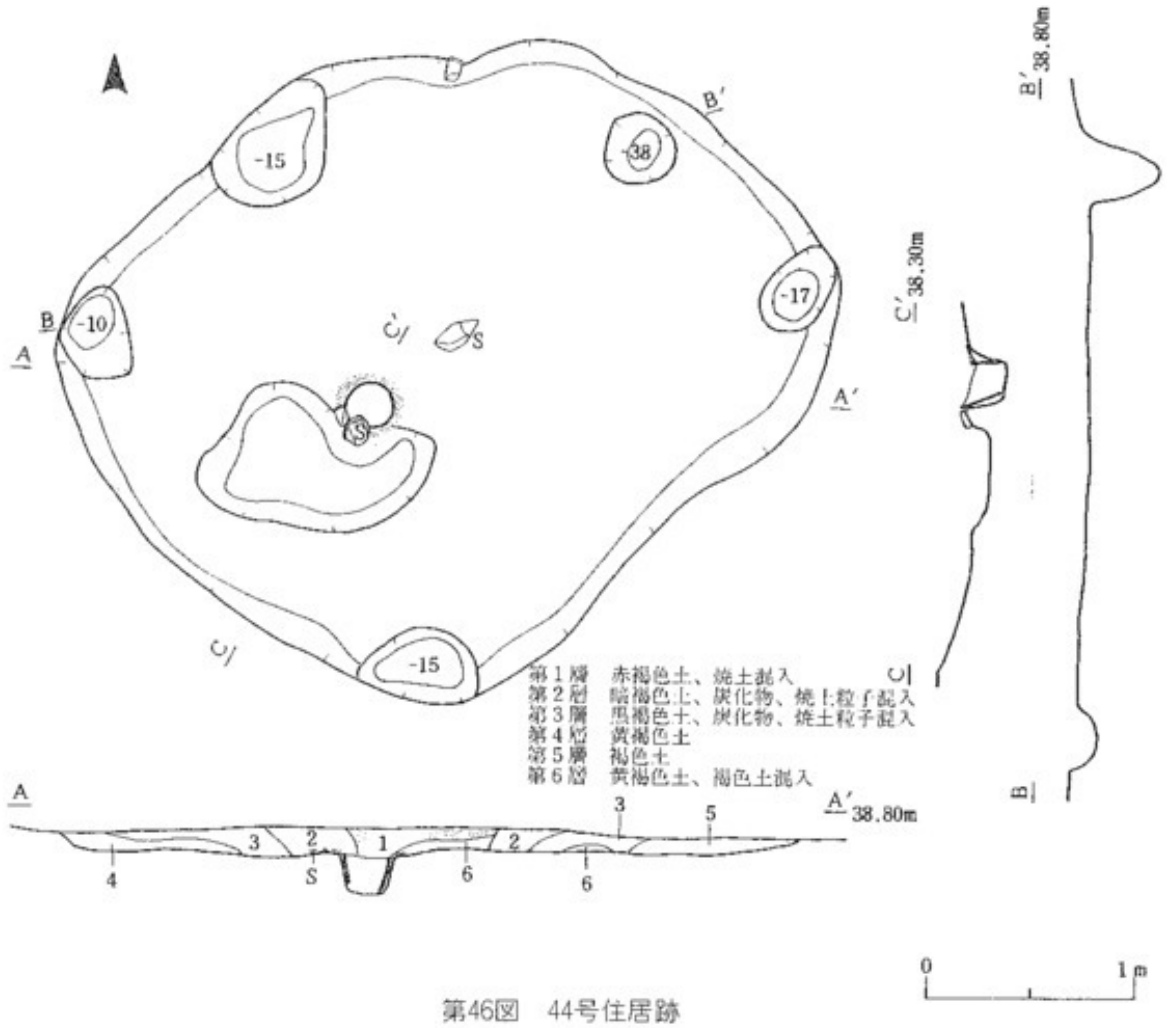
石器（第79図）

46は覆土から出土した。掻器と思われる。

42号住居跡（第44図）

調査区北西端で検出された。

プランは長軸4.6m、短軸4.5mの楕円形を呈する。確認面からの深さは20cmで壁は斜めに立ち



第46図　44号住居跡

上がる。ピットは12個検出されているが主柱穴は不明である。炉は南西部に位置する。土器埋設部と掘り込み部からなり、深鉢形土器が埋設されているが小破片が多い。周辺は火熱で赤変している。床面は平坦で堅く良好である。

出土遺物

土器（第73図）

273～289は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯が施される。275～278・289は磨消帯に刺突文が施されている。

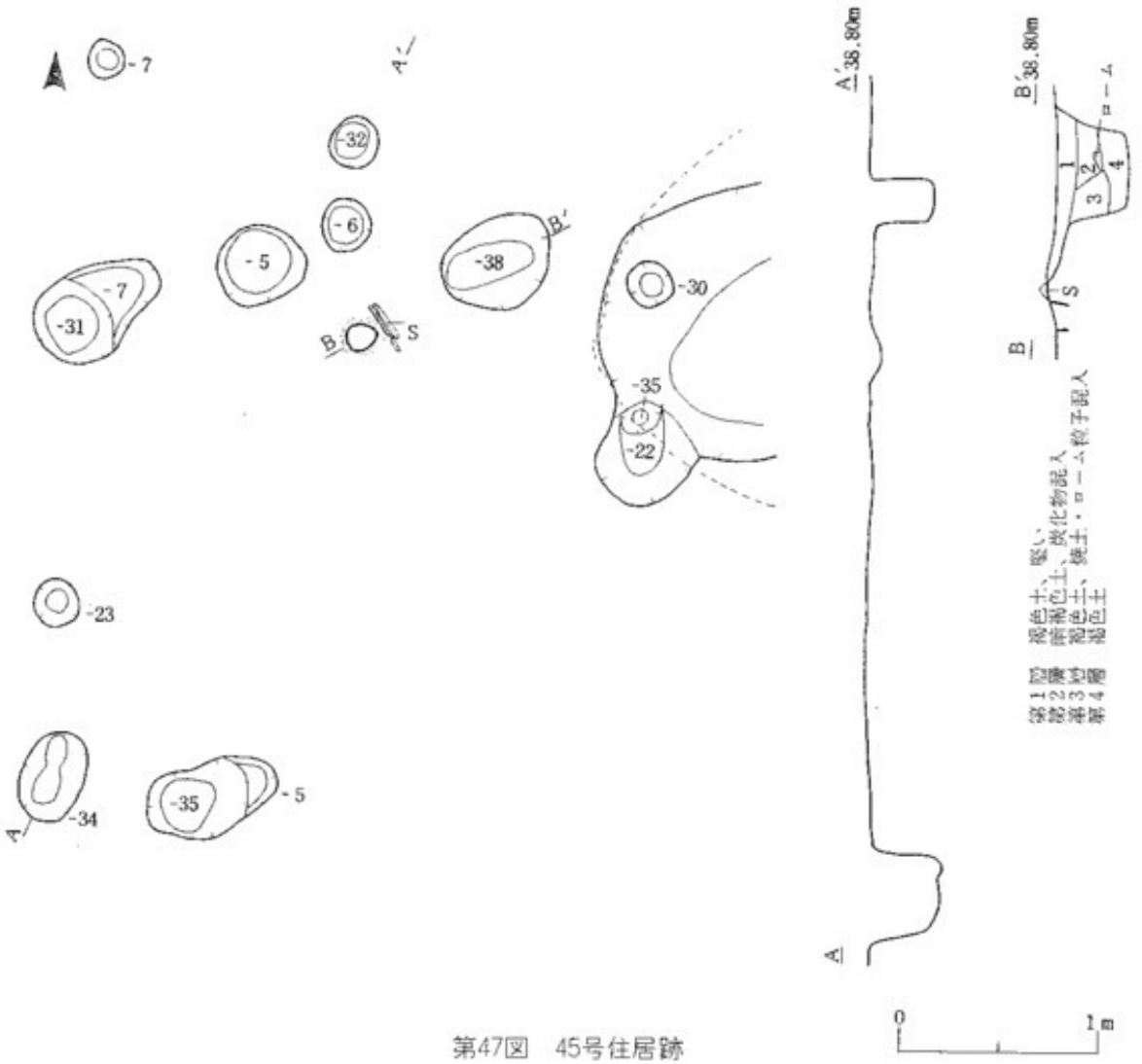
石器（第79図）

47は覆土から出土した。横型石匙である。

43号住居跡（第45図）

調査区北東部で検出された。

プランは長軸3.1m、短軸2.7mの楕円形を呈する。確認面からの深さは15cmで壁は斜めに立ち上がる。ピットは南西部に6個検出されているが主柱穴は不明である。炉は東側に位置している。土器埋設部と掘り込み部からなり、深鉢形土器が埋設されている。周辺、掘り込み部底部は火熱を



第47図　45号住居跡

受け赤変している。床面は平坦で堅く良好である。

出土遺物

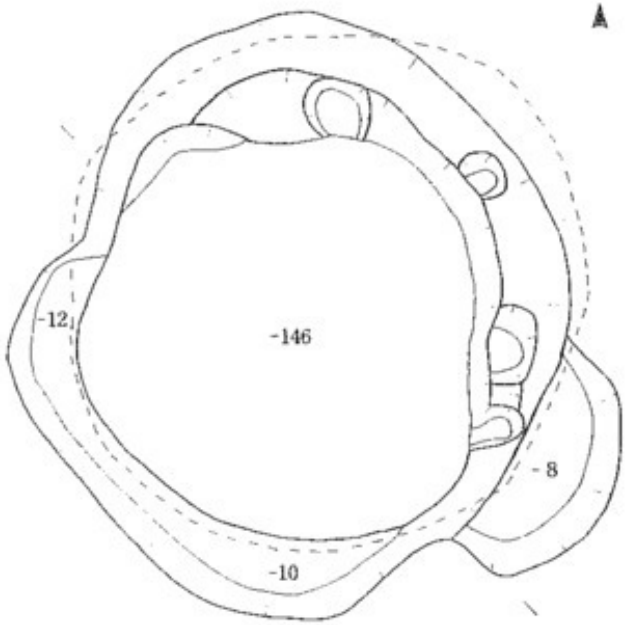
土器（第62・74図）

57は炉埋設土器である。上・下半欠損の深鉢形土器である。地文はR Lの撚糸文である。290～297は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯が施される。292は口縁部磨消帯に刺突文が施されている。

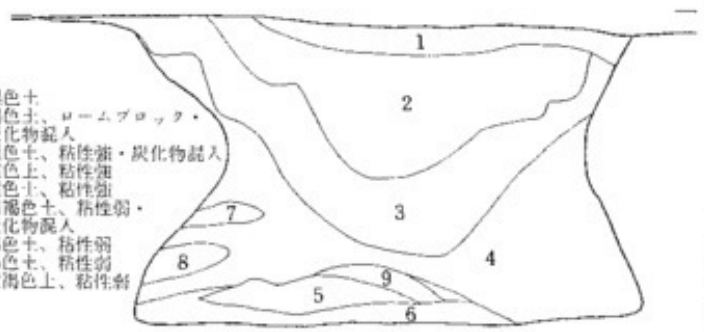
44号住居跡（第46図）

調査区の北東部で検出された。

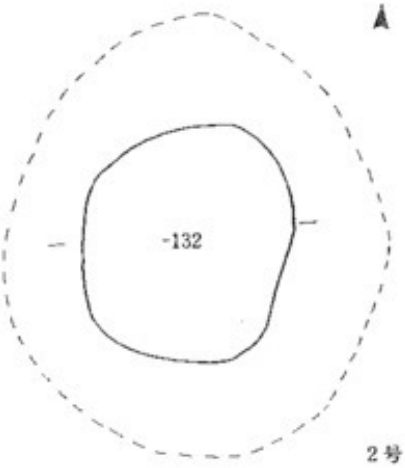
プランは長軸3.3m、短軸2.8mの楕円形を呈する。確認面からの深さは12cmで壁は斜めに立ち上がる。ピットは5個検出されており、これが主柱穴と思われる。炉は南西部に位置する。土器埋設部と掘り込み部からなり、深鉢形土器の破片が認められる。土器埋設部と掘り込み部との間には2個の礫が組まれている。周辺は火熱を受けて赤変している。床面は平坦で堅く良好である。



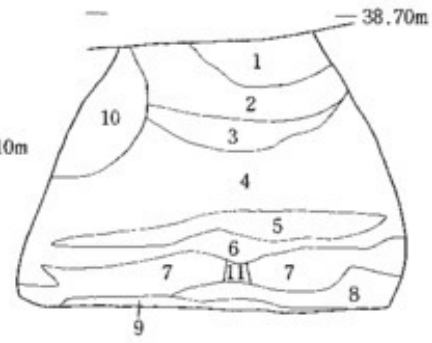
1号



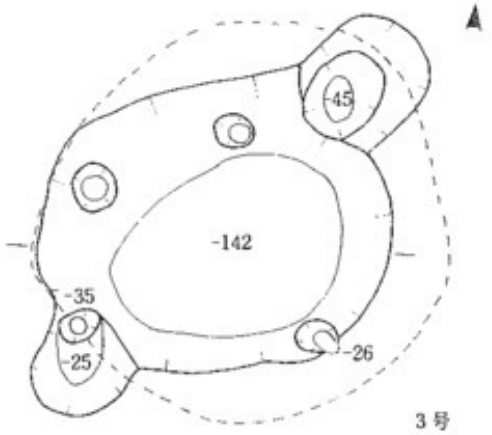
第1層　塁色土
第2層　褐色土、ローム・ブロック・炭化物混入
第3層　黒色土、粘性強・炭化物混入
第4層　黄色土、粘性強
第5層　黄色土、粘性強
第6層　暗褐色土、粘性弱・炭化物混入
第7層　褐色土、粘性弱
第8層　褐色土、粘性弱
第9層　黄褐色土、粘性弱



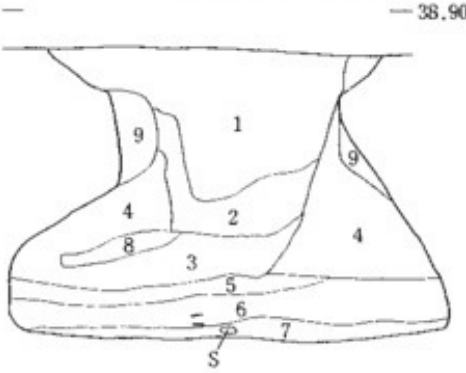
2号



第1層　褐色土、炭化物混入
第2層　褐色土、炭化物・明褐色土ブロック混入
第3層　暗褐色土、炭化物混入
第4層　暗褐色土、黄色土ブロック・炭化物混入
第5層　褐色土、炭化物・焼土混入
第6層　暗褐色土、炭化物混入
第7層　褐色土、暗黄褐色土混入
第8層　暗褐色土、炭化物混入
第9層　褐色土
第10層　明褐色土、褐色土混入
第11層　褐色土、明褐色土ブロック混入



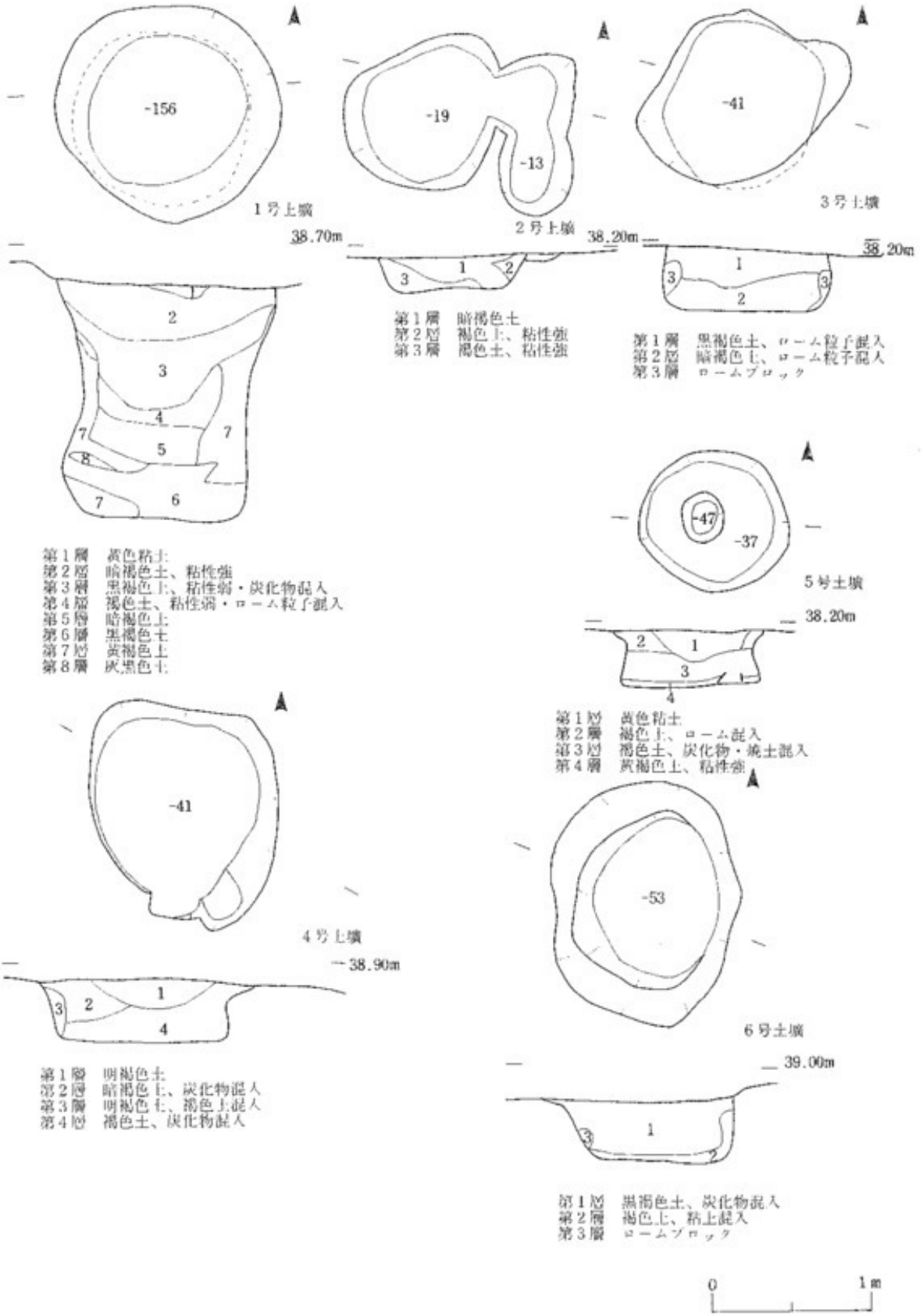
3号



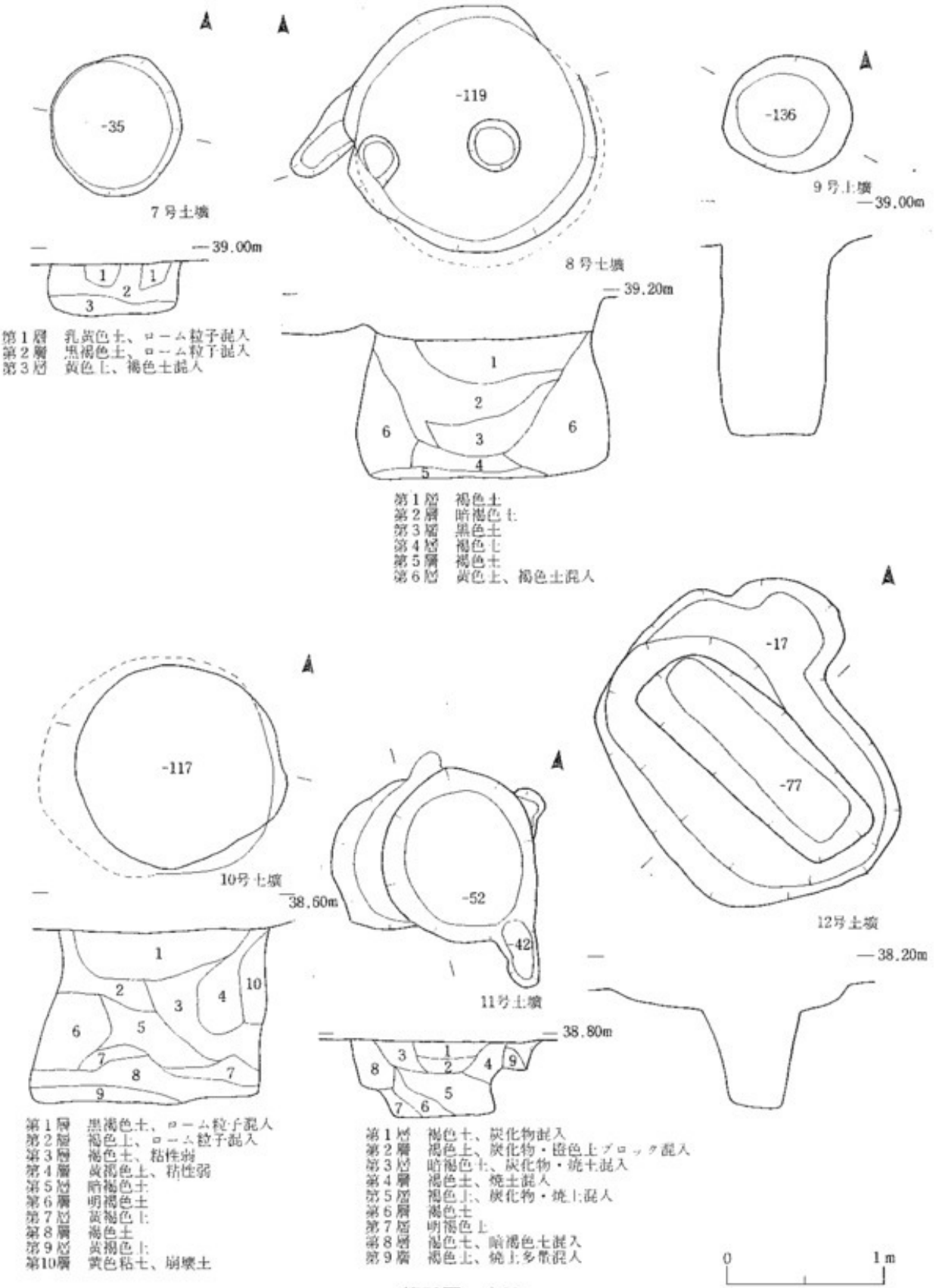
第1層　褐色土
第2層　暗褐色土、炭化物・砂質土混入
第3層　黒褐色、粘性弱
第4層　褐色土、粘性弱
第5層　赤褐色土、粘性強
第6層　暗褐色土、粘性強
第7層　黒褐色土、粘性強
第8層　黄色ローム土
第9層　黄色ローム土、崩壊土

0　1m

第48図　フラスコ状ピット


-156
1号土壙
38.70m
2
3
4
7
5
8
7
6
7
第1層 黄色粘土
第2層 暗褐色土、粘性強
第3層 黒褐色土、粘性弱・炭化物混入
第4層 褐色土、粘性弱・ローム粒子混入
第5層 暗褐色土
第6層 黒褐色土
第7層 黄褐色土
第8層 炭黒色土
-19
-13
2号土壙
38.20m
1
2
3
第1層 暗褐色土
第2層 褐色土、粘性強
第3層 褐色土、粘性強
-41
3号土壙
38.20m
1
3
3
2
第1層 黒褐色土、ローム粒子混入
第2層 暗褐色土、ローム粒子混入
第3層 ロームブロック
-41
4号土壙
38.90m
1
3
2
4
第1層 明褐色土
第2層 暗褐色土、炭化物混入
第3層 明褐色土、褐色土混入
第4層 褐色土、炭化物混入
-47
-37
5号土壙
38.20m
2
1
3
4
第1層 黄色粘土
第2層 褐色土、ローム混入
第3層 褐色土、炭化物・焼土混入
第4層 黄褐色土、粘性強
-53
6号土壙
39.00m
3
1
2
第1層 黒褐色土、炭化物混入
第2層 褐色土、粘土混入
第3層 ロームブロック
0
1m

第49図　土壙


-35
7号土壙
39.00m
1
2
3
第1層　乳黄色土、ローム粒子混入
第2層　黒褐色土、ローム粒子混入
第3層　黄色土、褐色土混入
-119
8号土壙
39.20m
1
2
3
4
5
6
6
第1層　褐色土
第2層　暗褐色土
第3層　黒色土
第4層　褐色土
第5層　褐色土
第6層　黄色土、褐色土混入
-136
9号土壙
39.00m
-117
10号土壙
38.60m
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
第1層　黒褐色土、ローム粒子混入
第2層　褐色土、ローム粒子混入
第3層　褐色土、粘性弱
第4層　黄褐色土、粘性弱
第5層　暗褐色土
第6層　明褐色土
第7層　黄褐色土
第8層　褐色土
第9層　黄褐色土
第10層　黄色粘土、崩壊土
-52
-42
11号土壙
38.80m
1
2
3
4
5
6
7
8
9
第1層　褐色土、炭化物混入
第2層　褐色土、炭化物・橙色土ブロック混入
第3層　暗褐色土、炭化物・焼土混入
第4層　褐色土、焼土混入
第5層　褐色土、炭化物・焼土混入
第6層　褐色土
第7層　明褐色土
第8層　褐色土、暗褐色土混入
第9層　褐色土、焼土多量混入
-17
-77
12号土壙
38.20m
0
1m

第50図　土壙

フラスコ状ピット一覧表

番号	壙口部			壙底部			深さ(cm)	出土遺物	備考
	長軸(cm)	短軸(cm)	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	平面形			
1	282	240	楕円形	266	252	楕円形	146	第75図296～301	
2	115	100	楕円形	216	182	楕円形	132		
3	171	140	楕円形	145		円形	142	第75図303～311 第76図322	

土壙一覧表

土壙番号	規模(cm)			平面形	断面形	出土遺物	備考
	長軸	短軸	深さ				
1	140		156	円形	袋状		
2	106	88	19	楕円形	鍋状		
3	112	98	41	楕円形	鍋状		
4	133	120	41	楕円形	鍋状		
5	90		37	円形	鍋状		
6	151	118	53	楕円形	鍋状		
7	85		35	円形	鍋状		
8	160	150	119	楕円形	袋状		
9	76		136	円形	筒状	第75図302	
10	135		117	円形	袋状		
11	114	96	52	楕円形	鍋状		

45号住居跡（第47図）

調査区中央部で検出された。土取りの攪乱で壁、プランは不明であり、炉、ピットから住居跡と確認した。ピットは8個検出されている。炉は石囲土器埋設炉と思われ、埋設土器東側に扁平な礫が組まれている。口縁部、底部欠損の小型鉢形土器が埋設されている。

出土遺物

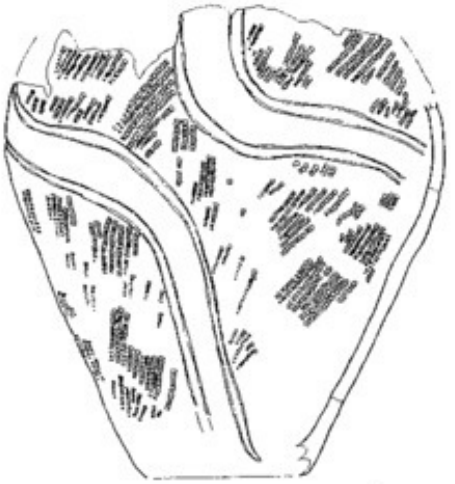
土器（第62図）

58は炉埋設土器である。口縁部、底部欠損の小型深鉢形土器で、沈線区画の磨消帯で楕円文が施される。地文はRLRの複節斜縄文である。

フラスコ状ピット、土壙出土遺物

1号フラスコ状ピット出土遺物

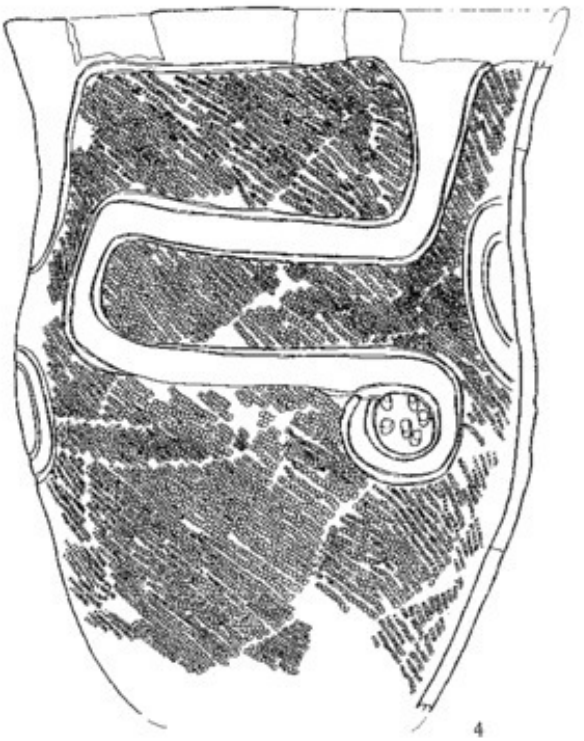
土器（第75図）



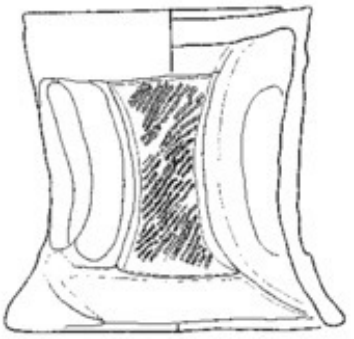
1

2

3



4

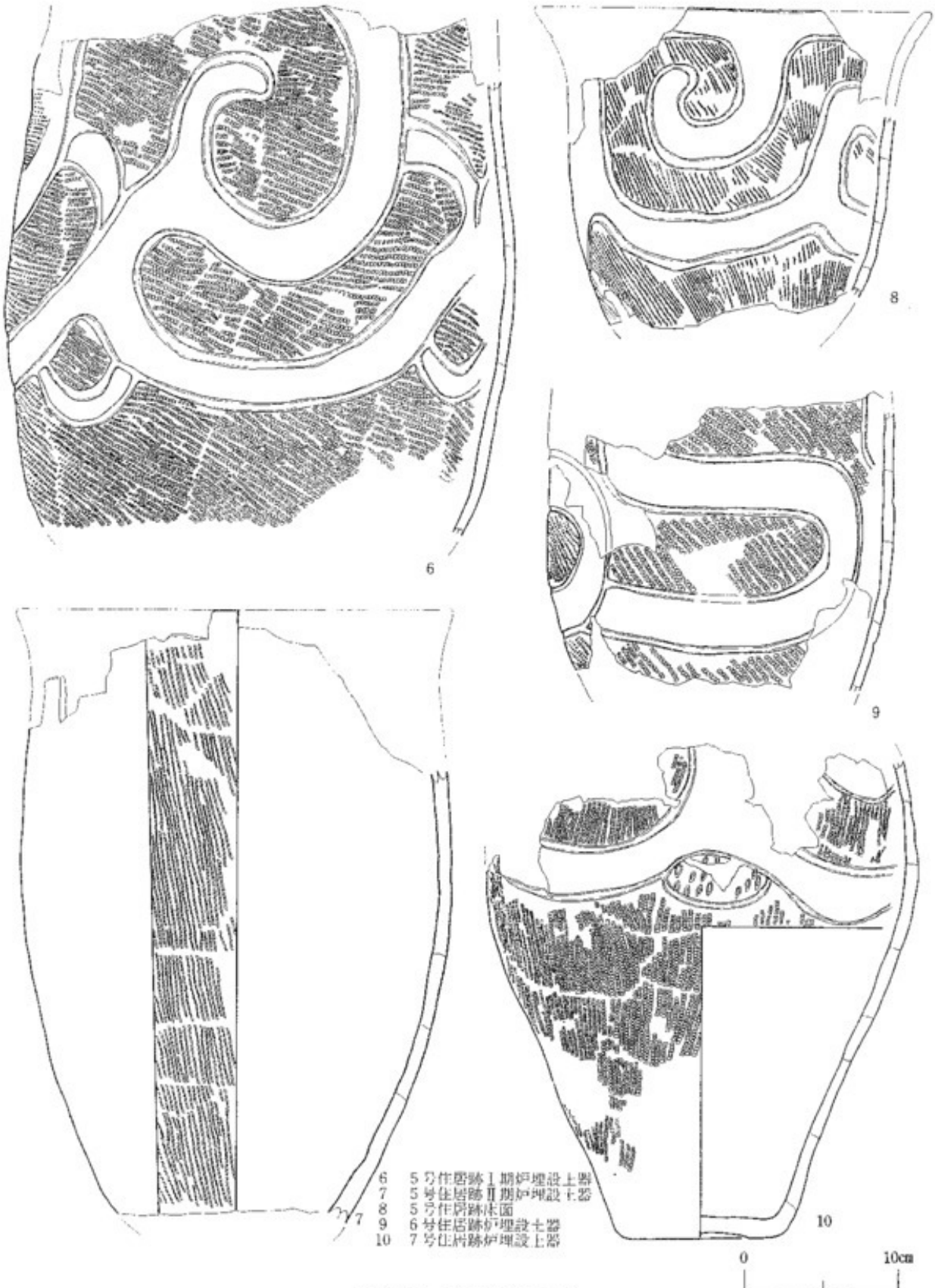


5

1　2号住居跡Ⅰ期炉埋設土器
2　2号住居跡Ⅱ期炉埋設土器
3　3号住居跡炉埋設土器
4　4号住居跡炉埋設土器
5　4号住居跡炉掘り込み部

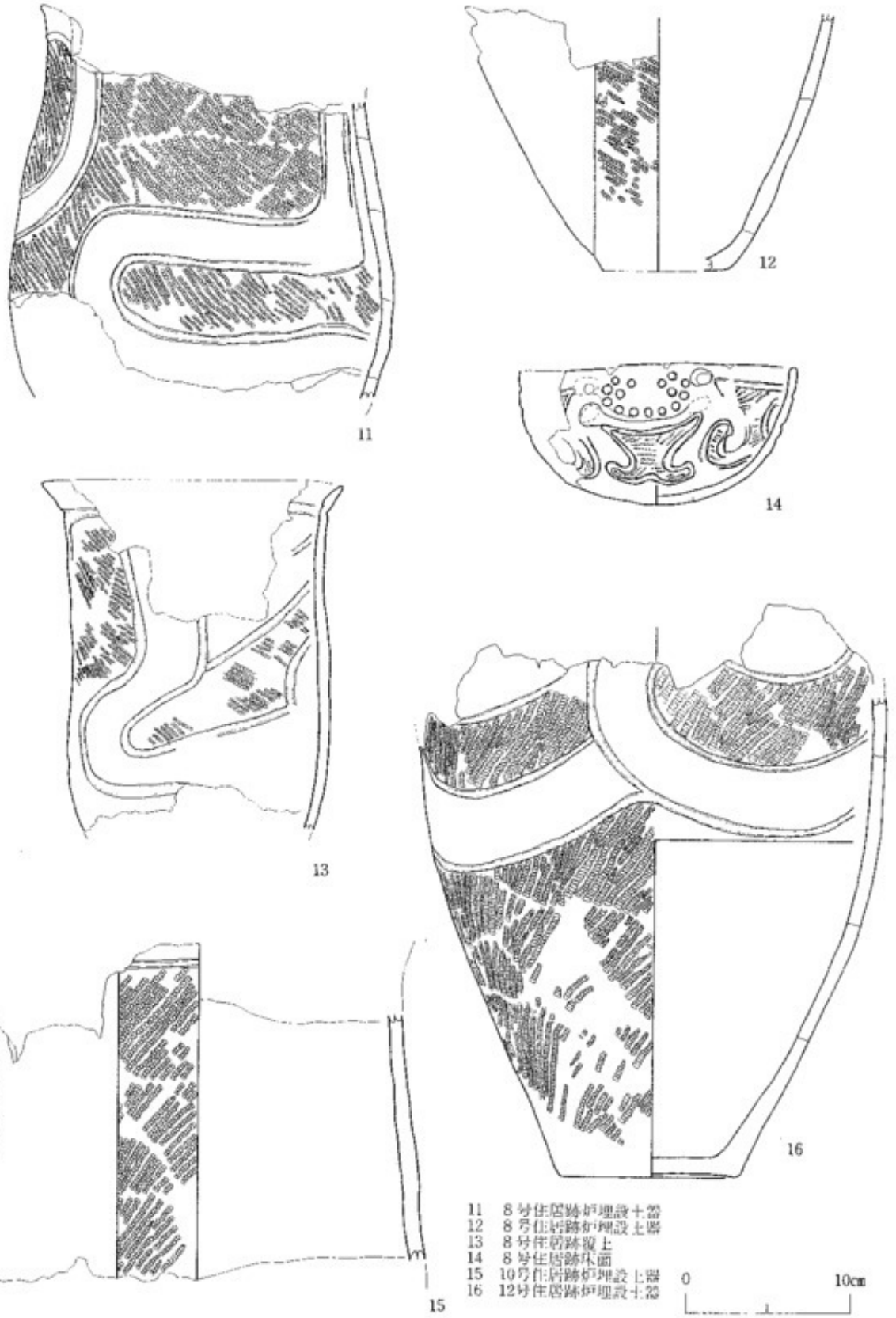
0　10cm

第51図　遺構内出土土器

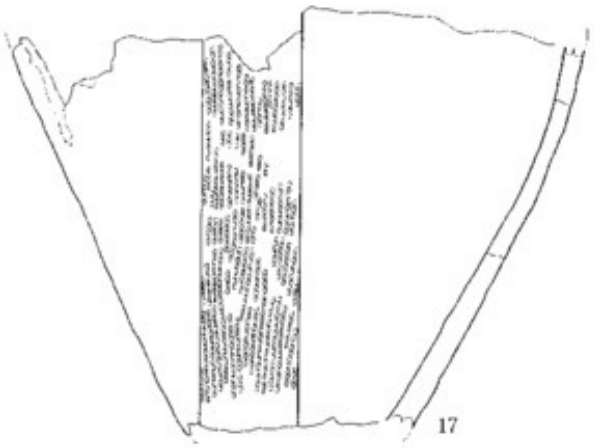


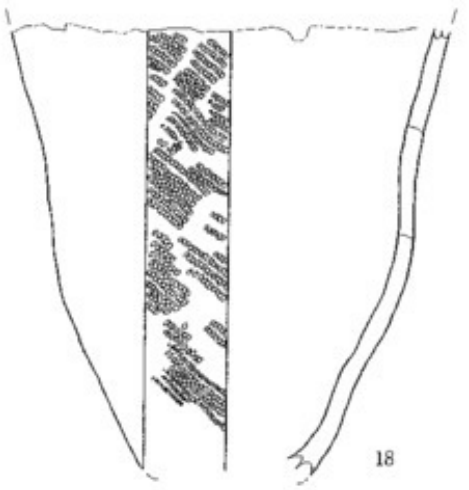
6　5号住居跡Ⅰ期炉埋設土器
7　5号住居跡Ⅱ期炉埋設土器
8　5号住居跡床面
9　6号住居跡炉埋設土器
10　7号住居跡炉埋設土器

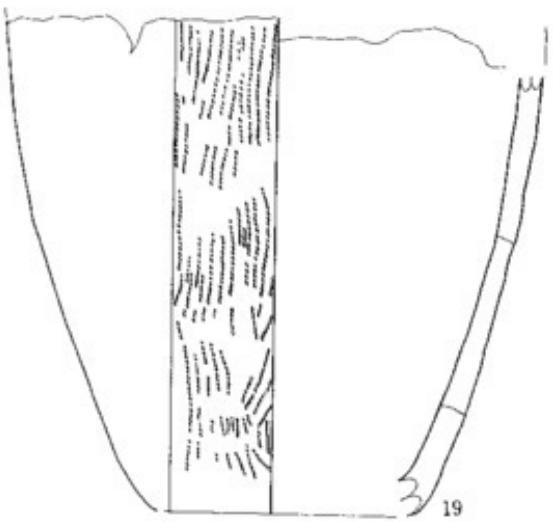
第52図　遺構内出土土器

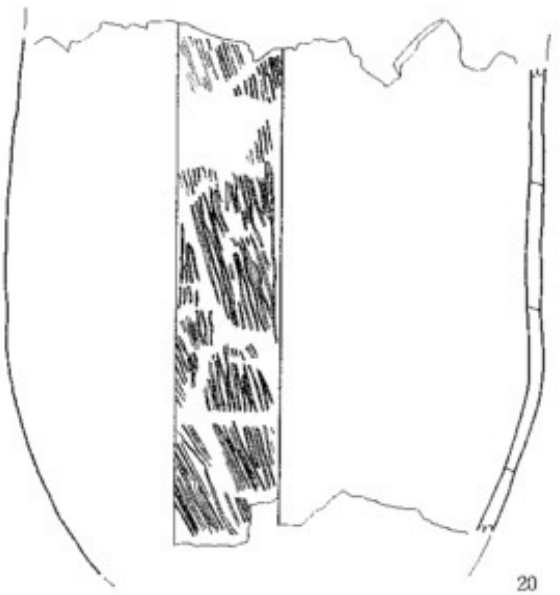


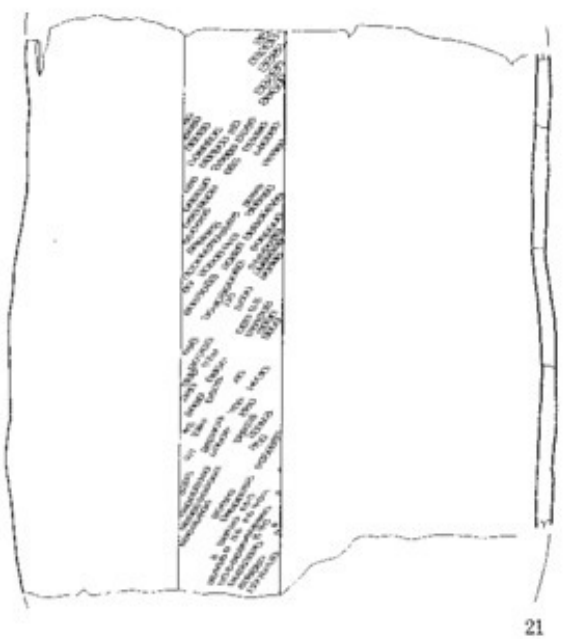
第53図　遺構内出土土器

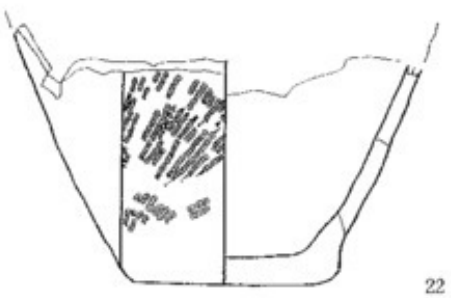








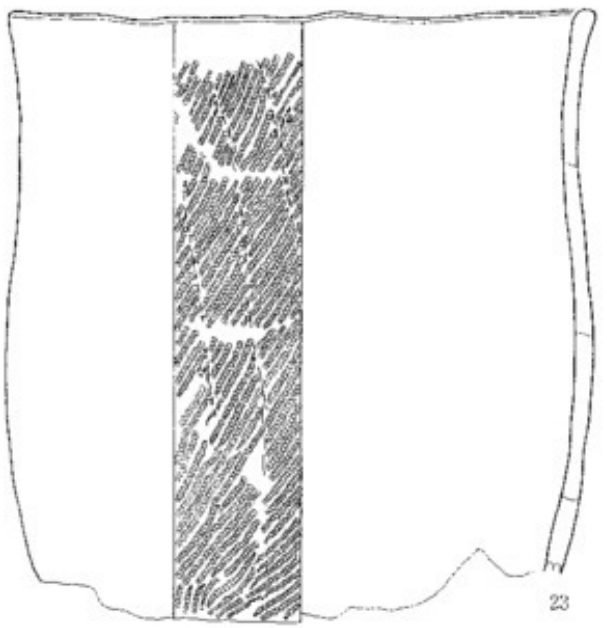


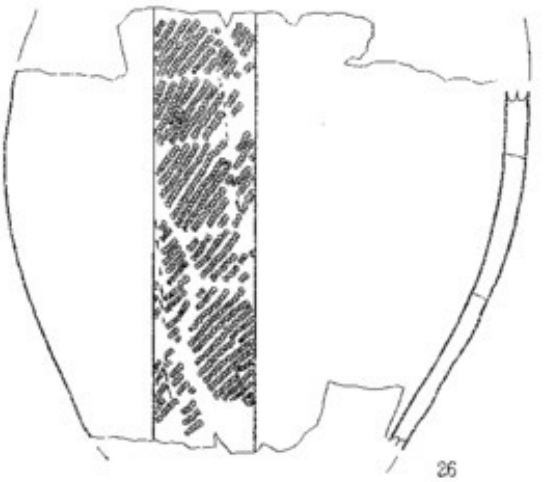


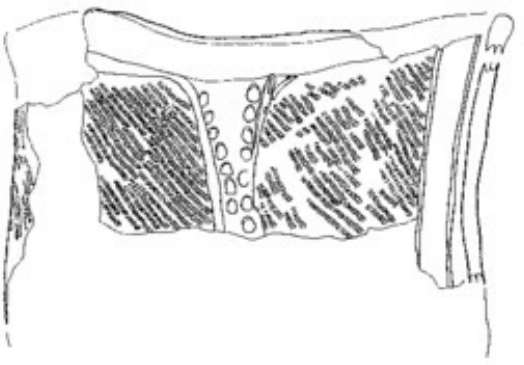
17　13号住居跡炉埋設土器
18　14号住居跡炉埋設土器
19　15号住居跡Ⅰ期炉埋設土器
20　17号住居跡炉埋設土器
21　18号住居跡炉埋設土器
22　20号住居跡炉埋設土器

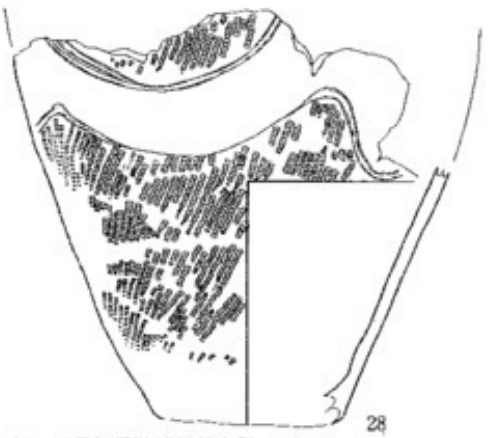
0　10cm

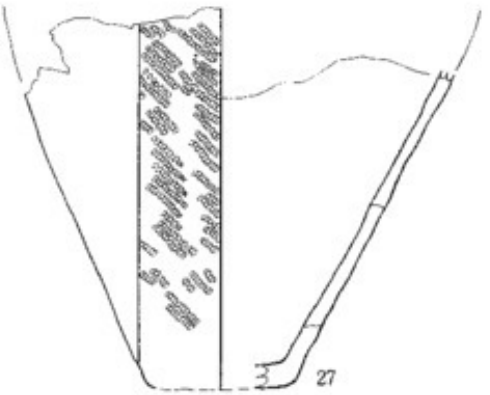
第54図　遺構内出土土器







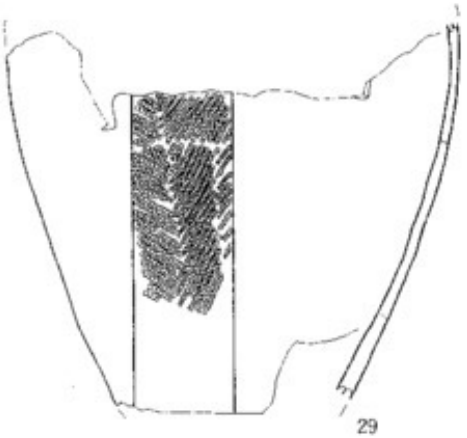




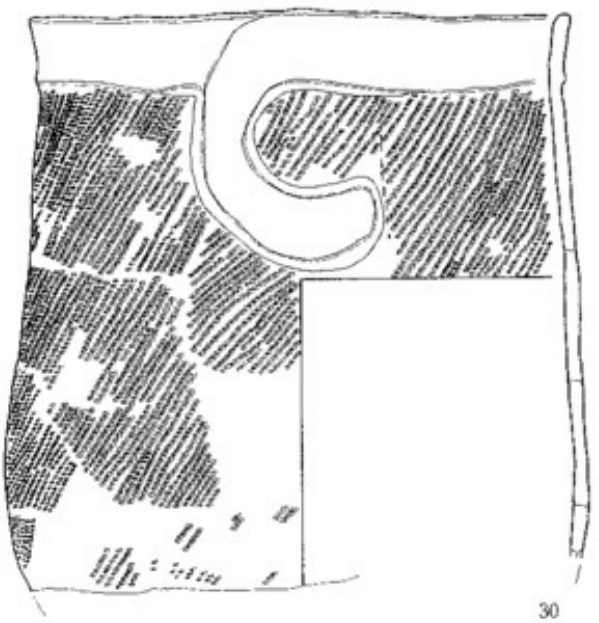
23　19号住居跡炉埋設土器
24　22号住居跡炉埋設土器
25　23号住居跡Ⅰ期炉埋設土器
26　23号住居跡Ⅱ期炉埋設土器
27　23号住居跡Ⅱ期炉埋設土器
28　23号住居跡Ⅲ期炉埋設土器

0　10cm

第55図　遺構内出土土器



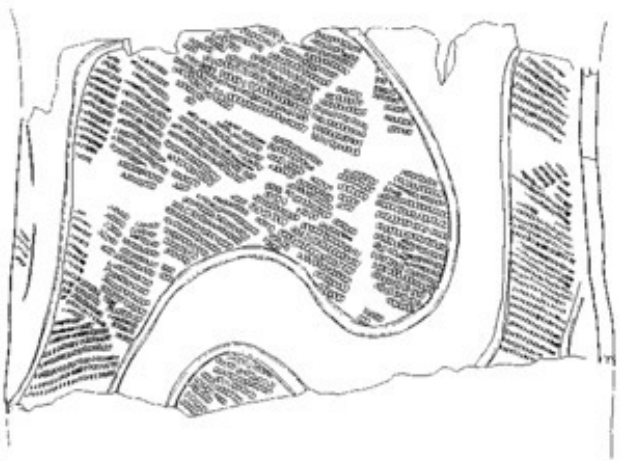
29



30

31

32

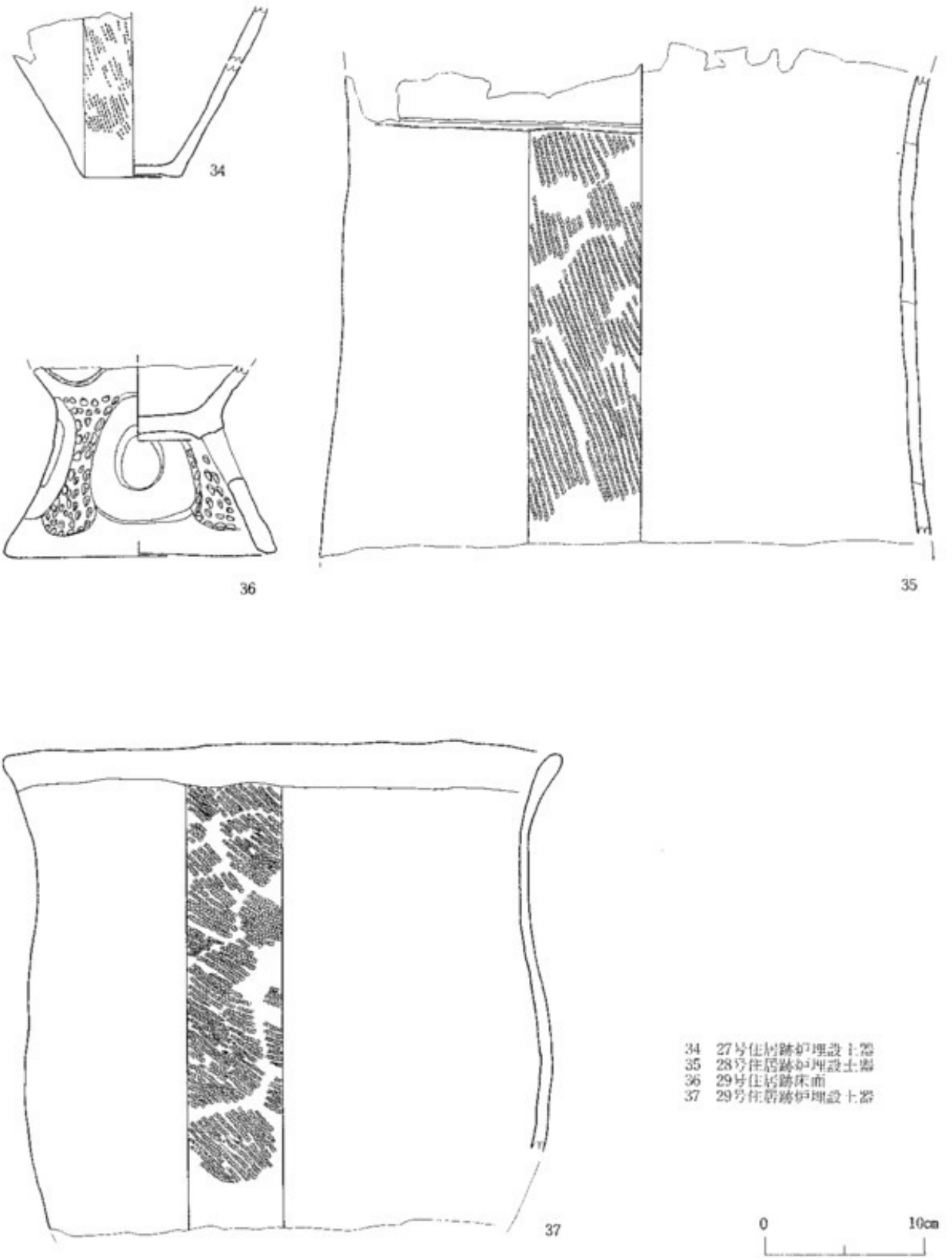


33

29　23号住居跡炉掘り込み部
30　25号住居跡炉埋設土器
31　26号住居跡Ⅰ期炉埋設土器
32　26号住居跡Ⅰ期炉埋設土器
33　26号住居跡Ⅱ期炉埋設土器

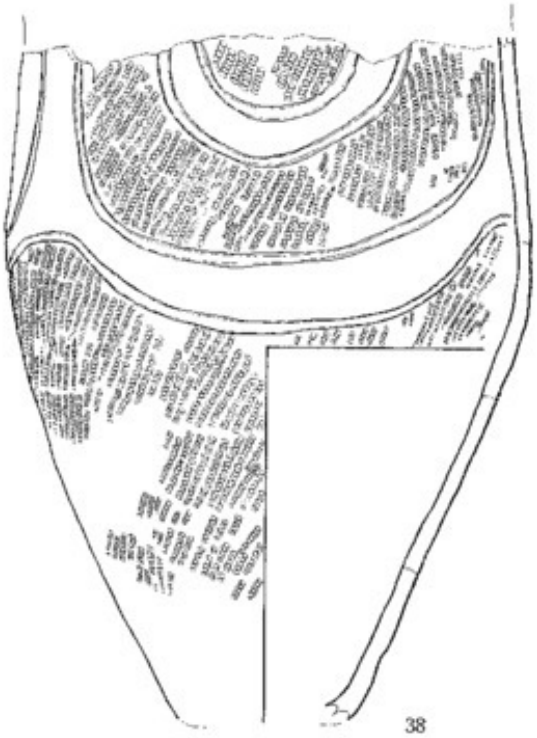
0　10cm

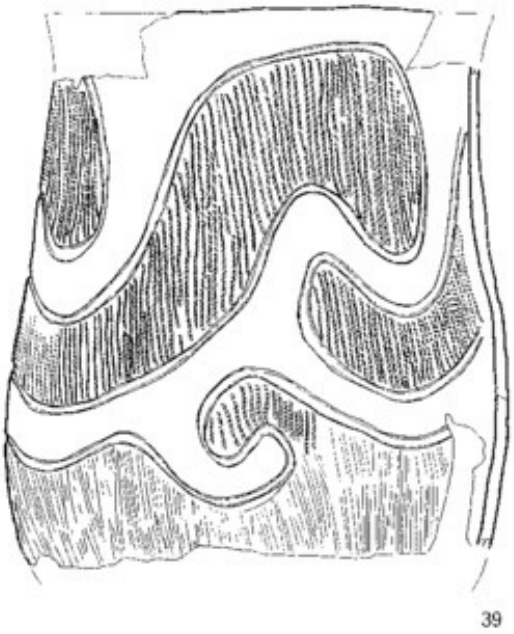
第56図　遺構内出土土器

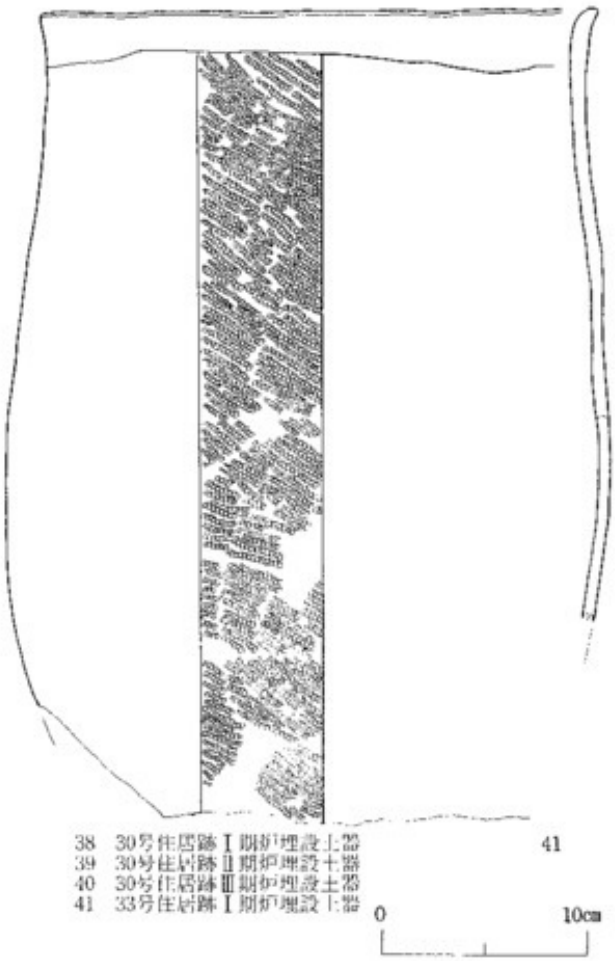


34　27号住居跡炉埋設土器
35　28号住居跡炉埋設土器
36　29号住居跡床面
37　29号住居跡炉埋設土器

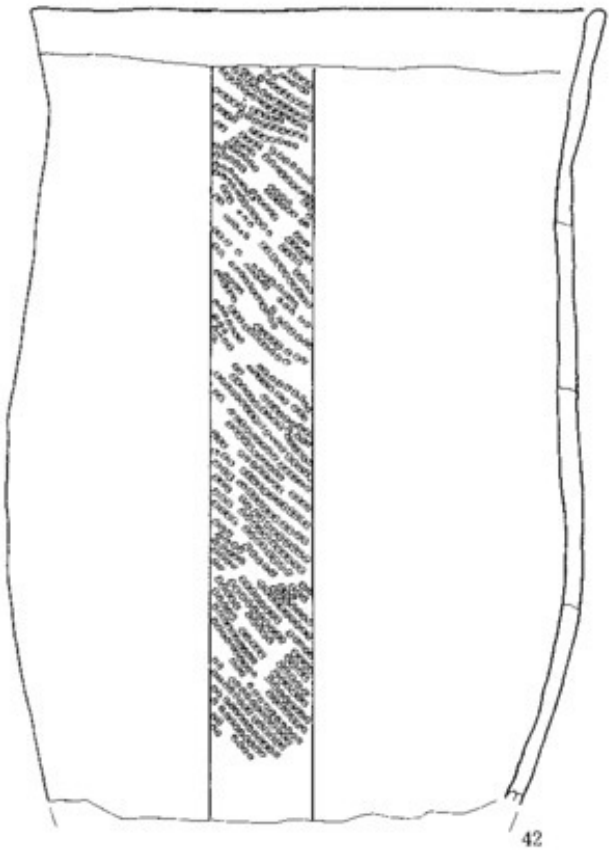
第57図　遺構内出土土器

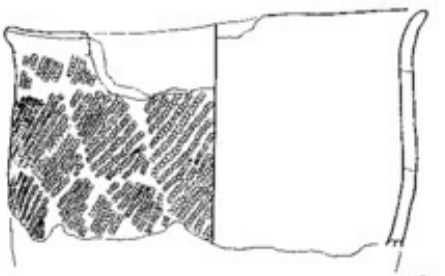


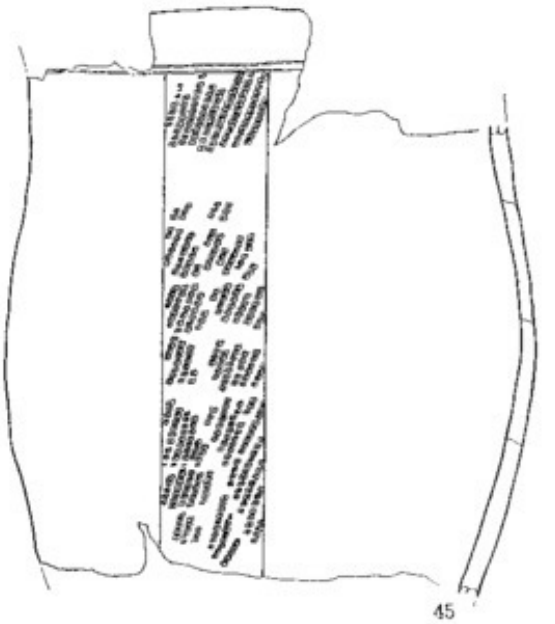


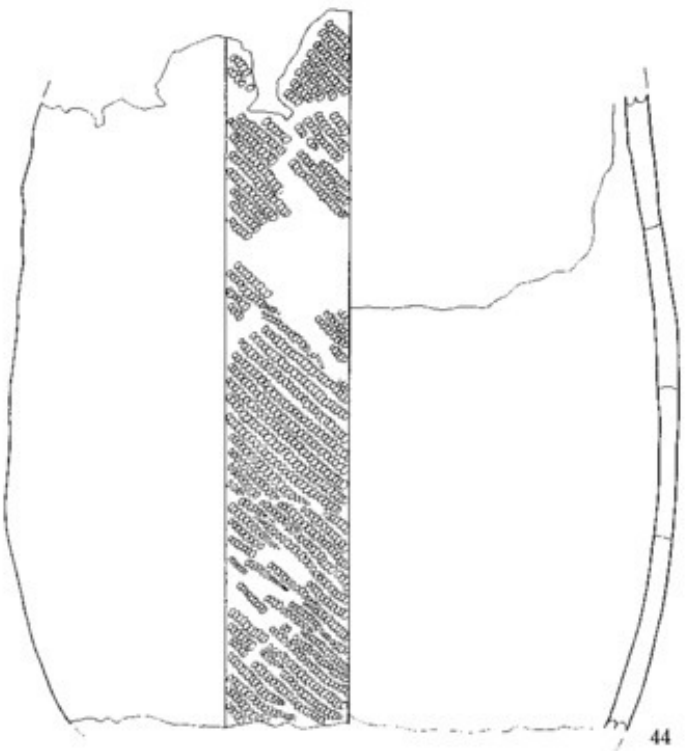


第58図　遺構内出土土器





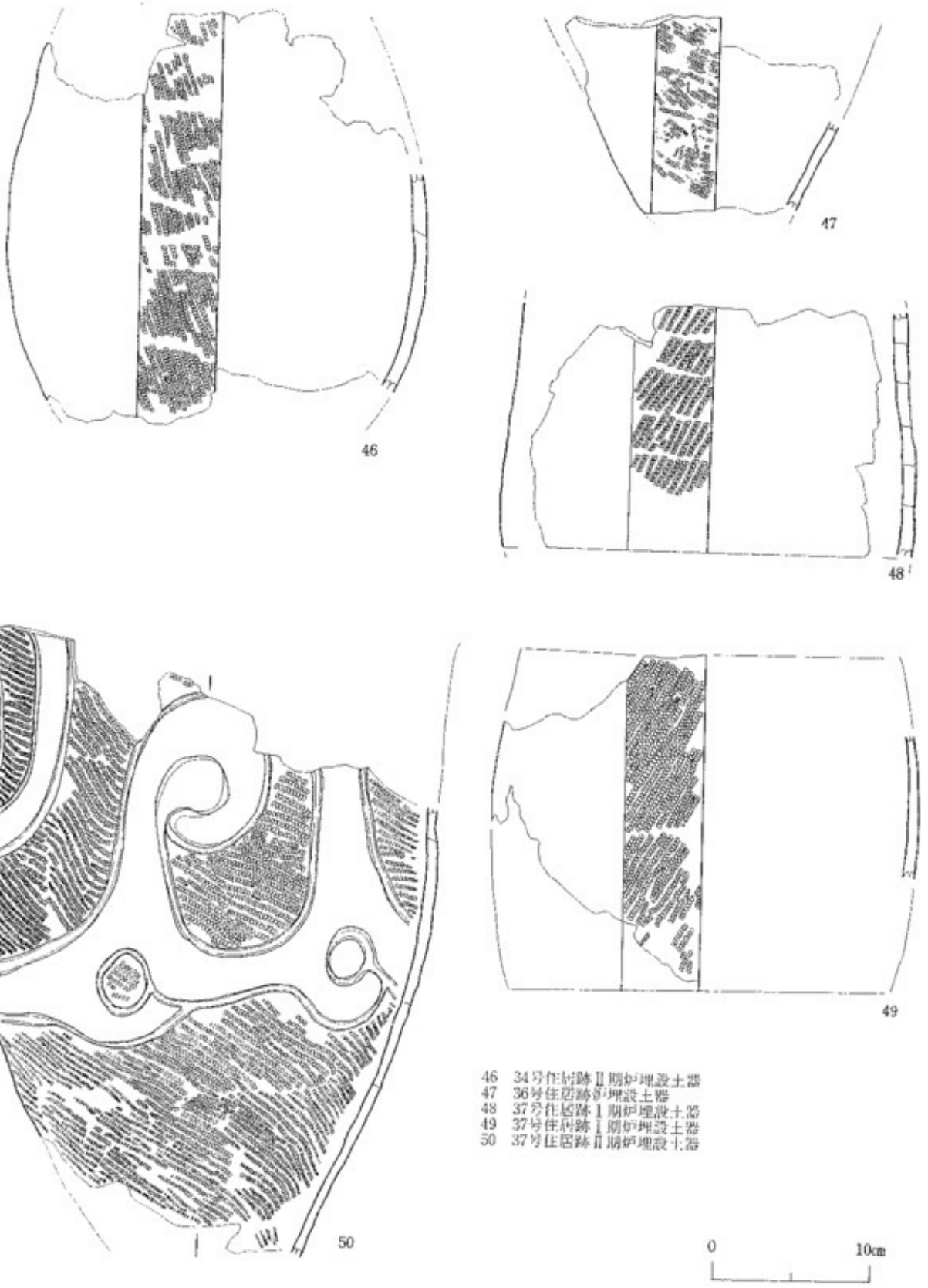




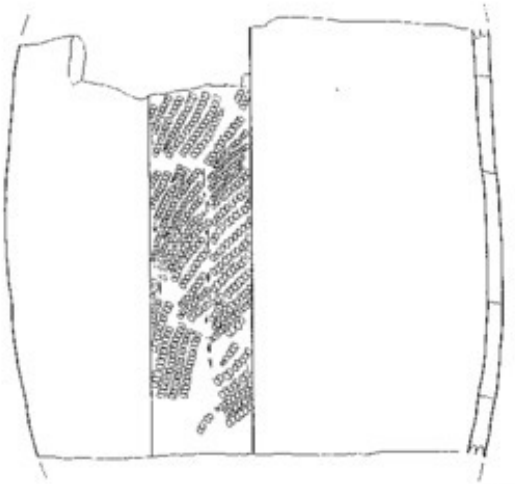
42　33号住居跡Ⅱ期炉埋設土器
43　33号住居跡Ⅲ期炉埋設土器
44　33号住居跡Ⅳ期炉埋設土器
45　34号住居跡Ⅰ期炉埋設土器

0　10cm

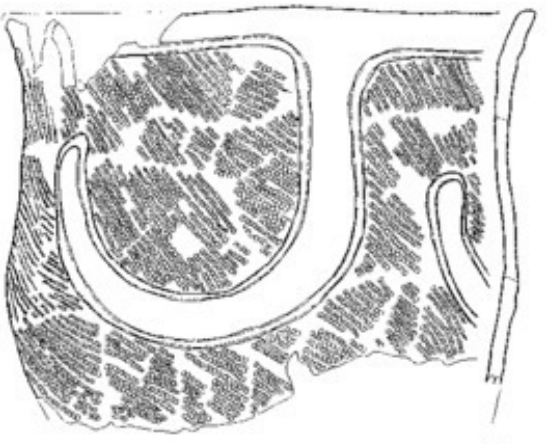
第59図　遺構内出土土器



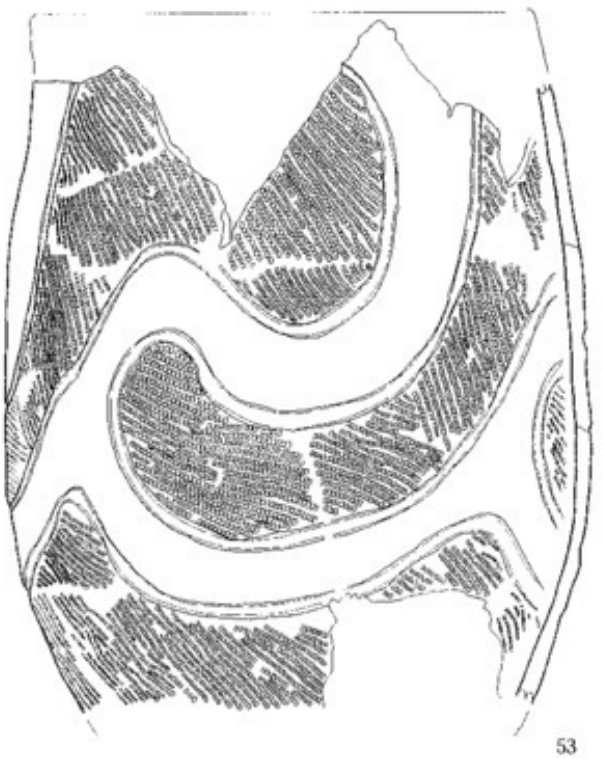
第60図　遺構内出土土器



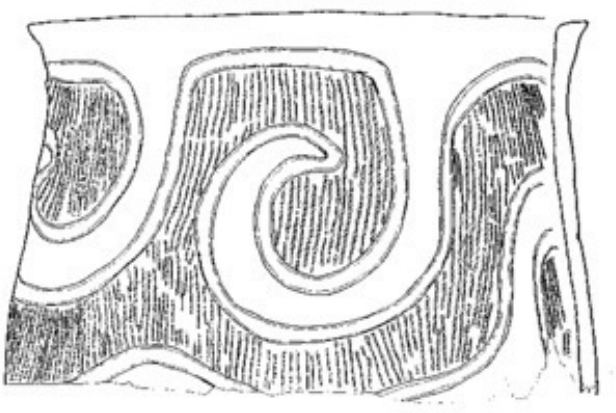
51



52



53

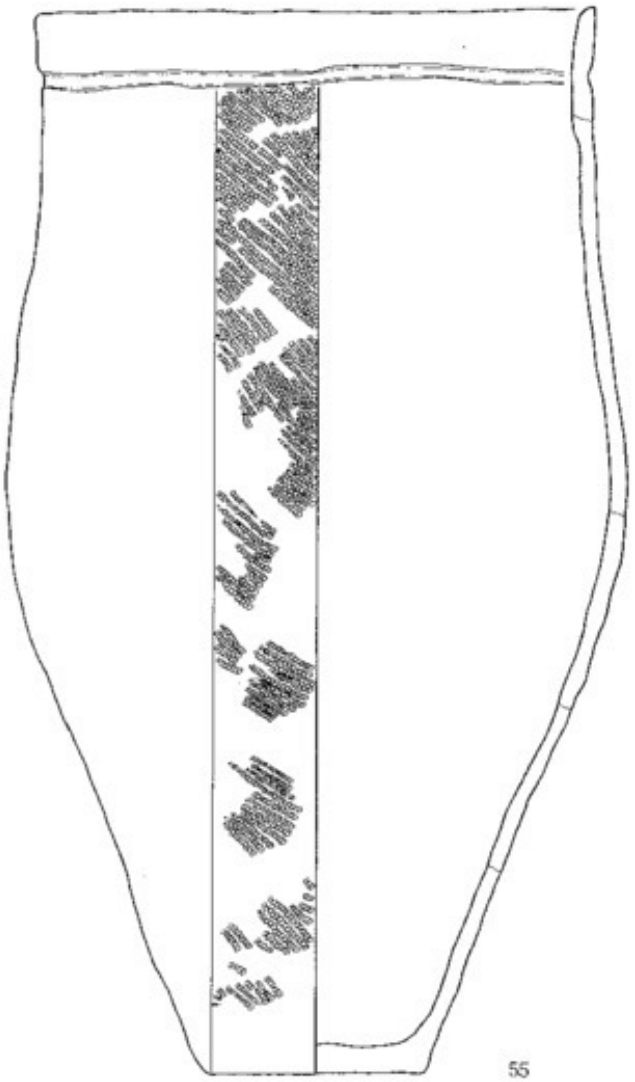


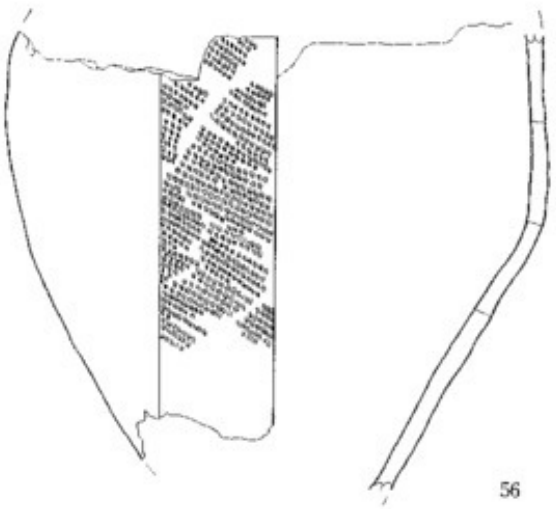
54

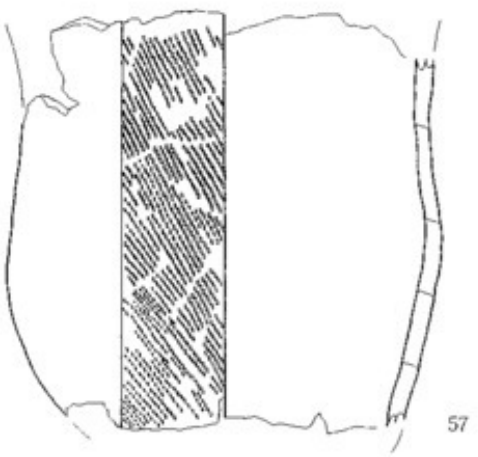
51　38号住居跡炉埋設土器
52　39号住居跡炉埋設土器
53　40号住居跡E炉埋設土器
54　40号住居跡W炉埋設土器

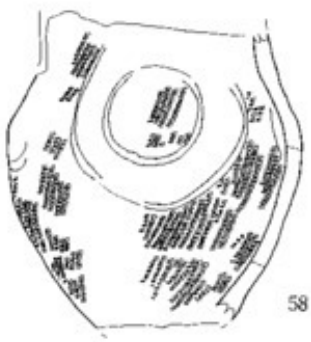
0　10cm

第61図　遺構内出土土器





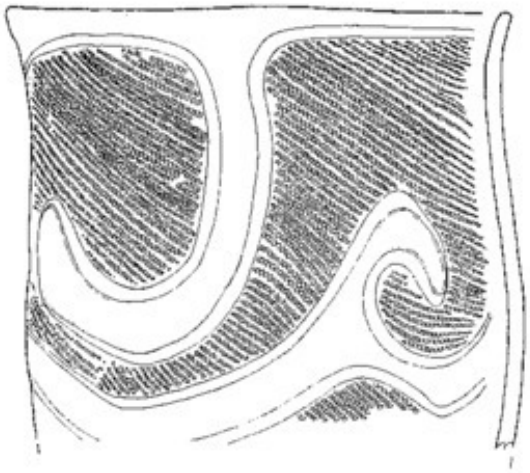




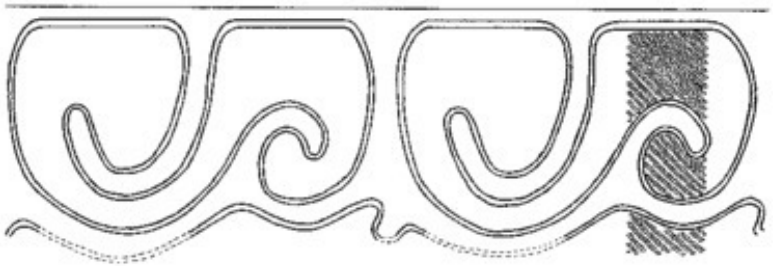
55　40号住居跡床面
56　41号住居跡炉埋設土器
57　43号住居跡炉埋設土器
58　45号住居跡炉埋設土器

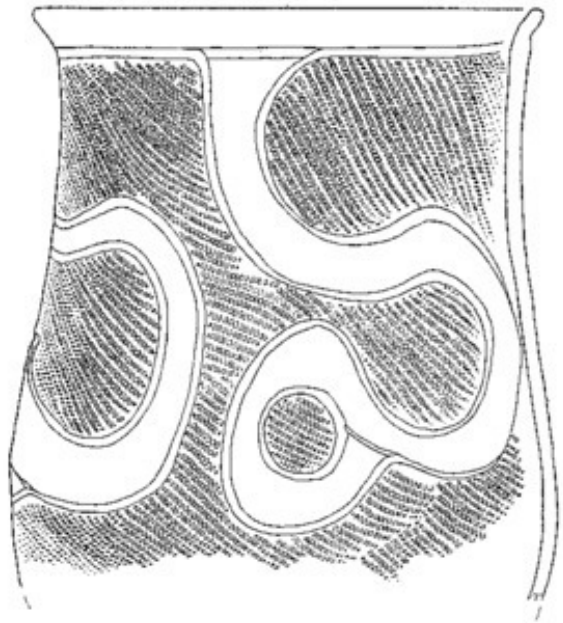
0　10cm

第62図　遺構内出土土器

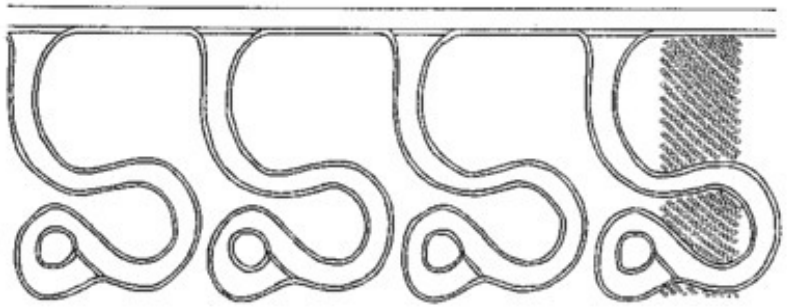


59





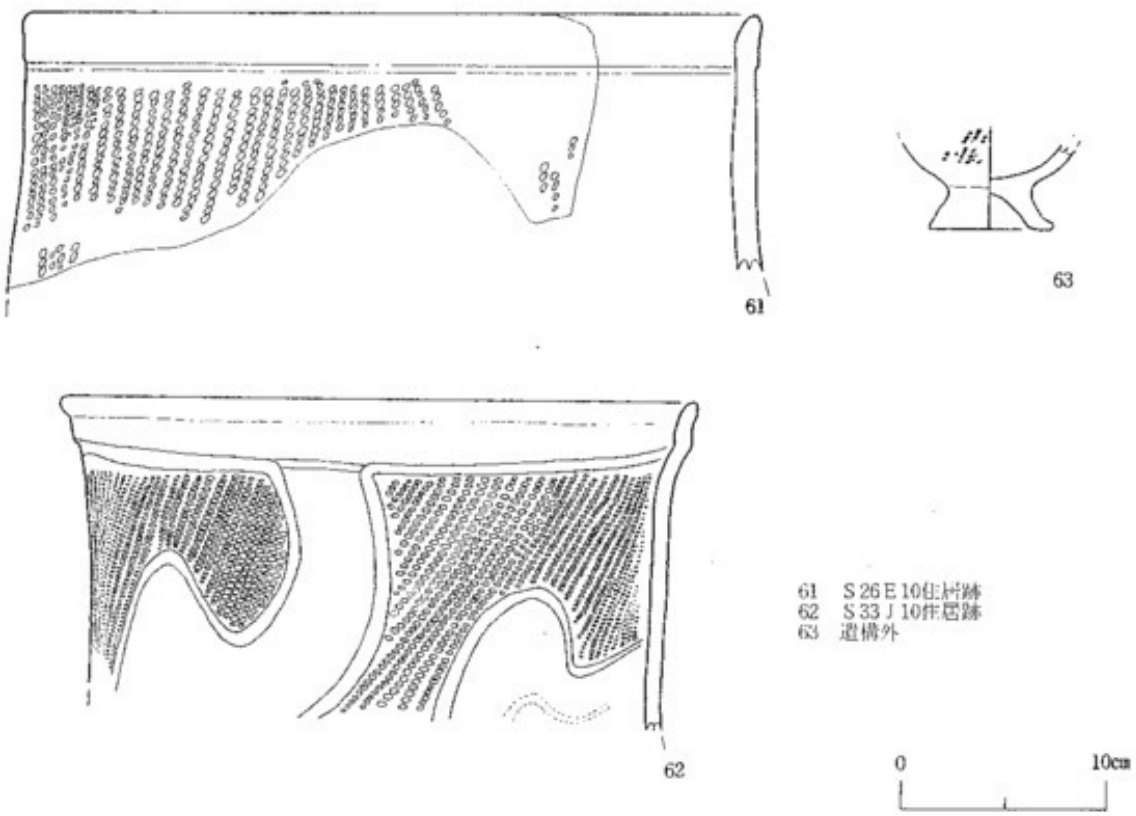
60



59　S34J10住居跡
60　S42J5住居跡（昭和62年調査、1号住居跡）

第63図　昭和47年、下堤遺跡B地区出土土器

0　10cm



第64図　昭和47年、下堤遺跡B地区出土土器

298 ～ 303 は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯で文様が施され、301 ～ 303 は口縁部磨消帯に円形刺突文が施されている。

3号フラスコ状ピット出土遺物

土器（第 75 図）

305 ～ 313 は覆土から出土した。沈線区画の磨消帯で文様が施される。310 は円形刺突文が施される。

石器（第 80 図）

64 は覆土から出土したくぼみ石である。

9号土壙出土遺物

土器（第 75 図）

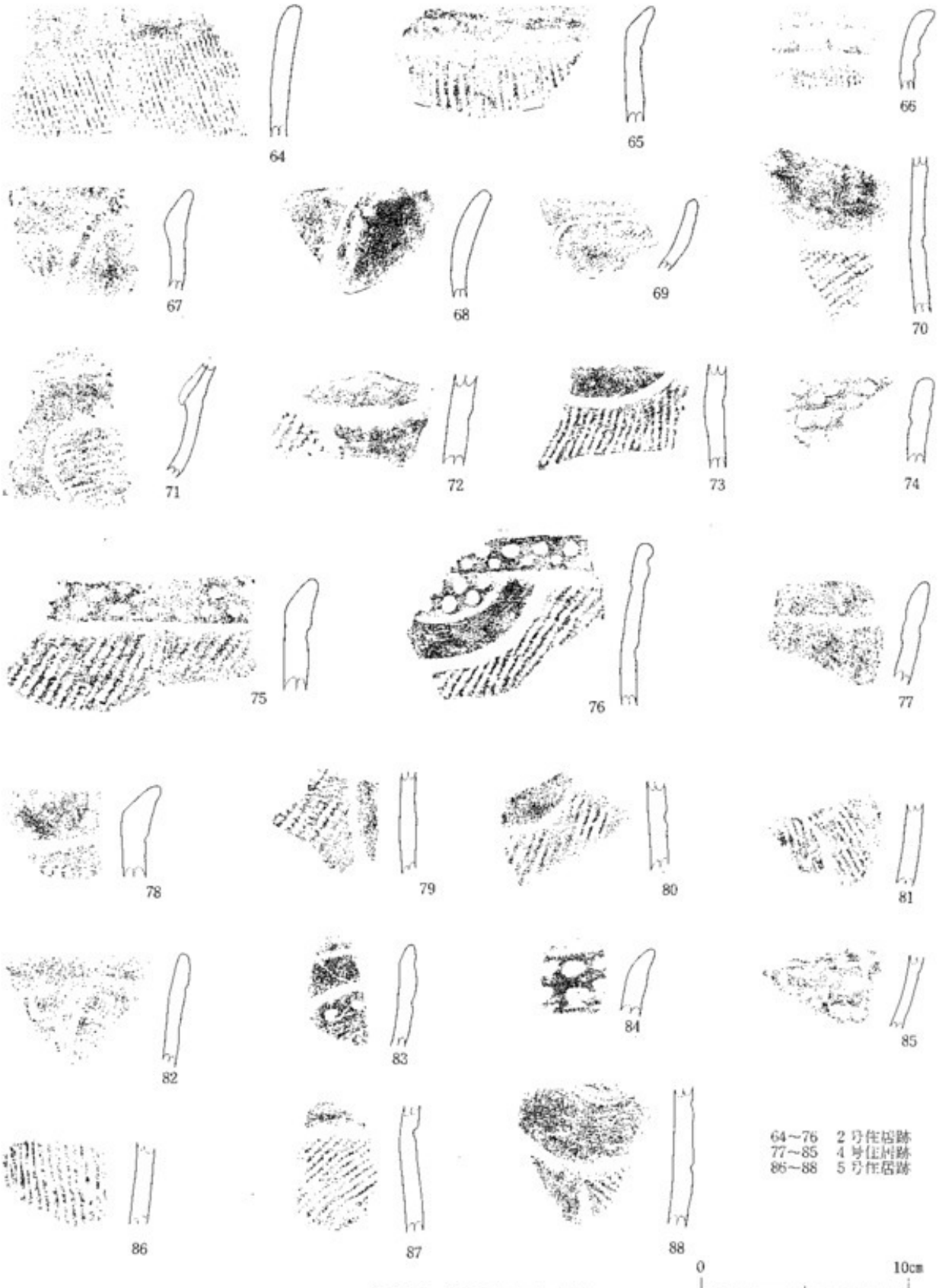
304 は覆土から出土した。口縁部が磨消無文帯で地文は撚糸文である。

遺構外出土遺物

本遺跡は、中央部から北部にかけて黒土採取のため、ブルドーザーによってローム面まで削られており、遺物の出土量は少ない。整理用コンテナで 5 箱程である。

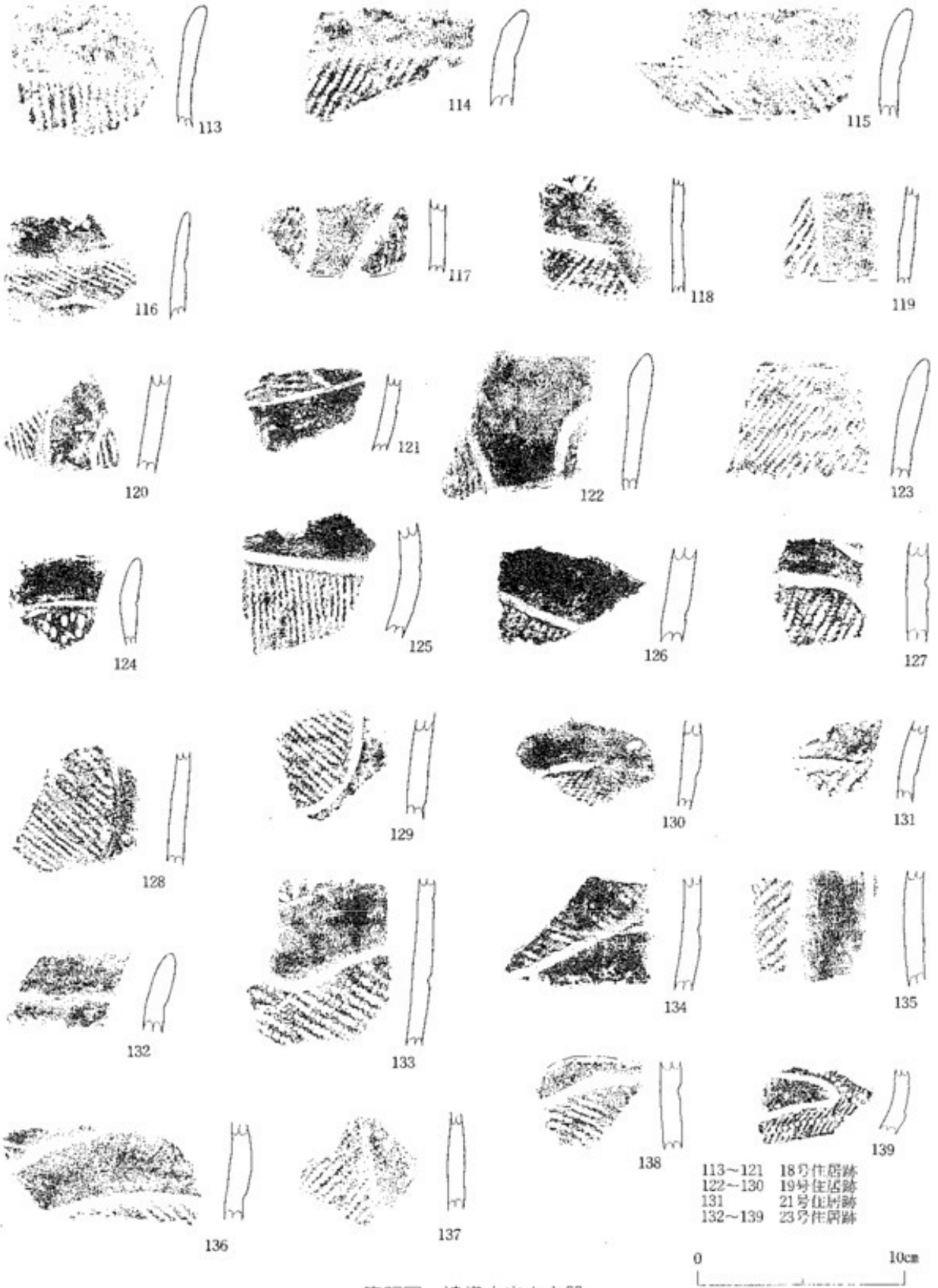
土器（第 81 図）

325 ～ 332 は口縁部破片で沈線で区画され、口縁部は磨消無文帯である。333 ～ 343 は体部破片で

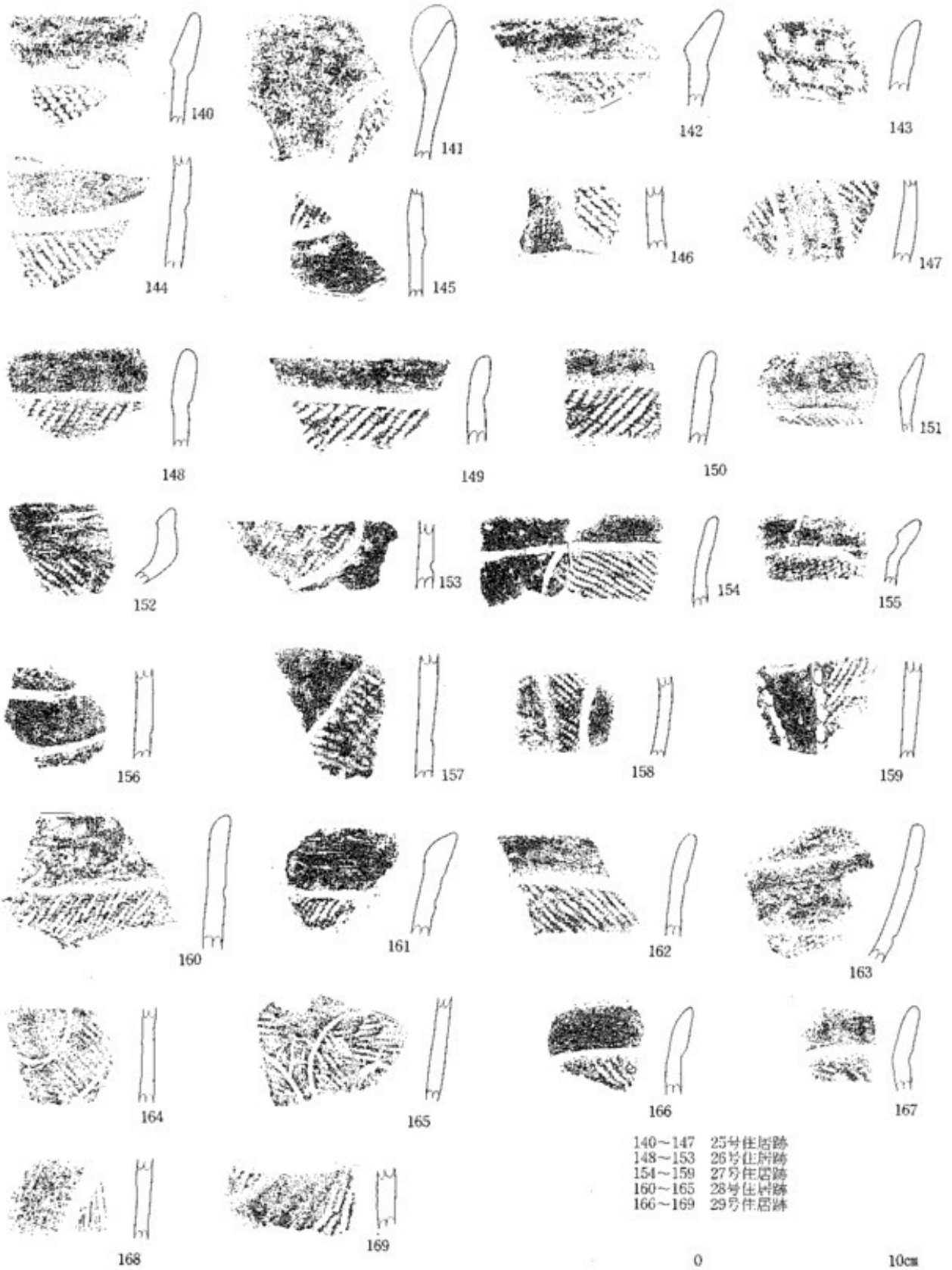


第65図　遺構内出土土器

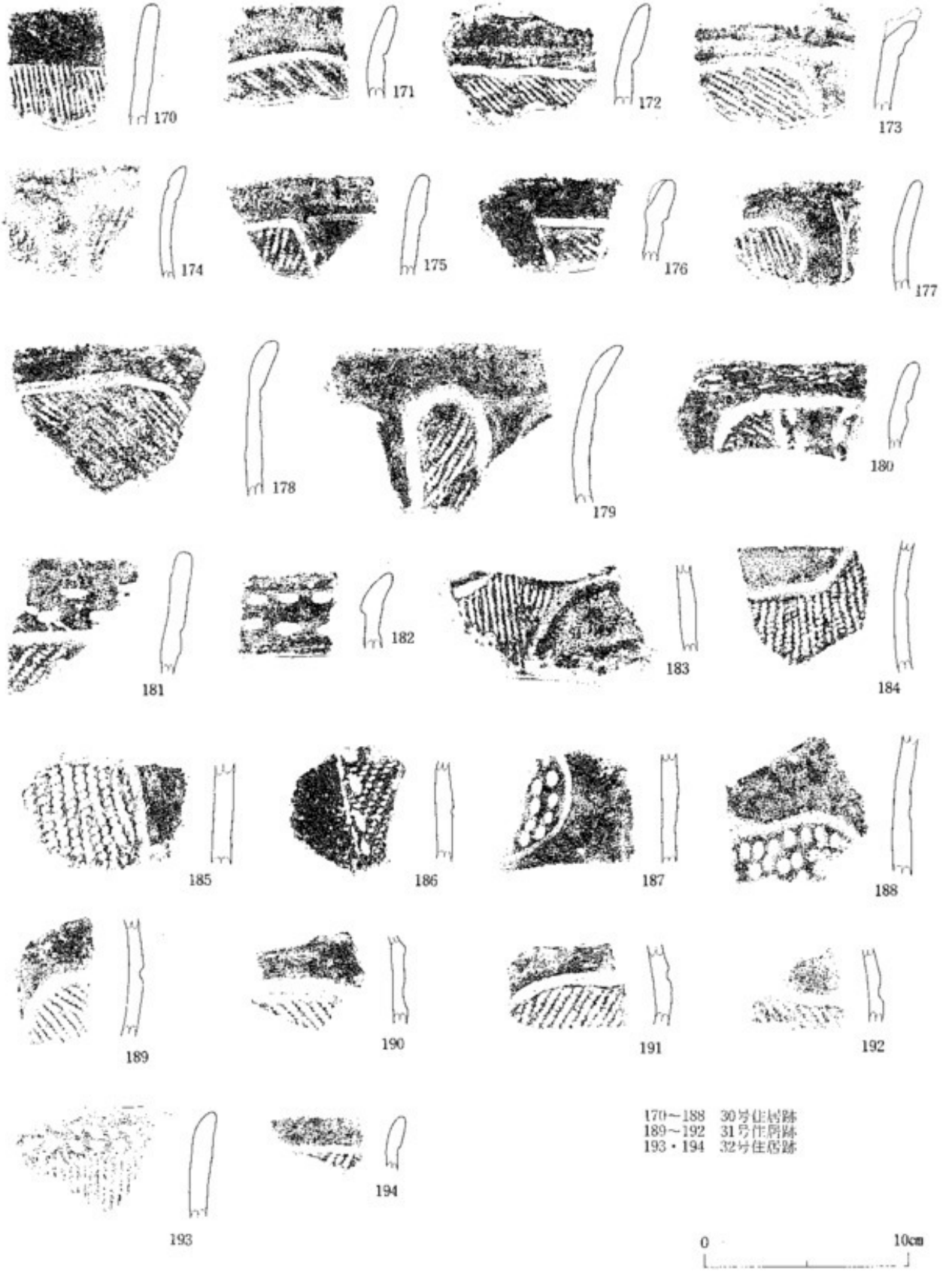
第99図　遺構内出土土器



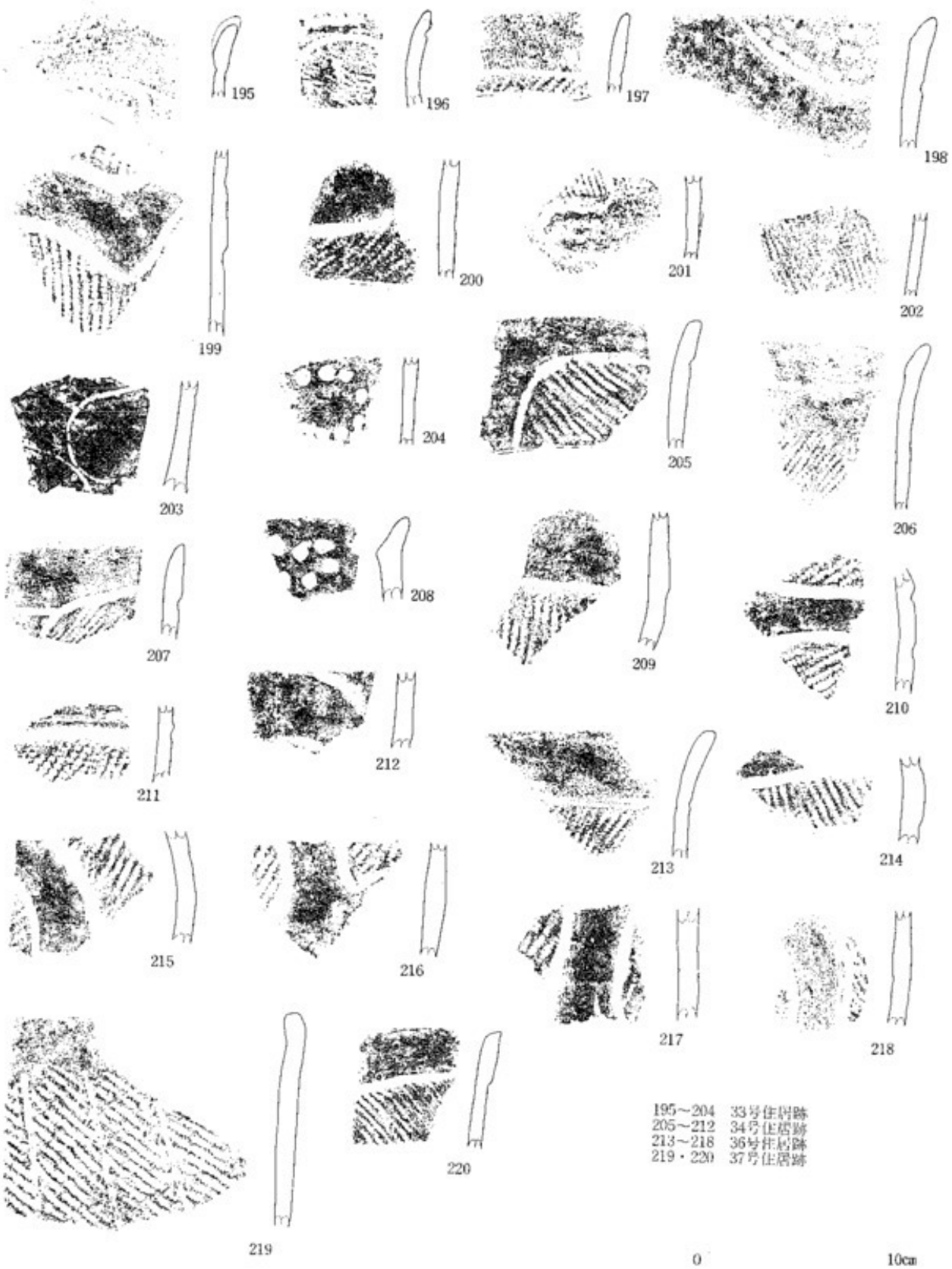
第67図　遺構内出土土器



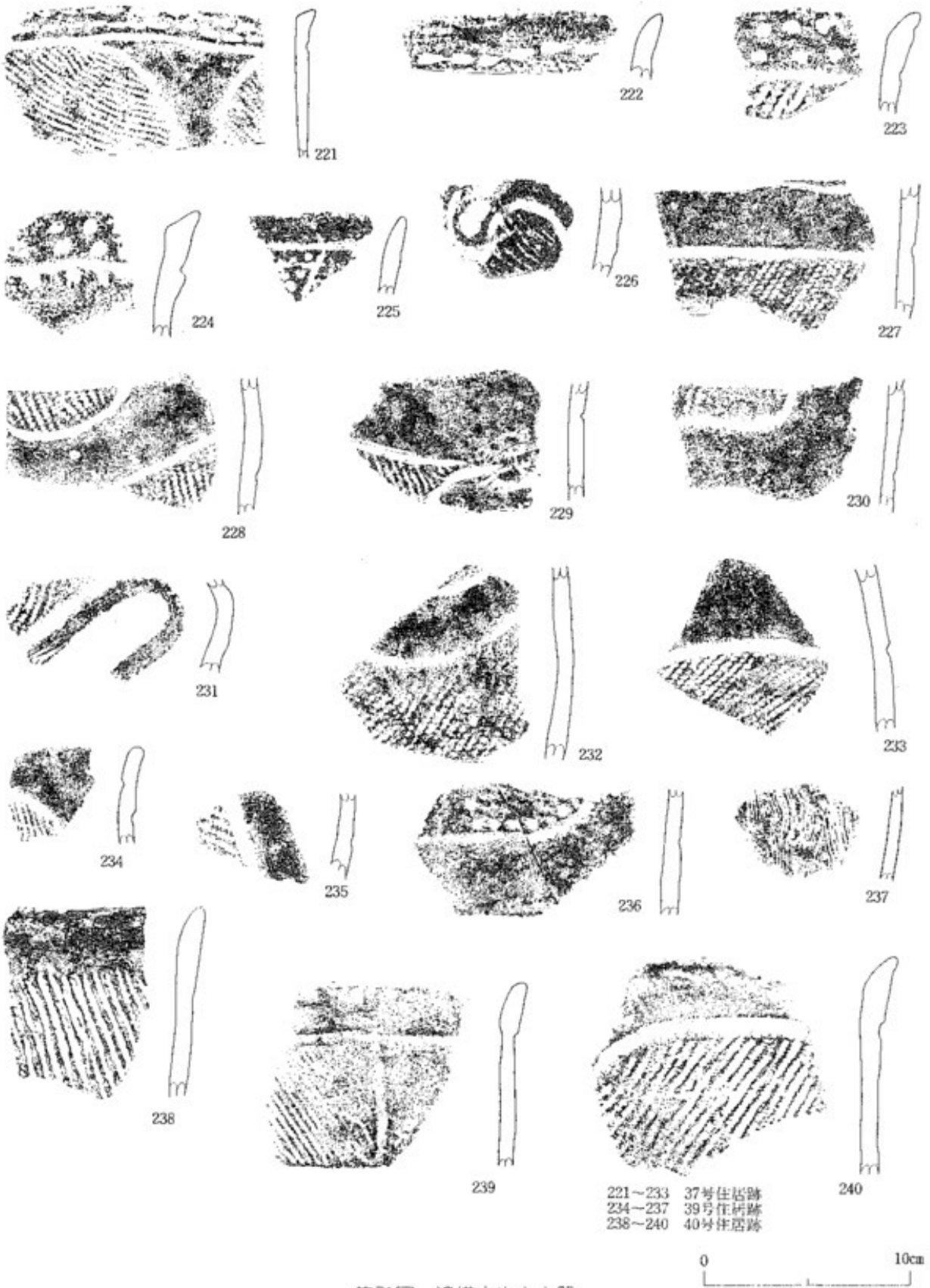
第68図　遺構内出土土器



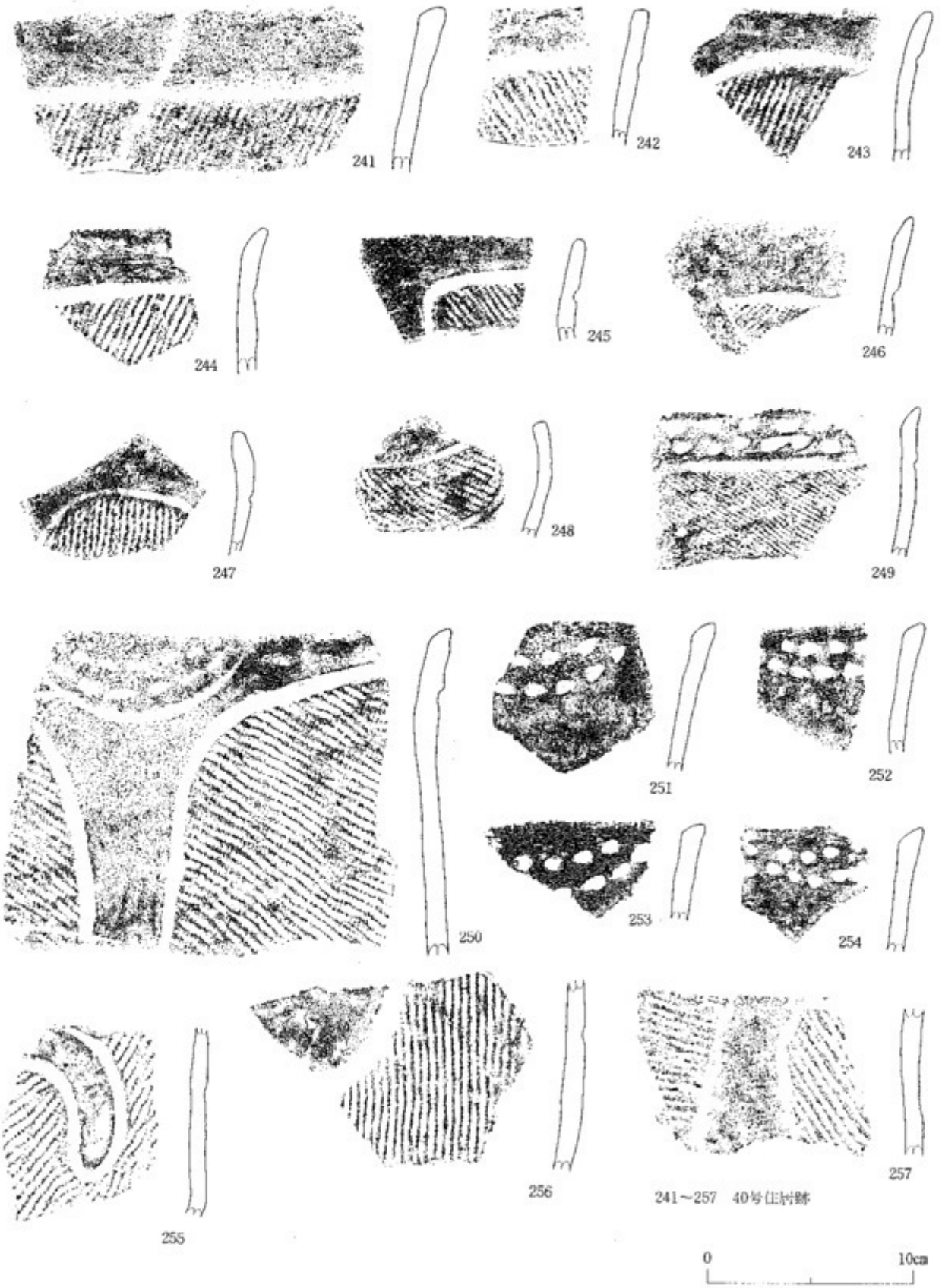
第69図　遺構内出土土器



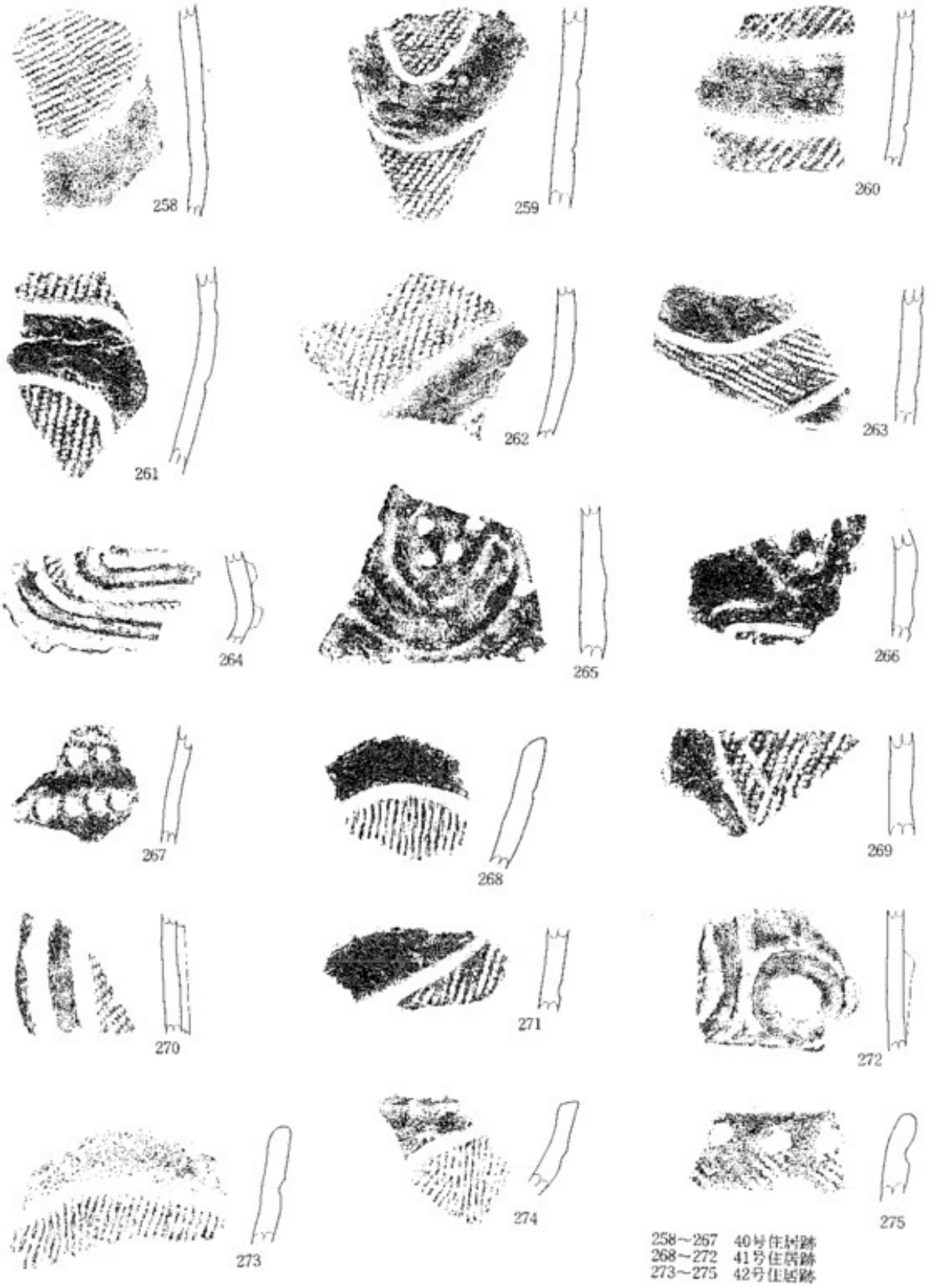
第70図　遺構内出土土器



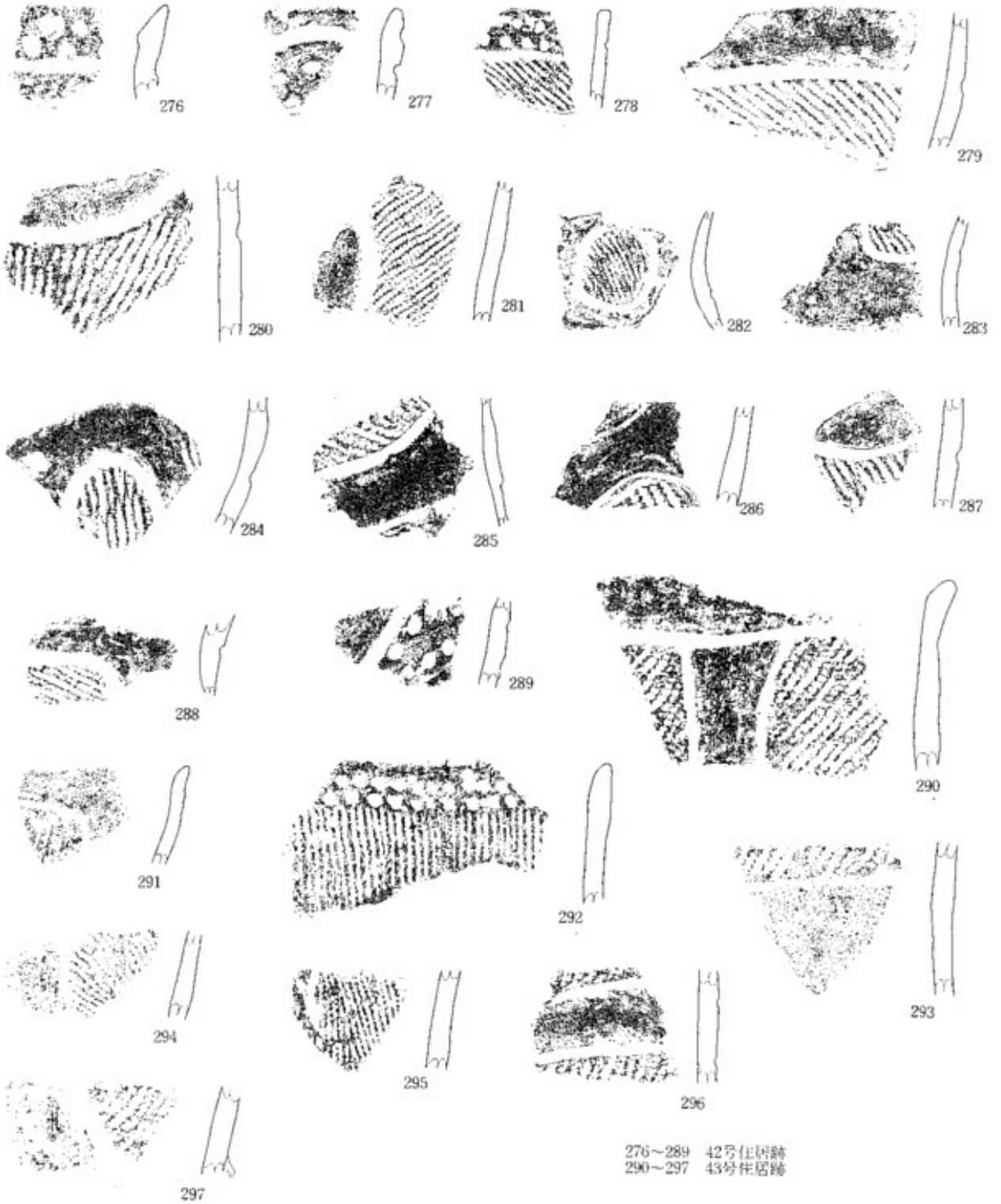
第71図　遺構内出土土器



第72図　遺構内出土土器



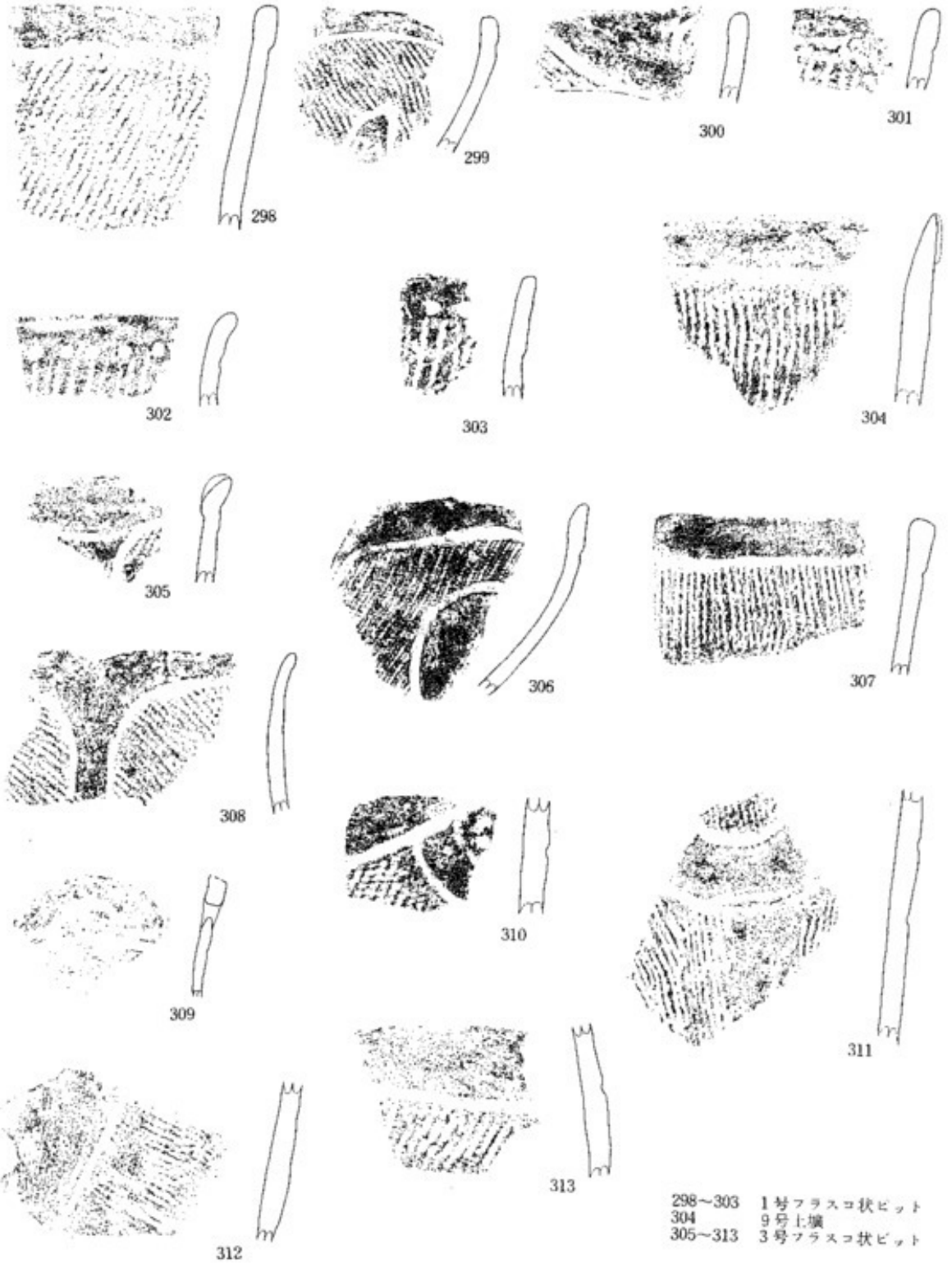
第73図　遺構内出土土器



276～289　42号住居跡
290～297　43号住居跡

0　10cm

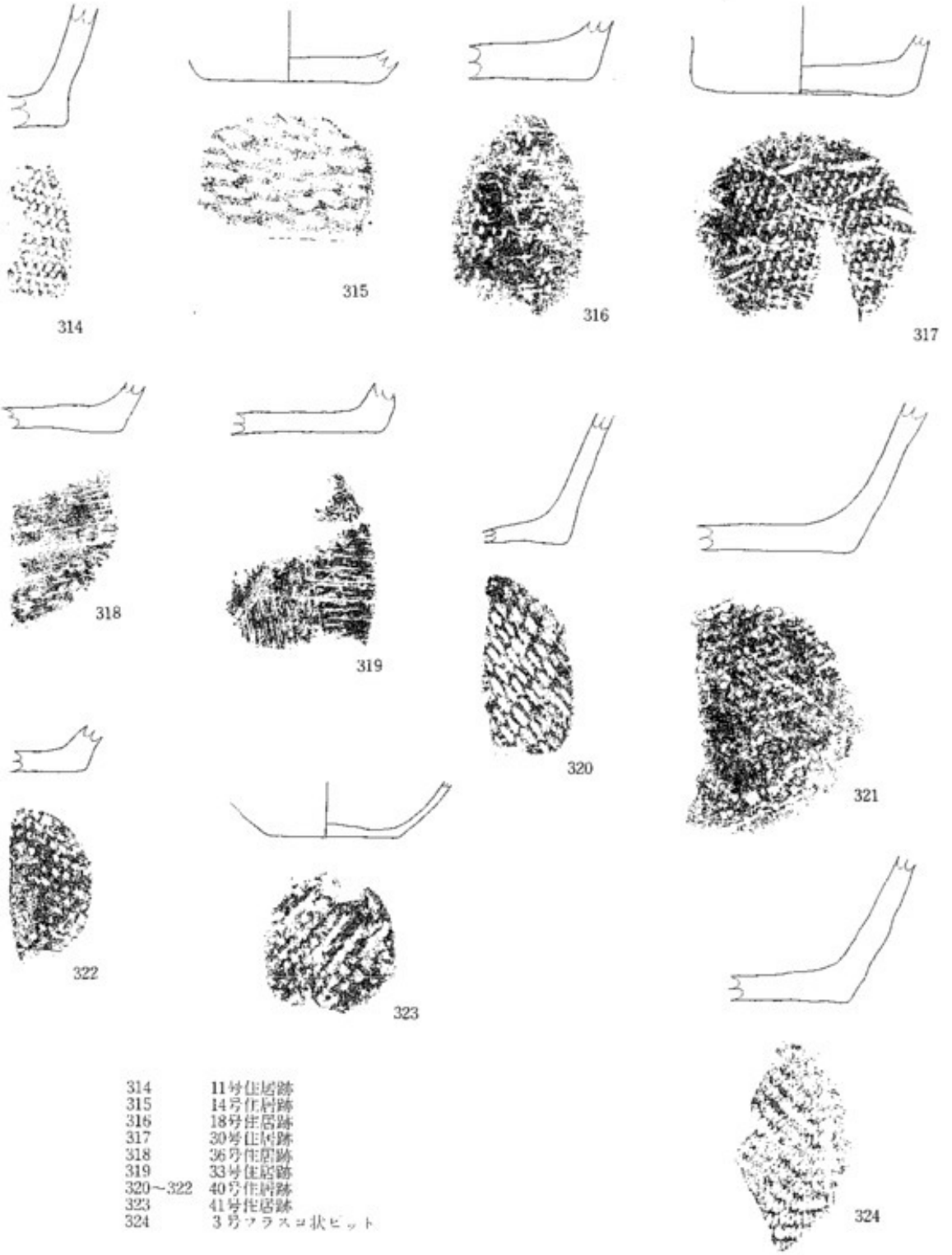
第74図　遺構内出土土器



298～303　1号フラスコ状ピット
304　9号土壙
305～313　3号フラスコ状ピット

0　10cm

第75図　遺構内出土土器



314	11号住居跡
315	14号住居跡
316	18号住居跡
317	30号住居跡
318	36号住居跡
319	33号住居跡
320～322	40号住居跡
323	41号住居跡
324	3号フラスコ状ピット

0 10cm

第76図　土器底部